

湘南ひらつかキャンパスにおける 学校ボランティア活動とその意義

鈴木そよ子

はじめに

神奈川県湘南ひらつかキャンパスでは、教職課程を履修している学生が、学校ボランティア活動を行ってきた。2008年11月から2010年度後期現在まで、授業のない時間帯や休暇中を活用して、小学校における教育活動全般の補助を継続している。

今年度は、教員がボランティア活動に直接かわる最後の年になるという意味で区切りの年でもあり、本稿では、これまでの全体的報告を行い、活動を通して把握できた学校ボランティアの意義について考察する。

近年の教員採用試験では、提出書類の一項目として学校ボランティア経験の有無と、活動から学んだことを記述することが求められるようになった。それほどに学校ボランティア経験が重視されるようになってきている。

にもかかわらず、本キャンパスの教職課程を履修している学生には授業期間中の学校ボランティア活動を困難にする2つのハードルがあった。それは、履修者の多くを占める理学部の学生が、ボランティア活動のために平日の1日を空けることが難しいという点であり、重ねて、本キャンパスと他の地域との交通の便が悪いという点である。

本稿では、このような状況の中で、学校ボランティア活動を行えるようになった経緯と、継続的に実施できるためにとった手だて、そして、ボランティアの活動内容、ボランティア活動報

告の方法、学期ごとのまとめのとしてのレポート集の作成、長期休暇中の活動、ボランティア活動通信づくりについて報告し、最後に教員養成の立場から見た学校ボランティア活動の意義について、11項目をあげる。

1. 学校ボランティア実施に至るまでの経緯

理学部の3年次配当科目としてキャリア形成科目「インターンシップ準備演習」がある。この科目で学校インターンシップを実施しており、2008年9月に平塚市立みずほ小学校訪問を依頼された。みずほ小学校では、9月上旬から中旬の2週間、学生1名がお世話になっていた。当該学生が教職課程を履修中の学生でもあったため、私に依頼されたのだった。

みずほ小学校の規模は、2008年度でみると、全校生徒数229名、1年生2クラス、2～6年生1クラスの構成であった。落ち着いた学校であった。

みずほ小学校を訪問して学校長と話した際に、学生が教育活動全般の補助を積極的に行い、大変助かっていると感謝された。そして、教職課程の学生たちに、継続的に学校に来てもらいたいという依頼を受けた。

この時点では、中・高等学校教員免許取得のための教職課程を履修している学生が、継続的に小学校の教育活動に関わるイメージを、私は持てていなかった。そして、理学部の学生には、ボランティア活動に使えるまとまった時間がな

いこともわかっていた。だが、学生が学校ボランティアを経験できる貴重な機会をなんとか生かしたいという思いを強く持った。

他方、ボランティアに対する本学の取り組みを見ると、本学にはボランティア支援室があり、湘南ひらつかキャンパスにも一部屋設けられており、担当する学生もいた。だが、実質的には活動停止状態であった。その学生たちの要請で、教職課程の授業中に時間をとって、ボランティア活動について説明をしてもらっても、ボランティア活動に登録する学生はいなかった。そのため、ボランティア支援室にみずほ小学校からの要請を伝えても、実行される見通しはなかった。

2. 2008年11・12月

—「総合演習Ⅰ」の受講学生の有志による 昼休み活動

学生に趣旨が伝わりやすい方法を模索した結果、2年次配当科目「総合演習Ⅰ」で鈴木クラスを選択した学生に、みずほ小学校からの依頼について直接話すことにした。この企画の実施如何を彼らの判断に委ねようと考えた。12名のうち、10名がボランティアを申し出た。有志2名も加わり、12名が始めることとなった。

大学とみずほ小学校の距離は、車で10分だが、歩くと50分かかり、直通のバス等の公共交通機関はない。

2008年11・12月は、大学の昼休みと小学校の昼休みの重なる時間帯にローテーションを組んで、月曜日から金曜日まで毎日3～4名の学生が、大学とみずほ小学校を往復した。12時40分に大学構内の待ち合わせ場所に集まり、一台の車に乗って小学校に向かった。小学校の活動時間帯は12時55分～13時45分。昼休みの子どもたちの遊びに加わり、清掃活動を手伝い、大学に戻り、また大学で授業を受ける。

ボランティア活動として、まず昼休みの遊びから始めたのは、前後の脈絡がなくても参加しやすいと考えたからであり、また、当時のみず

ほ小学校の先生方の平均年齢が50歳を超えており、子どもたちの遊びに加われる若者が求められていたからだった。そして、私としては、学生が小学生と関われるのかどうかを見定めなければならなかった。

活動を始めるにあたって、教職課程指導室でソフトタイプの名札を用意し、学科・年次・ひらがなの氏名を印字したものを、活動終了まで小学校の職員室に預けた。学生には体育館用シューズを持参させ、玄関からそれを使用させた。私はみずほ小学校の年間行事計画表と月間予定表をもとにして、資料1「みずほ小学校 昼休み活動 (12:55～13:45) 11月 日程表」を作成し、学生も小学校の先生方も確認できるようにした。

「総合演習Ⅰ」の授業とは別の、いわばオプションの活動であるにも拘らず、学生たちは休むことなくやり遂げ、小学校からはとても感謝された。そして、校長先生から1月以降のボランティア活動継続の希望があった。

3. 2009年2・3月

— 春季休暇中の2年次生27名

2年次生は1月に行われる「教育実習計画説明会」に参加する。これは、3年次で行う教育実習内諾依頼の事前説明会である。ここで学校ボランティア説明会の案内をして、1月9日に希望者を対象とした説明会を実施した。説明会に40名が参加し、27名がボランティアを申し込んだ。

説明会では、資料2「みずほ小学校ボランティア活動について」を配付して説明し、参加希望者は、資料3「平塚市立みずほ小学校ボランティア参加希望予定表」に記入して、申込期間内に教職課程指導室に提出することにした。

この参加希望を受けて、学校長と相談し、一日中あるいは午前と午後の人数を調整した。

こうして確定した日程表は、私の研究室に一人ひとりが受け取りに来る。その際、参加が確定した学生向けの資料4「みずほ小学校ボラン

ティア参加者へ」にもとづいて詳細な説明をし、参加に際しての心構えと注意事項を再確認した。そして、資料5・6「平塚市立みずほ小学校ボランティア参加者一覧表」（2009年2月）（2009年3月）と資料7・8「平塚市立みずほ小学校ボランティア参加スケジュール」を手渡した。これらは、小学校にも届け、小学校では学生が担当するクラスを書き込んで掲示用に使用して下さった。

大学は春期休暇中であるため、学生たちは、自宅から直接みずほ小学校に通い、日々の授業をはじめとする多様な教育活動の補助、児童の遊び相手、学校行事や先生方の研究授業への参加、校内の環境整備、農作業等の全般的な手伝いをした。

昼食は2月から小学校でいただくことにした。午前の部の参加者は給食を終えて昼休みを子どもたちと一緒に過ごして終わる。午後の部の参加者はまず給食をいただいて始める。一日通しての参加者はもちろんクラスで給食をいただく。

こうすることが学校にとっても参加者にとってもいいと判断した。給食費は1食222円。一月ごとに月初めに持参する。学校が発注するのは前月の半ばなので、それまでに参加者一覧表で必要な食数を確認して発注できるようにした。これは、その後も継続している。

保険については、教育実習に匹敵する「学研災付帯賠償責任保険Bコース」に大学で入ることになった。ただ、有志で参加し、当該年度に教育実習にも、介護等体験にも行かない学生については、各自が学生課で保険料210円を支払い、加入することにした。

この2・3月のボランティア活動のみずほ小学校の先生方、児童、保護者の方々からとても評判がよく、ぜひ2009年度も継続してほしいという依頼を受けた。

4. 2009年4月～2010年3月

- 「総合演習Ⅰ」としての取り組み
- 平塚市立土屋小学校への広がり

2009年度の大学の授業期間も実施してほしいというみずほ小学校からの依頼を引き受けることは、湘南ひらつかキャンパスの交通の不便さと、学生の空き時間の少なさという課題を克服しなければ、できないことだった。さらに、4月下旬には、キャンパスに隣接している土屋小学校の校長が、ボランティア学生を受け入れたいと申し出て下さった。受ける場合、学校の増加にも対応する必要が生じた。

平塚市立土屋小学校は大学の敷地に隣接している小学校で、1学年1クラス全校生徒100名前後のアットホームな小学校である。

2008年11・12月と春期休暇中の実績として、学生が熱心に取り組み、彼らが多くを学んでいることもわかってきたので、何とか継続したいと考えた。

まず、4月に行われる教職課程のガイダンスで、学校ボランティアの説明会について案内し、鈴木クラスの「総合演習Ⅰ」は、小学校でのボランティアを希望する学生が履修するようにとすることを学生募集の段階で、はっきり提示した。時間割を組む際に、平日のなかで1日は、午前か午後が空けられること、という条件も付けた。

それでも「総合演習Ⅰ」に集まったメンバー19名のうち、3名は大学の授業が3時限目まですべて入っており、みずほ小学校に行くことが困難な状況だった。

みずほ小学校の日程を組んでいる段階で、土屋小学校からの話があり、有志を含む19名のみずほ小学校に行くことになり、参加困難と思われる2名を含む希望者5名が、昼休みを中心として土屋小学校に行くことになった。

だが、みずほ小学校に通うための交通の不便さは解決できていない。そして、学生のほとんどはバス通学であり、駅からみずほ小学校に行くことはできても、みずほ小学校から大学に行く

くことが困難であった。大学の午後の授業に間に合うためには50分もかけて徒歩で大学に向かう時間の余裕はない。

学生が自宅からみずほ小学校に行く場合、自分で公共交通機関を利用していくことにした。給食や昼休みの時間を経て大学に向かう場合、私が迎えに行き、大学に連れてくるしかなかった。時間の勘違いや行き違いが生じないように資料9「平塚市立みずほ小学校ボランティア参加者一覧表」を作成し、学生とみずほ小学校に渡した。

土屋小学校の場合は、大学と小学校の間の通用門を通ることで時間の節約ができるので、そのためにも資料10「平塚市立土屋小学校ボランティア参加者一覧表」を作成し、学生と小学校に加えて、庶務課を経て守衛さんにも届けていた。

両校ともに、学生が予定日に行けなくなった場合、学校と私に必ず連絡することとした。

学生は、ボランティア活動をする度に資料11「2009年度前期 小学校ボランティア活動報告」を作成して、教職課程指導室のメールボックス「総合演習Ⅰ」に提出する。私は報告書のすべてにコメントを書き、授業時に返却する。これを授業終了まで繰り返した。このボランティア活動報告とコメントは、2010年度まで基本作業として、毎学期繰り返した。

授業の運営では、2009年度は授業としては初めての試みでもあったので、月ごとに予定を立てて調整し、完成させていく作業を繰り返した。そして、月ごとの月末に報告会をし、経験を共有していった。最後にA4用紙1枚のレポートの提出と発表を行った。

後期は、鈴木クラスの「総合演習Ⅰ」2コマの受講学生と昨年度からの有志、あるいは前期受講者の有志を合わせて、みずほ小学校11名、土屋小学校17名がボランティアに参加した。前期と同様に「2009年度後期 小学校ボランティア活動報告」を提出し、月末に報告会を行い、最後にA4用紙1枚のレポートを提出し、前期・

後期の学生のレポートを集めて、学生たちが資料12『2009年度 学校ボランティア活動レポート集』を製本した。

春期休暇中の2010年2・3月についても2009年2・3月と同様に募集をし、有志の学生がみずほ小学校で2名、土屋小学校で7名、ボランティア活動を行った。

両校から学生の熱心な取り組みが評価され、2010年度の継続を希望された。

5. 2010年度

— 事務局への作業移管

2010年度前期は、2009年度と同様に、まず、4月上旬に説明会を行い、ボランティア実施要項と参加申込書を配付して参加を募り、前期の「総合演習Ⅰ」1コマの履修者と有志でみずほ小学校と土屋小学校のボランティアを実施した。みずほ小学校は16名、土屋小学校19名の参加者であった。

みずほ小学校と大学間の送り迎えは、昨年度に続いて私が担当した。そのため、同様に時間帯を書きこんだ参加者一覧表を作成し、学生と小学校に手渡した。土屋小学校についても、通用門の開閉のため、同様に表を作成して学生と小学校、関係各部署に手渡した。

ただ、2009年度と異なるのは、表の作成や小学校とのやり取りに関して、2010年度から開設された資格教育課程支援室のスタッフが補助してくれるようになったことである。

後期は、9月下旬に説明会を行った。後期からは説明会の準備並びに実施、表の作成、さらに学生や小学校、庶務課への参加者一覧表の配付も事務局の担当者へ作業移管できた。これに伴い、みずほ小学校へ行く学生は自分で小学校と大学を往復できる学生に限定した。

鈴木担当の「総合演習Ⅰ」2コマを履修している学生と有志の学生を含めて、みずほ小学校3名、土屋小学校20名の学生がボランティア活

動に参加した。

これまで通りボランティア活動報告書を毎回提出し、コメントを書いたものを授業で返し、2クラスそれぞれでボランティア活動に役立つ授業プランを作り、毎月ごとの報告を行い、最後にA4用紙1枚のレポートを提出し、前期・後期の学生のレポートを集めて、学生たちが製本して、資料13『2010年度 学校ボランティア活動レポート集』を作成した。

みずほ小学校、土屋小学校ともに2・3月についても継続の依頼があり、昨年度と同様に募集する。

6. 「学校ボランティア通信 E.S.V.」の発行

2010年度後期には、「学校ボランティア通信 E.S.V.」を発行した。2011年2月までに4号を発行した。

2年間学校ボランティア活動を継続している情報科学科3年次・刈部真里さんが編集を担当している。企画を考え、紙面構成を考え、文章をつくり、また、学生や小学校の先生方に原稿や情報提供を依頼し、自分でカットを描き、仕上げていく。これらの作業は主に鈴木研究室で行い、発行責任者として私が関わっている。

創刊号から第4号までを、資料14「学校ボランティア通信 E.S.V.」として紹介する。

7. 学校ボランティア活動の意義

学生がボランティアに参加するたびに提出する「学校ボランティア活動報告書」を読み、毎月の報告発表と学期末のレポート発表を聴き、学校の先生方から学生についての話を伺い、私は、学校ボランティア活動を経験することで学生自身が成長していると実感している。

学生が自覚的に感じ取っていることについては、資料12『2009年度 学校ボランティア活動レポート集』と、資料13『2010年度 学校ボランティア活動レポート集』を参照していただ

きたい。

ここでは、教員養成を担当する者として、この間の活動を通して、私が捉える学校ボランティアの意義を、次の11の観点に分けて述べる。

第1点は、教員の仕事に関して。児童と関わっている時以外の教員の仕事内容がわかるということである。授業準備、テストの丸つけ、提出物の確認、職員会議、学年会議、市内の研究会、学校行事の準備、校内の整備、学校の田畑に関する作業等々。学生たちには、これほど多様な仕事をしているのかという驚きがあった。

第2点は、子育てのために協力している大人のつながりを、身をもって知ったことである。校務さんの仕事振りに学生たちは感心していた。また、保護者や地域の人々との関わりもひろがった。

第3点は、学生自身が子どもたちと関われるかどうかを体験に掴むことができたことである。教職を志望する学生にとって、自分の「適性」を判断する、とても大切な機会になった。学生たちは、はじめて知りあう子どもたちとの人間関係を、回を重ねるごとに作り上げていった。名前を覚えることで、互いの親しみが大きく変わることも、学生たちに印象深かったようだ。

どうしても子どもたちの中に入り込めない学生の場合は教職を諦めるか、自分自身を変えていく必要性もわかったようだ。

第4点は、今の子どもたちを知ることができるという点である。子どもたちの遊び、友達との関わり方、学習の様子等、これらが分かるだけでも貴重な経験になる。

第5点は、先生方が集団としての子どもたちとどう関わっているのか、個人としての子どもたちとどう関わっているのかを、具体的な場面で学べた点である。授業の進め方、叱り方、平等に関わるための留意点等、学生たちは様々な一瞬にこの点を学びとっていた。

第6点は、授業において、先生方が子どもたちをひきつけ、子どもたちが理解できるように、重ねている工夫を、学生自身が授業をするつも

りになって学びとってきた。この点については、小学生にも中学・高校生にも共通する点がある。

第7点は、一人ひとり子どもたちに対する先生方の細やかな心配りを知ったことである。ほめる、叱る、注意するなどの一つひとつについてタイミングや話し方、内容等、子どもによってかえていた。

第8点は、子どもを見守ることの大切さ、自分でできるようにサポートする大切さを、身をもって体験してきた点である。「できない」という子にすぐ手伝えばいいのではない。その場を見極めて、どうすることが望ましいのか考えなければならないということだ。

第9点は、小学校の学習場面に立ち会えたこと自体が、中学校・高等学校の教育実習の準備になったという点である。

学生は小学校の算数が自分で解けても、小学生の解き方で、今「わからない」と言っている子どもに説明することができない。こういう場面に何人も学生が直面した。彼らは中学・高校で実習をするが、その学校の生徒たちが小学校で学んだ学習内容と方法を把握して初めて、その中学・高校生のつまづきを理解し、その子に即したアドバイスができる。

第10点は、小学校1年から6年までの学級に関わったことで、6年間の成長を目の当たりにできた点である。授業から給食、遊びまで一緒に過ごしたので、その成長に対する学生の感慨は非常に大きかった。

第11点は、教育実習ではなく、第三者として継続的に学校に入ることができた点である。学校ボランティアは、教育実習で初めて学校に入るのとは全く異なるのだということを学生の報告やレポートから強烈に感じた。教育実習では得難い学校理解、子ども理解、教職に対する理解を育むことができる。それゆえに、学校ボランティアは、教育実習に行く学生の事前指導として意義深いものだと判断する。

謝辞

みずほ小学校、土屋小学校の先生方が学生たちをわが子のご指導下さり、子どもたちが学生をお兄ちゃんやお姉ちゃんのように慕ってくれ、保護者の方々が温かく見守って下さったからこそ、ここまで継続できたのだと、衷心よりお礼を申し上げたい。学内では、経営・理学部長、学内事務局関係者にも大変お世話になった。

そして、何より、ボランティアとして誠実さと情熱を持って活動を遂行してくれた学生たちに深く感謝する。そして、彼らを誇りに思う。

資料1 平塚市立みずほ小学校 昼休み活動(12:55~13:45)11月 日程表

●●は、参加日のリーダーを示す

2008.11.2

みずほ小学校予定					みずほ祭り	文化の日	振り替え休日	教育相談日一四時下校	ボランティアタイム	神大・教職説明会二年	教育相談	小教研 研究部会	勤労感謝の日	振り替え休日	職員会議	全校清掃	創立三十周年記念式典	回数																		
昼休みの有○無×								○	×	○				×	○	○																				
11月カレンダー					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日					土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
学部	学科	年次	氏名	氏名カナ	曜日	人数			0	2			2	4		2	4		4		3	4														
1	化	2	服部 浩子	ハツトリ ヒロコ	木・金												●					○	○												5	
2	生物	3	柿木 沙里奈	カキノキ サリナ	木												●																			3
3	生物	3	市川 沙絵	イチカワ サエ	木												○																			3
4	生物	3	小永井 俊樹	コナガイ トシキ	金					●							○																			3
5	総合理学プログラム	2	佐藤 尚仁	サトウ ナオヒト	月																															1
6	総合理学プログラム	2	滝澤 昭宏	タキザワ アキヒロ	火・水												○																			3
7	総合理学プログラム	2	津野 泰弘	ツノ ヤスヒロ	火												○																			2
8	総合理学プログラム	2	大和 文謙	ヤマト フミアキ	火・金																															3
9	総合理学プログラム	2	植松 祐矢	ウエマツ ユウヤ	水・金						○																									5
10	総合理学プログラム	2	長内 明	オサナイ アキラ	金																															3
11	総合理学プログラム	2	山田 早季	ヤマダ サキ	火												○																			2
12	経営 国際経営	2	佐野 由布子	サノ ユウコ	月・水																															2

平塚市立みずほ小学校 馬鳥隆美(ぼとりたかみ)校長先生
 〒259-1207 平塚市北金目545番地 Tel. 0463-59-2191
 神奈川大学湘南平塚キャンパス 〒259-1293 平塚市土屋2946
 Tel.0463-59-4111 教職課程指導室(内)2834、鈴木研究室(内)2840
 * 学生教育研究傷害保険と平塚市ボランティア保険適用。
 * 欠席する場合は必ず、鈴木研究室・教職課程指導室に連絡する。
 * 雨模様の際は体育館での活動になるので、体育館シューズがあればベター。

1. 集合時刻 12:40 集合場所 キャンパス1号館前のバス停近くでタクシーに乗る。教員が往復分予約する。
2. リーダーが集合場所で教員からタクシー代を受け取る。出欠確認をする。
3. 降りるとき領収書(レシート)を受け取る。名無しまたは「神奈川大学鈴木そよ子」名で。
4. みずほ小学校に12:55位に着く。正面玄関から入り、職員室で指示を受ける。
5. 名札を受け取り、帰りに返す。
6. 校門外に13:45に来ているタクシーに乗り、帰校する。リーダーが領収書を受け取り、鈴木研究室に届ける。

資料2 平塚市立みずほ小学校 ボランティア活動について

2009.1.9
教職課程
鈴木そよ子

みずほ小学校ボランティア活動について

1. 実施期間

2009年2月・3月(詳細は配付資料)

2. 時間帯

- ① 午前の部(10:00~12:10)
- ② 午後の部(12:50~15:30)

特別時間帯は、確定時に明記する。

3. アクセス

- ① 地図参照
- ② 各自で自宅と学校を往復する。
- ③ バイク、車で通うことも許可されている。

4. みずほ小学校 訪問時の注意

- ① バイク、車で校門を入るとき、子どもとの接触事故をおこさないように気をつける。
- ② 靴、服装は、運動しやすいものにする。
- ③ 玄関から持参した体育館シューズをはくこと。
- ④ 「こんにちは」「いただきます」「ごちそうさま」「しつれいします」等の挨拶をすること。
- ⑤ アクセサリー、ジュエリーは、はずしておくこと。
- ⑥ 児童の様子、知りえた情報など決して口外しないこと。

5. 申込から確定までのスケジュール

- ① 説明会 1月9日(金)
- ② 申込期間 1月9日(金)~15日(木)
- ③ 申込場所 教職課程指導室
- ④ 確定予定表受取期間 1月19日(月)~23日(金) 昼休み
- ⑤ 確定予定表受取場所:鈴木そよ子研究室

資料3 平塚市立みずほ小学校 ボランティア参加希望予定表

平塚市立みずほ小学校ボランティア参加希望予定表

X印は昼休みの遊び活動なし。

2009(平成21)年2月

日付	曜	時数	学校行事	午前(10:00-12:10)	午後(12:50-15:30)
1	日				
X	月	5	年間反省職員会議②		
3	火	6	クラブⅧ区(3年見学)		
4	水	5			
5	木	5	講話朝会 学習参観・懇談会(高)		
6	金	5	学習参観・懇談会(低)		
7	土				
8	日				
9	月	5	卒業式準備委員会②		
10	火	6	クラブX(反省) 給食費引き落とし		
11	水		建国記念の日		
12	木	6			
13	金	5			
14	土				
15	日				
X	月	5	年間反省職員会議③		
17	火	6	クラブ(予備日)		
X	水	4	小教研第5回研究部会14:15 なかよし作品展~22日		
19	木	6	たてわり集会V 入学準備委員会② AET 業者窓ふき		
20	金	5	なかよし作品展(~24日平塚市美術館) AET		
21	土				
22	日				
X	月	⑤	職員会議 AET		
24	火	6			
25	水	5			
26	木	6	卒業を祝う会		
27	金	6	教育課程検討委員会②		
	土				

*午前・午後の時間帯は基本的な時間割。特別な場合は、多少の時間のずれがあるので確定時に明記する。

____ 学部 _____ 学科(プログラム) _____ 年次 氏名 _____ 携帯

申し込み期間:2009年1月9日(金)~15日(木) 提出先:教職課程指導室・みずほ小学校ボランティア申し込みボックス

希望調整後の確定した日程の受け取り期間:1月19日(月)~23(金)昼休み 場所:鈴木そよ子研究室

提出前に、コピーを取っておくこと

資料4 平塚市立みずほ小学校 ボランティア活動参加者へ

2009年1月19日

みずほ小学校ボランティア活動参加者へ

神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
教職課程 鈴木そよ子

1月9日の説明会で概要についてお話ししました。参加決定者向けに、詳細な確認をいたします。

1. みずほ小学校について

- ① 校長：馬鳥隆美（ばとりたかみ）先生
- ② 教頭：梅林恵美子（うめばやしえみこ）先生
- ③ 所在地：〒259-1207 平塚市北金目 545 番地（地図参照）
- ④ 電話：0463-59-2191
- ⑤ アクセス：平塚駅、秦野駅、鶴巻温泉から路線バス

*バイク、車で通うことも許可されているが、入校時に、子どもとの接触事故を起こさないようくれぐれも気をつける。バイク、車は体育館の裏手におく。

2. 実施期間

2009年2月1日～3月19日。各自の参加日の詳細については「ボランティア参加者一覧表」と「ボランティア参加スケジュール表」を参照。

3. 時間帯

- ① 午前の部（10：00～12：50）給食終了まで。
- ② 午後の部（12：50～15：30）昼休みから授業終了まで。5校時の場合は14：30下校となる。特別日課については、「日課表と週予定」参照。

4. 活動内容と心構え

- ① みずほ小学校の先生方の教育活動をお手伝いしながら、先生方の教育活動を学ぶ。学級に入って学習活動の補助をする場合もあるし、先生方の多様な作業を補助する場合もある。積極的な取り組みが望まれる。
- ② 子どもたちが気持ちよく過ごせるよう、気を配る。
- ③ 児童の様子、知りえた情報など決して学校外で口外しない。（守秘義務）
- ④ 担任の先生に報告した方がいいと思うことは、下校前に伝えておく。

5. 必要経費

午前中の参加者、全日参加者は、給食をいただく。学級で児童と一緒にいただく場合もある。費用として、給食代1食222円が必要となる。返金はなし。

6. みずほ小学校 訪問時の注意

- ① 靴、服装は、運動しやすいものにする。アクセサリはつけない。
- ② 玄関から持参した体育館シューズをはく。
- ③ 職員室で名札を受けと受け取ってつけ、帰りに戻す。

7. 参加予定日に行けなくなった場合

参加するクラスや活動内容の計画を立てて下さっているので、必ず事前にみずほ小学校に連絡する。

8. 保険

学生教育研究傷害保険と平塚市ボランティア保険が適用となる。

資料5 平塚市立みずほ小学校 ボランティア参加者一覧表 (2009年2月) 2009.1.26

学校行事				年間反省職員会議2)	クラブⅧIX (3年見学)	講話朝会 学習参 観・懇談会 (高)	学習参観・懇談会 (低・6年)	卒業式準備委員会2)	クラブX (反省)	建国記念日							
2009年2月カレンダー				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
日課(○は特別日課)				日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
人数				校時	5	6	5	5	5			5	6		6	5	
人数				午前	1	8	2	5	6			1	8		10	8	
人数				午後	0	8	4	4	7			3	8		10	8	
学部	学科	年次	氏名	回	給食	外数	8	2	5	6			1	8		10	8
1	経営	国際経営	4	川村 藍子	3	0											
2	理	情報科	4	林 貴洋	6	6											
3	理	情報科	3	秋澤 光	7	外											
4	理	化	3	鈴木 栄貴	4	1											
5	理	化	3	都築 倫明	4	4											
6	理	化	3	上原 弓弦	2	2											
7	理	化	3	口地 哲平	5	5											
8	理	生物科	3	柿木 沙里奈	7	7											
9	理	生物科	3	市川 沙絵	7	7											
10	理	生物科	3	高津 充	5	5											
11	理	情報科	2	細越 梨奈	5	5											
12	理	情報科	2	先崎 綾子	6	6											
13	理	化	2	三嵩 学	4	4											
14	理	化	2	大竹 敦史	2	2											
15	理	化	2	佐藤 大樹	4	4											
16	理	化	2	西島 理	4	4											
17	理	化	2	田中 慶太	6	6											
18	理	化	2	戸高 翔太	4	4											
19	理	生物科	2	西山 歩	2	2											
20	理	生物科	2	上遠野 光	1	1											
21	理	生物科	2	松田 晃	1	1											
22	理	生物科	2	植原 大樹	1	0											
23	理	生物科	2	矢澤 重成	1	0											
24	理	総合理 学フログ	2	滝澤 昭宏	1	1											
25	理	情報科	2	谷澤 航水	2	2											
26	理	情報科	2	山本 駿	2	2											
27	理	情報科	2	佐藤 翼	2	2											

資料6 平塚市立みずほ小学校 ボランティア参加者一覧表 (2009年3月) 2009.1.26

学校行事																						
2009年3月カレンダー				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
日課(○は特別日課)				校時	5	6	5	6	6		5	6	5	⑤	6		5	6	④	3		
人数				午前		1	0	5	3		1	2	2	2	4		3	2	4	4		
				午後		2	1	5	3		2	3	2	0	4		4	2	0	0		
学部	学科	年次	シメイ氏名	回	給食	1	0	5	3		1	2	2	2	4		3	2				
4	理 化	3	スズキサカサカ 鈴木栄貴	4	1																	
5	理 化	3	フブキノリアキ 都築倫明	1	1																	
6	理 化	3	ウエハラユヅル 上原弓弦	3	1																	
7	理 化	3	クチジキツベイ 口地哲平	5	5																	
8	理 生物科	3	カネノササリナ 柿木沙里奈	4	4																	
9	理 生物科	3	イサカワサエ 市川沙絵	4	4																	
10	理 生物科	3	タカフ シンム 高津 充	1	1																	
12	理 情報科	2	センザキアサユ 先崎綾子	6	6																	
15	理 化	2	サトウダイキ 佐藤大樹	1	1																	
16	理 化	2	ニシジマ タダシ 西島 理	1	1																	
18	理 化	2	トダカ ショウタ 戸高翔太	1	1																	
22	理 生物科	2	ウエハラダイキ 植原大樹	2	0																	

25

資料7 平塚市立みずほ小学校 ボランティア参加スケジュール (2009年2月) 2009.1.26

2009(平成21)年2月 ブルーの氏名は午前あるいは午後に参加する学生
レッドの文字は1.16日以降の変更点

日付	曜	校時	学校行事	午前(10:00-12:50)	午後(12:50-15:30)
1	日				
2	月	5	年間反省職員会議②	秋澤光	
3	火	6	クラブⅧ区(3年見学)	口地哲平・高津充・三鶯学・佐藤大樹・戸高翔太・西島理・都築倫明・田中慶太	口地哲平・高津充・三鶯学・佐藤大樹・戸高翔太・西島理・都築倫明・田中慶太
4	水	5		都築倫明・高津充	都築倫明・高津充・川村藍子・矢澤重成
5	木	5	講話朝会 学習参観・懇談会(高) 学習参観は5校時	市川沙絵・柿木沙里奈・上原弓弦・滝澤昭宏・松田一晃	市川沙絵・柿木沙里奈・上原弓弦・川村藍子
6	金	5	学習参観・懇談会(低・6年) 学習参観は5校時	市川沙絵・柿木沙里奈・細越梨奈・口地哲平・上遠野光・田中慶太	市川沙絵・柿木沙里奈・細越梨奈・口地哲平・上遠野光・田中慶太・川村藍子
7	土				
8	日				
9	月	5	卒業式準備委員会②	田中慶太	田中慶太・植原大樹・矢澤重成
10	火	6	クラブⅩ(反省) 給食費引き落とし	口地哲平・細越梨奈・西山歩・先崎綾子・三鶯学・佐藤大樹・戸高翔太・西島理	口地哲平・細越梨奈・西山歩・先崎綾子・三鶯学・佐藤大樹・戸高翔太・西島理
11	水		建国記念の日		
12	木	6		市川沙絵・柿木沙里奈・高津充・都築倫明・田中慶太・細越梨奈・先崎綾子・谷澤航水・山本駿・佐藤翼	市川沙絵・柿木沙里奈・高津充・都築倫明・田中慶太・細越梨奈・先崎綾子・谷澤航水・山本駿・佐藤翼
13	金	5		市川沙絵・柿木沙里奈・口地哲平・細越梨奈・先崎綾子・谷澤航水・山本駿・佐藤翼	市川沙絵・柿木沙里奈・口地哲平・細越梨奈・先崎綾子・谷澤航水・山本駿・佐藤翼
14	土				
15	日				
16	月	4	年間反省職員会議③	田中慶太	
17	火	6	クラブ(予備日)	三鶯学・大竹敦史・佐藤大樹・戸高翔太・西島理・細越梨奈・先崎綾子・西山歩	三鶯学・大竹敦史・佐藤大樹・戸高翔太・西島理・細越梨奈・先崎綾子・西山歩・鈴木栄貴
18	水	5	小教研第5回研究部会14:15 なかよし作品展～22日	林貴洋	鈴木栄貴
19	木	6	たてわり集会Ⅴ 入学準備委員会② AET 業者窓ふき	市川沙絵・柿木沙里奈・林貴洋・高津充・先崎綾子・田中慶太	市川沙絵・柿木沙里奈・林貴洋・高津充・先崎綾子・田中慶太
20	金	5	なかよし作品展(～24日平塚市美術館) AET	市川沙絵・柿木沙里奈・林貴洋・先崎綾子	市川沙絵・柿木沙里奈・林貴洋・先崎綾子
21	土				
22	日				
23	月	⑤	職員会議 AET 5校時12:45～13:35		
24	火	6		口地哲平・上原弓弦・林貴洋	口地哲平・上原弓弦・鈴木栄貴
25	水	5		都築倫明・高津充・鈴木栄貴・林貴洋	都築倫明・高津充・鈴木栄貴
26	木	6	卒業を祝う会(1・2校時低学年中心)	林貴洋・柿木沙里奈・市川沙絵・三鶯学・大竹敦史・佐藤大樹・戸高翔太・西島理	林貴洋・柿木沙里奈・市川沙絵・三鶯学・大竹敦史・佐藤大樹・戸高翔太・西島理
27	金	6	教育課程検討委員会②		
28	土				

資料8 平塚市立みずほ小学校 ボランティア参加スケジュール (2009年3月) 2009.1.26

2009(平成21)年3月 ブルーの氏名は午前あるいは午後に参加する学生
 レッドの文字は1.16日以降の変更点

日付	曜	校時	学校行事	午前(10:00-12:50)	午後(12:50-15:30)
1	日				
2	月	5			
3	火	6	委員会VI(反省)	口地哲平・鈴木栄貴	口地哲平・鈴木栄貴
4	水	5			鈴木栄貴
5	木	6	児童朝会(生活目標反省)	柿木沙里奈・市川沙絵・西島理 ・佐藤大樹・戸高翔太	柿木沙里奈・市川沙絵・西島理 ・佐藤大樹・戸高翔太
6	金	6		柿木沙里奈・市川沙絵・ 口地哲平	柿木沙里奈・市川沙絵・ 口地哲平
7	土				
8	日				
9	月	5	教育課程検討委員会③	先崎綾子	先崎綾子・植原大樹
10	火	6		口地哲平・先崎綾子	口地哲平・先崎綾子・鈴木栄貴
11	水	5		先崎綾子・上原弓弦	先崎綾子・鈴木栄貴
12	木	⑤	講話朝会 職員会議 13:40下校	柿木沙里奈・市川沙絵	
13	金	6		柿木沙里奈・市川沙絵・ 口地哲平・先崎綾子	柿木沙里奈・市川沙絵・ 口地哲平・先崎綾子
14	土				
15	日				
16	月	5		都築倫明・高津充・先崎綾子	都築倫明・高津充・先崎綾子・ 植原大樹
17	火	6	給食終了 職員打合せ(放課後)	口地哲平・先崎綾子	口地哲平・先崎綾子
18	水	④	卒業式準備4.5年 8:30~11:40	上原弓弦・鈴木栄貴・都築倫明 ・高津充	
19	木	3	卒業式10:00開式・閉式11:30 8:30~11:30	上原弓弦・鈴木栄貴・都築倫明 ・高津充	
20	金		春分の日		
21	土				
22	日				
23	月	④			
24	火	④			
25	水	④	修了式		
26	木		学年末休業開始		
27	金				
28	土				
29	日				
30	月				
31	火				

資料9 平塚市立みずほ小学校 ボランティア参加スケジュール (2009年5月) 2009.5.11

学校行事		学校研	内科13:00	小教研	1種3科朝会	読書週間	地産地消	職員会議	クラブ	定期大会	定期大会	運動会	運動会	※振替休業	運動会予備日	たむけ	家庭訪問					
2009年5月カレンダー		11月	12月	13月	14月	15月	16月	17月	18月	19月	20月	21月	22月	23月	24月	25月	26月	27月	28月	29月	30月	31日
人数		前期	1	2	3	0	0	4	2	3	0	0	2	5	11		2	3	0	0	0	0
1部	生物科	1	1	10-15:30																		
	2	4	2	10-15:30					10-	15:30												
	3	4	1	10-12:50	自力																	
	4	3	1									10-	19:30									
	5	3	1									10-	19:30									
	6	2	4	0	9-10:40					9-10:40				9-10:40				9-10:40				
	7	2	7	3	9-10:40 12:50-15:30						9-10:40			10-12:30				9-10:40 12:50-15:30				
	8	2	2	1						12:50-15:30				11:10-15:30								
	9	2	3	2			12:50-15:30							12:50-15:30								
	10	2	5	0	8:45-10:40	8:45-10:40				8:45-10:40	8:45-10:40							8:45-10:40				
	11	2	2	1			12:50-15:30															
	12	2	2	1										11:10-15:30								
	13	2	1	1																		
	14	2	3	3	10-15:30						12:50-15:30			10-				10-				
	15	2	4	0			8:45-10:40				10-							15:30				
	16	2	2	2	10-13:10																	
	17	2	3	2			12:50-15:30			10-13:10												
	18	2	6	5	12:30-15:30	バイク	12:30-14:30	バイク			12:30-15:30	バイク		12:30-14:30	バイク			12:30-15:30	バイク			
	19	2	3	2	12:30-15:30						12:30-15:30											
集合時刻・行き		53	29	12:40		12:40				12:40			11:00, 12:40				12:40					
集合時刻・帰り				10:40 13:10	10:40 15:30クワレー	10:40			10:40	10:40 15:30クワレー	10:40						10:40					

- 表の時刻は、みずほ小学校での活動開始時刻と、活動終了時刻を示す。
- の細線は「自宅から」あるいは「自宅へ」を示し、太線は「大学から」あるいは「大学へ」を示す。
- 欠席・遅刻は必ずみずほ小学校と鈴木に連絡すること。
- 連絡先:みずほ小学校 0463-59-2191 神奈川県湘南ひらつかキャンパス教職課程指導室 0463-59-4111(内2834)
- 大学の集合場所: 1号館前バス停そば 鈴木が予約し、同乗する。神奈川県中央交通ハイヤーを利用する。
- 全員、大学で「学研交付滞留責任保険」Bコース加入手続き済み。

2009.4.29

学校行事		1 職 員 打 合 せ	1 5 : 1 5 : 1 5 : 打 合 せ	1 4 : 1 5 : 下 校	1 3 : 1 0	1 内 科 検 診	1 職 員 打 合 せ	1 5 : 1 5 : 打 合 せ	職 員 会 議	1 4 : 3 0 引 き 取 り	3 校 合 同 引 き 取 り	① (6 校 時) 児 童 係 別 打 合 せ	1 職 員 打 合 せ	1 5 : 1 5 : 打 合 せ			運 動 会 前 日 準 備	(雨 天 順 延) 運 動 会					
2009年5月カレンダー		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
日曜(○は特別日曜)		校時	6	6	月5	6	6		6	6	5	5	6			6	6	5	6	5	6		
学部	学科	年次	シ メ イ 氏 名	回	給 食	1	4	1	3	1						1	4	1	3	3	32		
1	理	2	サトウ ヒロオ 佐藤 英雄	6	6		昼休み 12:40-13:15		昼休み 12:40-13:15			昼休み 12:40-13:15					昼休み 12:40-13:15		昼休み 12:40-13:15				
			タダモト アキコ 忠本 暁子	6	6		昼休み 12:40-13:15		昼休み 12:40-13:15				昼休み 12:40-13:15						昼休み 12:40-13:15		昼休み 12:40-13:15		
2	学	2	シライシ シンスケ 白石 新之助	6	6		昼休み 12:40-13:15		昼休み 12:40-13:15			昼休み 12:40-13:15					昼休み 12:40-13:15		昼休み 12:40-13:15				
			カリベ ミサト 刈部 真里	10	3		11:10- 13:10	9- 10:40	9- 10:40				11:10- 13:10	9- 10:40	9- 10:40				11:10- 13:10	9- 10:40	9- 10:40		
3	部	2	コイズミ リョウスケ 小泉 亮介	10	9		9- 10:40 12:40-13:15	9- 10:40 12:40-13:15	9- 10:40 12:40-13:15			9- 10:40 12:40-13:15	9- 10:40 12:40-13:15				9- 10:40 12:40-13:15	9- 10:40 12:40-13:15	9- 10:40 12:40-13:15				
			イシイ ジュンヤ 石井 淳也	1	1																		
4	他	2	コンドウ ヨウスケ 近藤 裕介	1	1																		
			開		12:00	8:00	8:00	8:00	12:00									12:00	8:00	8:00	8:00	12:00	
5	運 動 会 準 備	2	閉				14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00				14:00	14:00	14:00	14:00	16:00		
			開		12:00	8:00	8:00	8:00	12:00										12:00	8:00	8:00	8:00	12:00

- ・表の時刻は、土屋小学校での活動開始時刻と、活動終了時刻を示す。
- ・大学と土屋小学校の行き来は、通用門を使用する。守衛さんが時間限定で開閉して下さい。
- ・職員室で名札を受け取り、活動が終わったら返却する。
- ・持ち物は職員室に置かせていただく。
- ・欠席・遅刻は必ず土屋小学校と鈴木に連絡すること。
- ・連絡先: 土屋小学校 0463-59-1414 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス教職課程指導室 0463-59-4111(内2834)
- ・全員、大学で「学研災付帯賠償責任保険」Bコース加入手続き済み。

資料11 2009年度前期 学校ボランティア報告書

2009年度前期 学校ボランティア活動報告書

「総合演習 I」(鈴木そよ子担当)

学校名:みずほ小学校・土屋小学校・(○をつける)

月3クラス・火4クラス(○をつける)

氏名: _____

_____ 月 日 () : ~ : _____

①活動内容

②気がついたこと・学んだこと

③ 楽しかったこと・うれしかったこと

④困ったこと・悩んだこと・その他

* 報告書は活動日ごとに作成し、教職課程指導室のメールボックス「総合演習 I」に提出する。

資料12 2009年度学校ボランティア活動レポート集

目次

*ページ及び書式を本稿用に変更した。

みずほ小学校・前期

1. みずほ小学校ボランティア活動を通して学んだこと ～見習うべき素直さ～	栗田 和弥 91
2. みずほ小学校のボランティアを通して — 児童の集団に置ける様子について —	植栗 慧 91
3. 小学校で学んだこと	大塚 春香 92
4. 学校ボランティア活動を通し感じたこと	松本 将和 93
5. ボランティア活動での小学校	後藤 将司 94
6. 総合演習 I ボランティア活動報告レポート	内貴 賢人 94
7. 小学校へ行って学んだこと	林 愛弓 95
8. 19歳で再び小学校に通ってみて	望月まどか 96
9. 総合演習の授業で学んだことについて	高橋 健治 97
10. 総合演習 — みずほ小学校ボランティアを通じて —	館石 敬裕 97
11. 小学校におけるより良いクラスづくり	松本 光平 98
12. 先生の視点の学校	石井 淳也 99
13. 小学校に行って学んだこと	近藤 裕介 100
14. ボランティアを通して	山田由布子 102

みずほ小学校・後期

15. ボランティア活動を行って	綿貫 瞬 103
16. ボランティアを通じて	蓮見 直紀 104
17. 小学校ボランティアを通じて学んだこと	佐藤 大樹 104
18. みずほ小でボランティアを体験して	戸高 翔太 105
19. 小・中学校のボランティアに行き苦勞したこと	三觜 学 106
20. 総合演習活動報告課題	高野 敦 106
21. 総合演習 I レポート	鳥屋尾 聡 107
22. 総合演習レポート	高田 直紀 108
23. 総合演習 I を通して	土屋 広輔 109
24. 学校ボランティアに参加してみ	中原 雄太 109
25. 現場に行ってみ	石上 佳奈 110
26. 学校ボランティア活動を通して感じたこと	鈴木 りさ 111
27. 学校ボランティア活動に参加して	福永 翔也 112

土屋小学校・前期

28. 小学校ボランティアを振り返って…	小泉 亮介 113
29. 総合演習レポート	刈部 真里 114
30. 総合演習 I ～教育は教室で起きてるんじゃない現場で起きている～	佐藤 英雄 115

31. 総合演習	忠本 暁子 115
32. 小学校の必要	白石新之助 116

土屋小学校・後期

33. 土屋小学校から得たこと	大竹 敦史 117
34. 土屋小で学んだこと	西島 理 118
35. 教育活動ボランティア	佐藤真由香 118
36. ボランティア活動の感想	原 広子 119
37. 総合演習 I レポート	坂田 彩美 120
38. 土屋小学校演習を終えて	川島 環 121
39. ボランティアでの経験	船守 翔子 121
40. 土屋小で学んだこと	上村 恵 122
41. 土屋小学校のいろいろな体験	佐々木彩奈 123
42. わたしの小学校体験	神田 恵子 124
43. ボランティアを通じて	大川 哲史 124
44. 総合演習を通して学んだこと	福田 晋也 125
45. 総合演習 I 活動の感想	安藤 義浩 126

みずほ小学校・前期

1. みずほ小学校ボランティア活動を通して学んだこと

～見習うべき素直さ～

情報科学科 2年 栗田和弥

みずほ小学校での活動で一番印象に残り、また見習わなければと思ったのは子どものひたむきさと素直さだ。私は1週間に一度のペースで1時間半くらい、1年生から6年生までのクラスに順に入ることができた。1年生のクラスは、そこに行くまで自分が不安に思っていたことが馬鹿馬鹿しくなるくらい元気良かった。突然運動会の練習のなかに飛び込んできた私を、屈託なく受け入れてくれた。不安もあったが、それより早くみんなと仲良くなりたいたいという気持ちが強くなった。その次の週は、2年生のクラスに入った。人の好き嫌いや男子と女子の関わり方などで1年生からの成長もみられた。しかし、そうは言いつつも素直で、気持ちよく接することができた。壁を作らずにお互い素直に接することができるということは、考えていた以上に素晴らしいことだと実感した。大学の友人とも、こういう付き合いをしたいと思った。また、運動会では子どもたちと一緒に楽しみ、団結することの素晴らしさを再認識した。私が小学生だった頃は意識せずに行っていたこれらの取り組みは、とても大切なことだったのだ。そして今こそ、私たちはそれを見習うべきことなのだ。

今回のボランティア活動は教師を目指している私が人生の中で初めて「先生」と呼ばれる機会となった。授業補助を通し、子どもたちのことだけでなく先生の苦労も学ぶことができた。運動会のときには、終了後も遅くまで片付けをしていたし、移動教室のときには子どもたちより先回りして準備をしていた。そんなときでも、先生の眼は子どもたちと同様にきらきらしてい

て、とても楽しそうに見えた。私も子どもたちといえ元気になれたので、気持ちはよく分かった。

授業内容に関することとしては、イメージを大切にしているという印象が強かった。ことさら算数においてはそう感じた。私は高校の数学より算数の方が好きだ。数学は算数と比べて、学習内容のイメージを掴みづらいからだ。小学校の算数の授業では、とりわけみんながつまずきやすい分数の学習などでは先生が工夫を凝らし、感覚的なイメージをきちんと伝えるような心がけがされている。こうして学んだことをもとに、私は将来子どもたちとちゃんと向きあい、数学に算数の魅力を付加できる教師になりたいと思った。子どもたちから学んだ壁を作らない素直な接し方や、生き生きと学ぶ姿勢を、今後の人生で生かしていきたい。

2. みずほ小学校のボランティアを通して—児童の集団に於ける様子について—

生物科学科 2年 植栗 慧

総合演習Ⅰの授業の一環として、5月から7月の間に平塚市立みずほ小学校にボランティアとして参加した。私にとってこの3ヶ月間は、教諭を目指す立場として非常に有用な体験となったとともに、教科書に書かれていること以外の情報を得るよい機会となった。今回私は、先生、子どもたちとコミュニケーションをした結果、大変興味深いことに気がついた。以下の内容は、私が実際みずほ小学校の体験を通して、思ったことである。

みずほ小学校の全クラスを見てきたが、どのクラスをみても非常に子どもらしさが感じ取れた。私たち（諸般の大学生）が普段なんとも思わない事象、つまりありふれた日常（今日は天候がよいとか）には、慣れてしまった為か、ほとんど関心を向けることはない。しかし、子どもたちは何に対しても好奇心旺盛であった。具

体的な内容を挙げると次のようなことである。

低学年全体を通して言えることだが、生き物(カエルやバッタなど)に大変興味を持っているようであった。また、カエルを採集して終わることはなく、どのようにしたら教室で飼えるかなど熱心に調べていた。一方、中学年、高学年になると、ファッションの話で盛り上がったり、運動(バスケットボールやサッカー)をしたり、読書などに勤しんでいた。高学年になるにつれて社会の事象に興味を持ち始め、大人が行うような行為を真似するような行動をすることが上記の内容から見受けられた。

学習・集団行動についても触れておくことにする。小学校教育では、子どもの自主自立性に重点を置いている様感じ取れた。どんな小さなことに対しても先生が質問し、子どもに考えてもらうというシステムが成立していた。集団行動の大切さについても、授業内だけでなく、掃除の時間などに先生が教えていた。

規律を守れることは、他人の意見・存在を認める(尊重する)ことができているからできるのであろう。学年があがるにつれてこれらは形成されていくのだろう。学校とはそういう場を提供する場所である。

学習に関しては、低学年には見られないが中学年・高学年になると、授業についていけない子どもとそうでない子どもが明確に分かれていた。僭越ながら私の個人的な見解であるが、先生は授業についていけない子どもの存在を理解しているにも関わらず、そのまま流しているように感じる授業もあった。限られた授業の中でやる事が決まっているからといって、そのまま放任するのは如何なものであろうか。私は、そんな教諭にはなりたくないものである。

最後に、みずほ小学校でのボランティアを通して様々な体験をしたが、自分がどのような教諭になるのか少しだけわかった気がする。

3. 小学校で学んだこと

生物科学科 2年 大塚春香

総合演習Ⅰの授業として、小学校にボランティアに行ってきた。私は運動会を含めても3回しか行っていないが、その中で学んだことを書きたいと思う。

正直、「小学校に行く」ということを聞いた時、とまどった。もちろん遊びに行くのではない。『教師』という仕事を体験しに行くのである。何回か職場体験などで行ったことはあったが、ここ何年か小学生と関わった記憶がない。私自身末っ子なので、身近に小さい子がいたこともない。どうやって接すればいいのかわからず、不安だらけであった。しかし、不安はすぐに消された。先生方は優しく、子どもたちはすぐに近づいて話かけてくれる。私は2回とも1年生を担当したが、それぞれのクラスに個性があった。もちろん一人ひとりにも個性があった。最初は1年生だからみんな同じかなと思っていたが、ひらがなを書くのに時間がかかる子、ノートをとるのが遅い子もいれば、私の名札に書いてある「生物科学科」を読める子もいた。学校で同じ授業を受けていても一人一人全然違ふし、それぞれ個人に合わせて接することが大切だと思った。また、1年生だからということで、どこまで手助けすればいいのかわかってしまった。1年生だから出来ないこともあるし、大人がやったほうが早いこともある。この境界線は難しいと思った。

また、運動会や授業以外の生活を見ていて、全体的に女の子の方がしっかりしていると感じた。1年生でも少し感じたが、特に高学年になると、身長も全体的に女の子のほうが大きいし、運動会での低学年への接し方もしっかりしていた。

1年生を見ていて、私の小学生時代、私自身も周りの友達ももう少し、しっかりしていたのではないかと思った。授業中に出歩くことはなかったし、おしゃべりも少なかったような記憶

がある。しかし、それは私の記憶があいまいだということもあるし、大人からみれば、「あなたたちも同じだった」と言われるかもしれない。つまり、子ども側からの視点と、教師側からの視点では違うということである。これが、今回一番勉強になったことである。私の経験してきたことだけで、子どもに対応してはいけなし、そのクラスのカラーもあるのでその時々に対応しなければいけないのだと思った。

今回の小学校でのボランティアを通して、教師になりたいという気持ちがさらに大きくなった。しかし、前から小学校・中学校・高校どこの教師になりたいか決めていなかった私にとって、もっと迷うことになってしまった。今回は小学校だったので次回は中学校に行ってみたいし、教育実習で高校に行き、その上でどこの教師になりたいか考えたいと思う。子どもの立場としては体験した学校生活だが、教師側として子どもの学校生活を見ることは重要だと思う。やはり話を聞くだけとかではなく、実際にそれぞれの学校に行ってみることでわかることもあるので、できるだけ今回のような体験ができるときはやりたいと思う。また、他の教職の授業も授業だからということではなく、教師になったときのために、もっと積極的にやるべきだと思った。

4. 学校ボランティア活動を通し感じたこと

生物科学科 2年 松本将和

この総合演習の授業での小学校を訪れるという試みは、私にとって新鮮でとてもためになり、そして何より楽しい体験でした。私は学校ボランティア活動では3年生から6年生を担当しましたが、それぞれの学年ごとに児童の特徴が異なっていることがわかりました。3年生や4年生は、まだまだ子どもらしい児童が多く、人懐っこい「かわいい」という言葉が合う学年だと感じ

ました。5年生と6年生、特に6年生になると少し大人びてきており、男女というものが完全に分かれているようです。また、6年生になると思春期に入っている児童が現れているようで、少し精神的に不安定な面が見られる児童が何人かいました。

私はこのボランティア活動を通して心に残った事がいくつかあります。その出来事について述べたいと思います。

1つ目は、6月5日に担当した6年生の図工の授業でのことです。初めて6年生を担当した時で、ほとんどが女子児童であることにとまどい自分のことでいっぱいになっていた時に、一人だけ絵を描かずに、やる気がおきていない児童がおり、話しかけるべきか悩んでいると補助の女性の先生がケアに回っていました。あの時はその児童に話しかけるべきだったのだろうかとそのあと私は考えさせられました。

2つ目は、運動会です。準備係の児童の補助として参加しました。また、PTAのリレーや綱引きに参加させていただき、楽しい思いをさせていただきました。運動会終了後に、後片付けの手伝いをしました。自身が小学生の時は、運動会が終わった後そそくさと帰っていましたが、実はその後先生たちが片付けをしてくれていたのだと知って先生は大変だなと感じました。

3つ目は、7月10日に担当した6年生の林間学校のレクリレーションの練習の授業です。教室から体育館へ移動し、キャンプファイヤーを取り囲んだように輪になって並び、歌を歌ったり、ダンスを踊ったり、ゲームしたりしていました。そんな中、一人孤立して参加できずにいる、こう言ったら語弊があるかもしれませんが、世に言う「いじめられっ子」のような児童がいました。私はその児童に話しかけて「いっしょにゲームやろうよ」と言いましたが、その児童は無反応で、私はそれ以上踏み込むことができませんでした。

私がこのボランティア活動全体を通して感じ

たことは、児童との距離感をどの位置におけばいいのわからないということです。7月10日の授業のように気になる児童がいて、なんとかしてあげたくても、ボランティアの学生という立場でどこまで踏み込んでいいのか、はたまた学校の先生にまかせて触れない方がいいのか本当に悩みました。

このボランティア活動は私にとって、楽しいことよりも悩ましいことの方が多かったように思います。しかし、かけがえのない貴重な体験をさせていただき、より教師になりたいという思いが強くなりました。この試みはぜひずっと続けていってほしいと思います。

5. ボランティア活動での小学校

生物科学科 2年 後藤将司

今回、総合演習の授業で小学校に行き、先生の仕事、授業などを手伝うことにより先生の日常生活を体験する、という経験をした。学年が毎回違い、さまざまな体験をすることができる。教師を目指す僕にとっては、とてもいい経験になった。

活動をしにいったのは「みずほ小学校」。1年生以外はみんな1クラスというごく普通の学校である。自分は、高学年よりは低学年を担当することが多かった。1,2年生は、まだ子どもで授業中は座っていることができず、立って友達のところに行ったり、隣の人と話をしたりまともな授業ができない。先生はそれを注意する人もいれば、スルーしてそのまま授業を続ける先生もいる。考えは人それぞれであると思う。もちろん、6,7歳の子どもに難易度の高いことは求めてはいないが、人の話をちゃんと聞いてから行動をする。それを、求めているのだと思う。そして、低学年の担当になって一番学んだのは先生は「我慢」が必要だということ。我慢できないと、何も始まらないと思う。子どもは、先生の話を聞かない。いや、聞こうともし

ない。しかし、先生は話をしなければならない。また、授業をする。子どもは、聞く人半分、聞かない人半分。しかし授業をしなければならない。矛盾ばかり起きるのだが、先生は我慢しなければならない。そこに尽きると思う。

中、高学年は低学年とは違い、授業をしっかり聞いており、話も聞けるようになってきている。まだ、聞けない人もいるのだが。しかし、高学年になるにつれて授業への積極性がなくなってくると思う。先生の問いかけへの反応、これが少なくなってくる。理由は、口ではいい難いのだが何となく理解できる。原因はさまざま、あると思う。思春期なり、反抗期なりと。しかし、そこはあまり気にはならなかった。

まとめとしては、いずれ経験する教育実習のいい経験になったのは確かである。しかし、自分は、高校の教師になりたいので歳がはなれすぎているのが少し気にはなった。そして、自分は小学校の教師には向いていないということが改めてわかった。低学年は、自分から話しかけていなくても子どもから、話しかけてくれる。しかし、中高学年はこちらから話しかけていかないと関わりを持ってない。その行動がうまくできなかったからだ。また、自分は多少短気な部分があるため「我慢」ということもあまりできないと思う。「短気は損気」という言葉があるが、まさにこのことである。今回の活動で先生の厳しさ、楽しさ、難しさを多少ながら理解できたと思っている。そして、一番嬉しかったのは「先生」と呼ばれたことである。

6. 総合演習 I ボランティア活動報告レポート

生物科学科 2年 内貴賢人

ボランティア参加日 5月15日 5月23日

(1) 活動内容

5月23日が運動会だったので運動会の練習および準備と参加

(2) 気づいたこと・学んだこと

15日：参加したのが午後で運動会の練習、帰りの会に参加させてもらいました。担任の先生の話し方や声の大きさ、子どものまとめ方を近くで見学させてもらい、あまり体験することができない事をさせていただいたのでとても良い勉強になりました。

23日：この日は運動会に参加させていただきました。今までは子ども視点で物事を見ていましたが教師視点で見ると周りに気を配ったりと常に生徒のことを気にしていないといけないんだなと感じました。また身をもって体験することによって先生方の工夫やどれだけ忙しいのかも学ぶことができました。

(3) 楽しかったこと・うれしかったこと

挨拶をきちんと返してくれて、壁を作らないで接してくれたことがとてもうれしく思いました。また、運動会に参加し、皆と一団となって盛り上げて走っているときに自分を応援してくれたことがとてもうれしく、また感動しました。

(4) 困ったこと・悩んだこと・その他

15日：運動会の練習と帰りの会だけだったので子どもや先生とあまり話す機会がありませんでした。

また喧嘩をどのようにして止めればよかったのかなど、思うところがたくさんありました。

23日：泣いている子にどのように接すればいいのかわからなく、簡単な言葉をかける事しかできませんでした。

授業との関係で2回しか行くことができなくとても残念だと思いました。

(5) 感想

今回の実習は2回という少ない回数でしたが学ぶことが多く、また貴重な体験をさせていただきとても勉強になりました。子どもたちの視点ではなく、先生の視点から見ることによって今まで見えていなかったものが見えたように感じました。運動会では子どもたちと同じ位テンションが上がってしまい、自分もまだまだ生徒の立場なのかなと感じるところがあり、考える

ことがいろいろありました。

今回体験したことを生かし、今後の勉強に役立てていきたいと思います。また行く機会があれば今度は勉強を教えたいです。

7. 小学校へ行って学んだこと

生物科学科 2年 林 愛弓

小学校へボランティアに行つて私が学んだことはたくさんあります。改めて確認させられたことも数多くありました。その中でも特に印象に残っていることは、「友達の大切さ」と「謝る勇気」です。

友達とは生きていくうえで、とてもかけがえのない存在であるといえます。しかし、その存在が当たり前すぎたり、近くにありすぎて見えなくなってしまうたりして、些細なことで傷つけてしまったり、最悪の場合失ってしまうこともありえます。

しかし、今回主に低学年のお手伝いをさせていただいたのですが、みんなはこの事を知ってか知らずか、とても友達思いだなという印象を受けました。

授業の中でグループに分かれて作業する時間があったのですが、なかなか自分の意見を聞いてもらえず泣き出してしまいう子がいました。すると他のグループの子達が心配して様子を見に来たり、「どうしたの?」「大丈夫?」と声をかけている子がいたりしました。その子がいるグループの子達も泣いている理由が分かり、素直に「ごめんね」と謝り解決しました。心配しに来てくれる子達も優しい心の持ち主で良い子だなと思いましたが、謝ることが出来た子達もとても良い子だなと思えました。なぜなら、「ごめんね」というたった一言を伝えることはとても勇気がいることだと思うからです。

大人になるにつれて自分の失敗や過ちを認めたくないのか、なかなか「ごめんね」という言葉を口にすることが出来なくなってくるように感じます。実際私も周りの人に迷惑をかけてし

まい謝らなければならない場面に遭遇してしまうことが度々ありますが、ほとんどが謝罪するタイミングを逃してしまったり、自身も気が立ってしまっていたりで、謝ることが出来ません。しかし、これは友達を失ってしまうことに繋がりがねません。

小学校低学年の子どもたちには当たり前のように謝ることが出来て、大人になった私たちが出来ないとは、なんて恥ずかしいことなのでしょう。

小学校に行くまで、私は「ありがとう」や「ごめんなさい」という言葉をあまり頻繁に使っていると、その言葉の価値が下がってしまうのではないかと勝手に思い込んでいました。しかし、先ほどの子どもたちが笑いながら作業に戻った様子を見て、思ったことは口に出さないと伝わらないものなのだと再認識させられました。

他にも、前を向いて先生の話聞いていない子がいたら、お互いに注意しあっていたり、廊下でぶつかってしまいコップの水をこぼしてしまったり、雑巾を持ってきて協力して掃除したりと、多くの面で大人が忘れていたようなことをこの子達は日常的に行っているのかと感心してしまいました。

これからは、この小学校ボランティアで学んだり、再認識したりしたことを忘れないように過ごして生きたいと思います。

8. 19歳で再び小学校に通ってみて

生物科学科 2年 望月まどか

この半期間、少ない回数だったけれど、私はみずほ小学校に行っているいろいろなことを学んだように思います。今回私が見てきた子どもたちは3年生、5年生、6年生と、中・高学年だったため、ほとんど手がかからずに自分の中に余裕をもって子どもたちを見ることができたんじゃないかなと思います。私が行くころには子どもたちも大学生の先生たちが来るということに慣

れていたためか、初対面の私に対しても元気にあいさつをしてくれる子が多くて、本当は私の方から挨拶をして手本にならないといけないのにずいぶん助けられたなと思います。大学の授業の関係でいつも午後から行く私の仕事は子どもたちと一緒に掃除から始まります。クラスによって多少掃除の仕方が変わってくるので毎回おろおろの連続でした。3年生の時は私も初めてでどうしたらいいかわからないし、子どもたちも真面目に掃除をしていなかったのが、ダメダメでその日の掃除は終わってしまいました。二回目の5年生の時は、そんな私を見かねてかもしれませんが、「先生はこれをやって」とか「これはそうじゃなくてこうやるんだよ」なんて子どもたちに教えられながらも悪戦苦闘しながら掃除を終えることができました。6年生はすごくしっかりしていて、ちゃんと自分たちの仕事をしているし、私もなんとなく勝手にわかってきて、それでもやっぱり少し苦戦しながら終えることができました。自分にも小学生や中学生時代があって掃除なんて毎日やっていたのに、いざ少し立場が変わってやってみると、こんなにも大変なんだと実感しました。

私は他の人に比べて小学校に行った回数は少ない方だと思うのですが、普段の授業のほかに委員会活動やクラブ活動に参加させてもらったり、運動会直前でその練習を見させてもらったりと、その割にはとても濃い時間を過ごさせてもらっていたのではないかなと感じています。

小学生の記憶力とは驚くべきもので、委員会活動やクラブ活動でたまたま少し話をした子や、むしろそうでない子まで、次の時にその子のクラスになると、「先生この間〇〇委員会来たよね」とか「僕の名前覚えてる？」なんて声をかけてくれたり、間が結構あいているにもかかわらず、覚えていてくれることはすごくうれしかったです。

あと、子どもに言われてうれしかった言葉としては、「先生今日は何時までいられるの?」とか「次はいつ来るの?」なんて聞かれると単

純に小学生って可愛いなあって思いました。

私が小学校を卒業して、時代が変わってしまったこともあったり、地元（横浜市）との違いだったり、驚かされることもしばしばありました。まずは、手すりが低い。これはホントに今になって、実感しました。あと、スロープがないから車いすの子を先生が階段を頑張って機械を使っておろしてあげていたり、帰りの学活でCDをかけて楽譜まで用意してJ-POPを歌ってるのにはびっくりしました。

最後に、機会があれば、これからも小学校に通って小学生とふれあいたいなと思いました。

9. 総合演習の授業で学んだことについて

総合理学プログラム 2年 高橋健治

前期の総合演習を履修して、授業の一環として平塚市の小学校にボランティアをすることで本当にさまざまなことを体験でき、学ぶことが出来たと思う。自分は中学時代にバレーボール部に所属していて、そのときにお世話になった顧問の先生にあこがれ、それがきっかけで高校の半ばから教師という職業に興味を持ち、自らの夢のために教職課程を履修している。今回の約3ヶ月の経験でさらにその気持ちが膨らむことが実感できた。そして自分が将来、教師になるにあたり、みずほ小学校の先生たちの指導を間近で拝見させてもらい、実際に子どもを相手にし、見習うべきところ、これは良くないなと思うところがあり、実に収穫があるボランティア体験が出来たと自負できる。

まず良くないなと思ったのは、低学年の先生のことだが、子どものことを「おまえ」と呼んでいたことである。自分は友達や後輩など目下の相手でも「おまえ」とは絶対に呼ばないと、その呼称にはえらそうという言い方は変だが、なにか言葉では言えない圧力感が感じられるからである。まだ幼い低学年にそういう言い方は、個人的な見解かも知れないが、嫌悪感がある。

だから自分が教師になったら子どもたちのことをどんなときでも愛着をもった名前と呼んでいきたいと心から思った。

次に見習わなければいけないなと思ったところはたくさんあるのだが、特に感じたのが、当然のことかも知れないが、子どもの話を聞くときは中腰になり子どもの目線と合わせて会話などをしていることにはすごいと思ひ、やはりそういう先生は子どもにも慕われているのを見て窺えた。ほかにも小さい子というのは報告書にも書いたが、まだまだ体も心も小さく未熟であり、そして学校で過ごす時間というのは家で過ごす時間と同じぐらいの時間がある。だから大袈裟かも知れないが、これからの長い人生の中で心も体も一番大きくなる大事な時期を担っている立場なので、絶対に中途半端な気持ちで子どもの相手にしてはいけないと感じた。

最後に個人的な意見も入ってしまうが、自分は主に1年生の授業を見ることが多く、彼らは、可愛くなつてきてくれた。将来自分のことを覚えていてくれるかは分からないが、本当に純真無垢で教師の指導一つでこれからの生活が大きく変わってしまうので、ものすごく楽しく良い経験をさせてもらったが、その分責任とやりがいがあるものすごく大きい仕事だと改めて実感することが出来たと思う。

10. 総合演習

—みずほ小学校ボランティアを通じて—

総合理学プログラム 2年 館石敬裕

僕は授業の一環でこのボランティア活動が決まったとき、少し余裕のようなものを感じていました。アルバイトで塾の講師をやっていたこともあり、いつものように子どもたちと関わってきていたからです。塾でも主に小学生を担当していました。ですが、現実とは違っていました。

初めてみずほ小学校の門をくぐった時、1年生の子たちが声をかけてくれました。複数

の子どもからの質問に答えきれず、数人の子が不満そうな顔をしていたのが今でも心に残ります。“個別”の指導を行う塾と異なり、小学校では“集団”の指導が行われます。先生に尋ねたところ、やはり全員の話を聞いてはもらえないとのことでした。“集団”の教育指導が求められる学校教育にはある程度の“統率”のようなものが必要なようです。

担当したクラスは、4年生でした。担任の先生が病欠とのことで、最初のうちは自分一人で子どもたちをみなければなりません。複数の子どもへの対応に慣れていなかったため焦ってしまい、どうしようかと気が動転していたところに、他の先生が来てくださり、なんとか纏めることができました。“集団”である学校にどうやって対応していくかを考えていかなければならないと思いました。

子ども同士の喧嘩も考えなければならぬ問題です。僕も小学生の頃はいわゆる“ガキ大将”でした。何度も喧嘩をして、先生や親を困らせていたのを覚えています。喧嘩は双方の意見の食い違いから起こるのが常ですが、小学校低学年の場合、その内容が「〇〇くんが鉛筆を貸してくれないから」「〇〇ちゃんが言うことを聞いてくれないから」等幼いように思えます。日頃から喧嘩に慣れていない、というより慣れる機会のない新米の先生はそういった幼い喧嘩へ対応が出来ないでしょう。実際、4年生のクラスでもそういった喧嘩が起こっていました。その度に先生方が抑えにきていましたが、止めて叱ってもまだ幼い小学生は喧嘩を繰り返します。ならばいつそのこと決着がつくまで喧嘩すればいいのではないのでしょうか。人は“恐怖”を知ることによって自分の行いを慎みます。恥ずかしい話ですが、ガキ大将だった僕は小学校の頃に転校した先で自分より強い子と喧嘩したことで、殴られることに対する恐怖を覚えました。今の子どもたちは“過保護”な環境の下で育っている分、そういった経験が薄いように思えます。あまり良い考えではありませんが、そういった経

験をしていってほしいと自分は思います。

最後に、なんといっても子どもは可愛いです。あどけなさもあり、活気に溢れている子どもたちを見ていると自分まで元気になってきます。その反面、自分たちは“先生”として子どもの未来に関わる存在であることを自覚しなければなりません。僕はこのボランティア活動を通して、改めてそのことを考えさせられました。子どもの未来を担える教師に近づくために確かな知識をつけていくこと等、今出来ることを一つひとつ確実にやっていこうと思います。

教師になりたい、という意味がこのボランティアを通じてより強くなったように思えます。今回たくさんの子どもならび先生方、保護者の方に出会い、地域の協力があってこそ学校は成立していると感じました。自分に出来ることは少ないかもしれませんが、子どもの笑顔のためにも様々なボランティア活動に参加し、地域への活動に貢献していこうと思います。

11. 小学校におけるより良いクラスづくり

総合理学プログラム 2年 松本光平

今回のボランティアで一番学んだことは、クラスづくりの重要性であった。1年生から5年生までを担当したが、これはどの学年でもいえることであった。その中で一番印象に残ったものが「一回を大切にすること」と「信頼関係を築く」であった。

「一回を大切にすること」とは、授業の始め、先生の指示、授業の終わりといった合図に一回ですばやく反応する子どもを増やすことである。これは、大人の言葉で言うと「けじめのある行動」であるが小学生には「けじめ」自体がわからない。この一回を大切にすることで引き締まった授業が完成する。

次に信頼関係を築くことだが、信頼関係を築くこと自体は当然のことではあるが、現場に入ってみて信頼関係を築くことが授業の内容を一層

濃くしているとわかった。これは、できているクラスとできていないクラスで大きな差があった。できていないクラスでは授業のスタイルは{先生が発問して毎回同じ子どもが答える、また先生が発問する}と意見があるのに言い出せない子どもがいて、言い出せなかった子どもはその先授業に参加する態度をみせなかった。これでは、子どもと先生の信頼が無くなってしまふ。一方、信頼関係が築けていたクラスでは、先生が発問すると手を挙げて答える。そこで他の子どもが「同じです」や「違うよ。こうだと思ふよ」と{先生が発問してその後、子ども同士の話し合いが始まる}と内容の濃い授業であった。このとき先生は「今の意見はどう思う」と子ども同士で意見の対話をさせて双方の意見ともまた、一方の意見を否定することはなく、子どもからするととても受けやすい授業であった思えた。

考察・結果

クラスづくりの影響は学校での生活はもちろん、授業に大きく影響するものである。どんなに授業の上手な先生であっても、どんなにベテランの先生であっても、クラスがまとまっていなければ成り立たない。そんな中、今回学んだことが「一回を大切にすること」と「信頼関係を築く」であった。

この経験を生かし、小学校に教員になったとき、また中学、高校の教員になったときにでもより良いクラスをつくれるように努力したいと思う。

1 2. 先生の視点の学校

総合理学プログラム 2年 石井淳也

「総合演習Ⅰ」という授業は、私にとっては「授業」というよりは、むしろ、「体験」と言ったほうがしっくりくるのかもしれないと思いました。実際に小学校に行き、自ら教育の現場がどういうものなのかを体験するということは、

非常に貴重な体験であり、普通の授業では難しいことを学ぶことができたと思います。

さて、具体的に私がどういうことをしたのかということ、教わったこと、学んだことについて書いていきたいと思います。小学校では主に、休み時間に子ども達と遊んだり、授業の手伝いをしたり、雑務をこなしたりしました。私が担当したのは、時間割の関係上、ほとんどが4年生から6年生だったのですが、子どもとしての視点ではない学校というのは初めてで、いろいろな発見がありました。

まず、ほとんどの授業は教室の後ろで全体を見て、机の間を回って質問などをされたら、教えるといった感じだったのですが、気がついたこととして、先生からは、非常に教室全体がよく見えるということです。後ろから見ていて感じたのですが、積極的に授業に参加している子どもと、集中していない子どもは一目でわかりました。自分が思っている以上に、先生は子どものことが見えているということ、初めて知りました。小学校高学年というのは、体の大きさもそうですが、精神的成長も皆ばらばらで、そういった子どもたちと接するのは非常に大変なことだと実感しました。

ここで、私が印象に残った授業について書きたいと思います。私がかもっとも印象に残っているのは、校長先生の道徳の授業です。道徳というのは専門の先生がいませんし、先生の力量が試されると思います。私は幸運にも4年生のクラスで2回、校長先生の授業に参加させてもらったのですが、非常に印象的でした。先生の道徳の授業では、子どもたちに資料を配り、それについて考えるという授業だったのですが、1度目の時は、あだ名についてでした。男の子自身が呼ばれたくないあだ名を勇気もってみんなに打ち明けるといった感じの話だったのですが、それを読ませて、考えさせるといった感じでした。そこで、私が気づいたのは、校長先生が子どもたちのペースに合わせて声のトーンをゆっくりにしたり、子ども達から積極的に授業に参

加するように、子ども達一人ひとりの意見を引き出すのがうまいように思いました。初めは集中していない子どもも、最終的にはみんなが参加している様子がとても印象深かったです。

最後に小学校のボランティアを通して私が思ったことは、先生というのは非常に「責任」があるということです。私自身もそうですが、今まで私が教わった先生の私に対する影響力は、非常に大きいです。ですから、私も、先生になることができれば、子どもの良いところをみとめ伸ばすことができる先生になれたらよいかなと思います。

1 3. 小学校に行って学んだこと

総合理学プログラム 2年 近藤裕介

今回、「総合演習Ⅰ」の授業で小学校にボランティアで行く事になり、今の子は何を考えているのか良く分からなかったのも、多少の不安を覚えながらもこれから教職課程を履修するにあたり何か参考になる部分があるのではないかと思います、参加する事を決意しました。

最初は本当に授業の一環だと思い、小学校に通っていましたが、回数を重ねる毎に自分自身楽しくなってきたりして、「授業の一環」だということを完全に忘却し、子ども達と友達になったような感覚で過ごしてしまいました。そこで、このレポートでは子ども達と遊んでいく中で学んだ事、そして、小学校の先生がどのような授業をして、子ども達とどのように接していたのか、そのような事を纏め、前期に小学校に行き、自分が学んできた事の証としてここに記していきたいと思えます。

最初の担当は、6年生でした。小学校に着くと、まず職員室に寄って鞆などの荷物を置きます。すると出席を確認する紙がおいてあるので、自分の名前のあるところに印をつけます。この時に自分の担当する学年が書いてあるのですが、その時に書いてあったのが、6という数字だった

わけです。僕は、6年生なら自分の歳に近いし、ある程度は話せるのではないかと思います。多少ホッとしましたが、実際教室に行ってみると結構違うものです。

まず、教室に入った瞬間沢山の目が自分に集中するわけですが、これがまた辛い。まあ当たり前の事だったのですが、転校生とかの気持ちがよく分かりました。ぱっと見た感じ、女の子がかなり多くて驚きました。自分が普通通っていた小学校は男子の方が多かったもので、女子が多いという状況は初めてだったのです。そこで早速困ったのが、給食をどこで食べるかです。ほとんど女の子のクラスだった為、男の子が座っている席が瞬時に把握することが出来ず、僕は戸惑って立ちつくしてしまいました。ところが、そんな僕を見て、女の子が「ここで私たちと一緒に食べよう」と言ってくれました。6年生の先生が何も指示していないのに、自分からそういう事を言って誘えるという事は、素直に凄いなと思いました。

それから、何度か小学校に行き、1年1組を2回と、2年生を3回、3年生を1回、4年生を2回、5年生を3回、6年生を3回担当させて頂きました。5月には、運動会にも参加させて頂き、良い経験になったと思えます。

全ての学年を見てきて、分かったことは、1年生は本当に無邪気で純粋だということです。他の学年の子が純粋ではないわけではありませんが、特に1年生は純粋だと思いました。最初に1年生の教室に行ったときには、1年生の生徒達は僕の事を警戒していましたが、昼休みに一緒に駆けっこをしたり、じゃんけんなどをしたりして遊んでいく毎に仲良くなっていくと、2回目に行ったときには、凄くフレンドリーな感じで話しかけてくれるようになりました。名前も覚えてくれたみたいで、1年生担当ではないときでも、廊下ですれ違った時に話しかけてくれます。

しかし、1年生と接していく中で困ったこともありました。1番困ったのが、1年生の担当

ではないときに1年生に会ったときでした。「なんで今日は来てくれないの?」と言われて、「今日は〇年生に行ってるんだよ」って言ったとき、凄く泣きそうになってしまって、困りました。報告書にも書きましたが、僕はこの時、「また今度行くからね」と言ってその場を対処しましたが、6学年もあるがゆえに、1年生を担当する事が少なく、結局1年生の立場になってみれば1ヶ月間もの間1年生のクラスに行っていない事になっていたのです、そう考えるととても心が痛みました。でも次に僕が1年生のクラスに行ったときには、とても嬉しそうに話しかけてきてくれて、とても嬉しかったです。なにより、約束を果たせたということが僕自身とても嬉しかったです。

2年生は元気がある子が多いと思いました。僕も子ども達に誘われて、昼休みにサッカーをしたりしたのですが、一部の子も間で仲間外れなどがあったみたいです。僕もその現場を目撃していたのですが、どこまで子どもに入り込んでいいのか分からなかったのです、放課後に担任の先生に言おうと思っていました。しかし、放課後になる前に、仲間外れにされた子どもが先生に仲間外れにされた事実を告げていて、仲間外れにした子どもが呼び出されて叱られていました。僕は3回2年生を担当させて頂きましたが、毎回同じ子どもがそういう差別をするらしく、流石にもう黙っていられないと思い、本人に「なんであの子を仲間に入れてあげないの?」と聞いてみましたが、なんだか黙り込んでしまって、僕の事を無視してきたので、仕方なく仲間外れにされた子に話を聞いてみたところ、「〇〇君、僕の事いつも仲間外れにするんだ」と言っていました。2年生で、すでに仲間外れなどの差別が起きているという現実直面し、驚くと共に、そういう事が起きた時はどう対処すべきなのか?ということについても深く考えさせられました。仲間外れにあった子は「今度僕とも遊んでよ。〇〇君と先生が遊ぶ事になったら僕は仲間に入れて貰えないから」と言っていました。

た。

その他に2年生を担当していて困ったことは、担任の先生についてです。ボランティアで小学校に行った程度の僕が言うのもなんですが、2年生の担任の先生の子どもに対する接し方について問題があると感じました。どのようなところが問題かという、まず第1に子どもの事を「お前」などと呼んでいることです。別にそれだけだったら問題がないようにも思われますが、それがたった1回ではなく、何度も繰り返しているということです。更に、言葉遣いについても疑問を感じました。「お前がちゃんと宿題ださねーから悪いんだろが!」などと言いながら、元にあった席を一番隅の一番後ろに移して「今日はここで授業うける!」などと言っていました。本当に子どもが可哀想だった。

3年生は7月の中旬に初めて担当させて頂いたのですが、凄く落ち着きのある子ども達ばかりで驚きました。まず、僕が教室の中に入ると「こんにちは一」という声が聞こえて、礼儀正しい子達だなと思いました。更に、僕に質問するというコーナーを担当の先生が用意してくれたのですが、僕に質問するだけではなく、それに対して、自分はこういう意見です。という事が言えていて、本当に凄くと思いました。例をあげると、「好きな色は何ですか?」という質問に、僕は「紫色が好きです」と答えました。すると、3年生の子どもはただ聞くだけではなく、「私はピンクが好きです」などと、自分の意見も言うことが出来ている点について、本当に素晴らしいと思いました。

4年生は3年生に比べて大人というより、元気でした。しかし、ちゃんと3年生で学ぶべき事は学んでいるという感じで、3年生では到底解けないような問題についてもしっかりと考えて答える事が出来るので、凄く思った。4年生を担当した時に困ったことは、一人の男の子は本当に落ち着きがなくて、先生にいつも叱られていました。すぐにいじけるし、授業中に居なくなるので、僕も手をやいていたのですが、

3ヶ月間小学校に行っている間で、少し落ち着いてきたような気がしました。やはり、小学校に通い、先生や周りの子どもの影響で日々成長しているのだと思いました。

5年生は、もう最高です。なんていうか、本当に仲良くなりました。最初は「誰こいつ？」みたいな感じだったのですが、色々な話を話していくにつれて仲良くなっていきました。そのせいで図工の時間少し騒いでしまい、先生に、注意されるはめに。でも凄く楽しかったです。なんていうか、そういう先生の居ないところで秘密の会話をしたり、騒いだりするのとはとても大切な事だと自分は考えています。そういう事を通じて、友達の輪みたいなものが広がるのではないかと思います。でも今度からは先生に叱られないように少し小さな声で盛り上がると思います。

6年生は3回担当させて頂いたのですが、子どもとサッカーをしたり、野球をしたりして遊びました。1年生や、2年生の低学年はジャンケンや駆けっこなどの簡単な遊びしか出来ないのに比べ、5・6年生は高度なルールを要する遊びが出来るようになり、一緒に遊ぶ時には本当に楽しいです。更に、2回目に6年生のクラスに行ったときから、6年生とも仲良くなり、小学校に行くのが楽しくなったのも事実です。6年生を担当するにあたり、困ったことは特にありません。やはりしっかりとってきているからでしょうか。これから中学生になるのだと思ったら、とても将来を期待してしまいます。

全体を通じて、小学校に行って良かったと思いました。ほぼ完全に埋まっている予定から、僅かな時間を見付けて小学校に行ったかがありました。それだけの価値がありました。教師の視点から見た子どもというものを体験出来た事は、教職課程を履修するにあたり、かなりプラスになると思います。なによりも、小学校に行った僕自身が楽しかったです。後期も時間があれば、また小学校の明るい子ども達と一緒に楽しい時間を過ごしたいと思いました。

14. ボランティアを通して

総合理学プログラム 2年 山田由布子

今回のボランティア活動を通して初めて今の小学生の実態や先生たちの苦労がわかりました。

私は4年生、5年生、6年生の高学年のクラスを担当させていただきました。今の小学生は元気が良く、私たちの頃に比べると授業内での発言が活発に思えました。みずほ小学校はクラス内で女子の数が多かったせいか特に女子の発言力が強かったです。また、初めて会ったにもかかわらず、給食のときに席を用意してくれたり、食器を片づけてくれたりと、気を遣ってくれる子もいて感動しました。さらに帰り際に手紙をくれた子もいて、とても嬉しかったです。

何回かのボランティア活動の中で一番大変だったのは運動会でした。普段よりも早くアパートを出発しましたが、みずほ小学校に着いたときには先生たちをはじめ、ほとんどの子どもたちや保護者がグラウンドに集まっていました。グラウンドにはテントや競技に使う道具がださされていて、これもほとんど先生たちが準備したのだと思うと、先生たちは当日だけでなく前日やそれよりもっと前から忙しい日々が続いていたのだと思いました。自分たちが小学生の頃は先生たちの苦労なんて考えたこともありませんでした。競技の進行・準備は子たちが主に行うのを先生たちがサポートしていました。当日は天気も良く、日の当たりが強かったので途中でバテてしまいました。子どもたちはそんな天気の中で徒競争やダンスなど、激しい運動をつづけていたにもかかわらず運動会が終わった後も元気で羨ましかったです。運動会が終了して後片付けが始まったとき、子どもや先生だけでなく保護者の方まで椅子や道具の片づけをしていて驚きました。先生たちは子どもや保護者が帰ったあとも長い間片づけをしていて、改めて先生たちの大変さがわかりました。私たちが無事に楽しく運動会ができたのも先生たちのおかげだと思います。

私は今、中学校と高校の教職免許を取ろうと思っています。今回、小学校の先生たちを見ていて、いろいろ大変そうな事が見えてきましたが、おそらく中学校や高校の先生も苦労するところが多いのではないかと思います。特に最近では精神的に負担がかかるということを良く耳にするので心配なことや不安に思うことが多いです。しかし、今回のボランティア活動を通して普段みることのできない子どもや先生たちの現場を見ることができたことは貴重な体験であり、この経験を少しでも生かすことができれば良いなと思いました。

みずほ小学校・後期

15. ボランティア活動を行って

国際経営学科 4年 綿貫 瞬

私はこのボランティア活動で、みずほ小学校と土沢中学校に行きました。

中学校から小学校に行ったので、ギャップというのをすごく感じて、悩んだり、困ったりすることもたくさんありましたが、とてもいい経験ができました。

みずほ小学校では、1、2、3年を担当しましたが、最初は本当に何がなんだかよくわからず、子どもと話したり、遊んだりしましたが、段々と接していくうちに学ぶことや悩むことがでてきました。一番悩んだのが、言葉遣いでした。どうしたら興味を持ってくれるか、悪い事などをしたときにそれに対してどのような言葉で対応したら良いのかなどに悩みました。また、小学生にはどこまで話が通じるのかを考えました。

しかし、クラスごとに雰囲気や子どもの人柄、性格が違う中で、一番大事なことは、しっかり目を見て、一生懸命向き合って話すことで、こうすれば、必ず感じ取ってくれるものはあるということを感じました。こういう些細なことだけれど、嬉しいし、これから教師になっていく上でとてもいい経験になったと思いました。全部が全部悩みではなく、中休みの時間には、外でドッジボールをしたり、会話をしたりと色々楽しいこともありました。

土沢中学校では、小学生の低学年とは違い、内気で静かな生徒ばかりでした。しかし、何かを考えて行動したり、発言したりということができていてギャップをすごく感じました。ここでも当たり前のことなのですが、色々な生徒がいる中、会話や、言葉遣いに悩むことはありました。最初の日の体育でバレーボールと一緒に

参加させていただいて、少し打ち解けることができました。最初は内気で、あまり話さなそうな生徒達だったのですが、点を決めるとハイタッチをするなどすると笑顔で返ってきて、それから色々話してきたりするようになりました。

文化祭の見学では、試行錯誤しながらみんなで作上げてきているのだなと思えました。みんな楽しそうで、生徒とふれあう時間はなかったのですが、とても充実した時間が過ごせました。そして、自分が中学校のときのことを思い出しました。

すべての自分の行動、考えることがこれから、親になった時、教師になれたときに役立つとても良い経験になったと思います。

16. ボランティアを通じて

国際経営学科 4年 蓮見直紀

長いと思っていたボランティアも今ではあっという間に終わろうとしている。私は今回、主にみずほ小学校にボランティアに行ったがそこからたくさんの経験を得ることができた。そこで、①学んだこと②嬉しかったこと③悩んだこと、この3つに焦点を当てて、このボランティアで体験した事を述べていきたい。

まず①学んだことは、特に低学年に言えるが、やって良いこととやってはいけないことの区別がまだできない子が多い。だから、授業中に騒いだり、出歩いたり、人を蹴ったり等をする。けれど、学校の先生方はそこを決して見逃さない。そこで、見逃してしまえば、その子は、その行為は悪いことだと思わなくなる。その子の為を想うならば、しっかりと注意する事が大事であるということ学べた。

②嬉しかった事は、児童から「先生」と呼ばれたこと。これは、報告会の中でも話が出たが、ボランティアの際、自分の立場がどこに属するのかが分からない事があった。だから、児童も私の事を名前ですり呼んだり、先生をつけて呼んだ

りなど、困惑していたと思う。けれども、担当クラスの先生の配慮もあり、クラスの児童が私の事を「先生」と呼んでくれた時は、正直嬉しかった。

③の悩んだことは、児童を褒める事がとても下手だなと思ったことである。注意する事も大事だが、褒める事も凄く大事だと思う。私は、その褒め方が単調になってしまい、毎回同じような言い方になっていたと感じた。他の先生方、特に教頭先生を見ていた時は、その児童にあった褒め方をしていたのがとても印象的である。

以上の事から、この短期間のボランティアの間だけで、自分が今まで体験したことのないたくさんの経験を得ることができた。最後に一番大切なことは児童に対する「情熱」だと思う。「情熱」がある先生の周りには自然と児童がついていって、言うことも聞いていた。だから、私は「情熱」のある教師を目指していきたいと思う。

17. 小学校ボランティアを通じて学んだこと

化学科 3年 佐藤大樹

今回みずほ小学校に行き、学んだことは数多くあります。実際に小学校という最前線の現場に行くことによって、自分たちの頃とは違う子どもの実態や近年の教育現場における問題点なども知ることができた。まず、みずほ小学校は全校の子どもが少ないが、教師の数もそれに伴って少ないことがわかる。このように子どもの割合に対して教師の数が少ないと様々な問題が発生する。

一番に思ったことは、つまずきの多い算数や理科等の理系の授業において、TTなどの連携の授業ができないことである。実際に各学年の算数や理科の授業を見させていただいたが、子ども間でのレベルの違いが様々であることが読み取れた。やはり低学年では繰り下がりのある

二桁の引き算がそうであるし、掛け算も苦手意識が高い傾向にあると感じた。

高学年になるにつれて算数や理科に文章問題が多くなり、文章読解能力が必要とされる。机間巡視を行いながら授業やテストを見てみるとわかる子どもはスラスラ解いていくのであるが、わからない子どもはどこがわからないのかが分かかっていない様子である。こういった問題点が今回のボランティアを通じて一番感じたことだった。やはり理想としては子どもの割合にたいして教師の数が多いに越したことはないのだが、実際には難しいと思われる。

先生たちにも聞いてみたが、教師の数は少ないが、少ないなりに教師全体で学校を盛り上げていくといった気持ちが高いことにも気付かされた。児童数、教師数の多いマンモス校であると、教師間での考えの違いや一度も話したこともない教師もいるといった話も聞くことができ、自分なりに少し考えてしまうこともあった。みずほ小学校の場合は、児童、教師間でのコミュニケーションがすごく取れていると感じた。要するにみんなの仲がいいなど思った。本当にこれは小さな学校での最大の利点であると感じた。

昨年の春休みからボランティア活動としてみずほ小学校に行かせていただいているが、自分たちの小学校時代とは全く違うと思ったのも事実である。自分たちの年齢が上がったからというもあるだろうが、先生たちにも聞いたところ、やはりここ10年で子どもと親が変わってきているそうである。来年、教育実習に行く身としては、現代の教育現場に触れ、現代の子どもたちと触れることができたことは大変大きなアドバンテージになり、この経験を大いに生かしていこうと思った。

18. みずほ小でボランティアを体験して

化学科 3年 戸高翔太

今回ボランティアをして良かったなと思う点は、普段体験することができない小学校での子どもたちの生活や先生の仕事、授業の進め方などを実際に見ることができたということです。子どもたちは当たり前ですが何も知らない存在で、日々一生懸命勉強に遊びに取り組んでいるのを見ることで自分も昔はこんな時があったのだと感じ、学ぶ姿勢や想像力、発想力などは参考にしたいし、今でも忘れてはいけないなと思いました。また、自分が小学生のころは先生がどんな仕事をしているのかとか、どんな授業の準備をしているのかなどは考えもしなかったけれど、今自分が教職を目指して初めて小学校はこんなに大変なのかと気づき、改めて先生のすごさを感じました。

自分が担当した学年は低学年が多く、特に1年生や2年生は元気で、授業中も休み時間もパワフルでした。言い争いやケンカもありましたが、ある程度すぐに仲直りできるのもさすが小学生だなと思いました。一日いるだけでかなり疲れました。それでも、子どもが積極的にからんでくれたり、ひたすら自分の話をしてくれたのでとても楽しかったです。

今年の2、3月にもボランティアで行っていたせいか微妙に覚えていてくれる子がいたり、廊下で会うたびに「今日はどこのクラスに行くの？」と話しかけてくれる子がいたりして毎週行くのが楽しみでした。そういう楽しい面もありましたが、それだけではなく困った点もありました。子ども同士のケンカを止めたり、仲直りさせたりするのはとても難しく、未熟な自分にはまだまだ対処できる問題ではありませんでした。あとは子どもになめられてしまい、注意しても聞いてくれなかったり、ぶったりけったりするのをやめさせることができなかつたのが難しいところだなと思いました。

小学生に限らず、自分が将来、中学校や高校

で教える時も子どもになめられては困るので、今こういうことを経験できたことが役に立つかもしれないと思っています。

先生を見ていて勉強になることは、子どもの引きつけ方がどの先生もうまく、子どもに積極的に発言させていて、黒板の字が楷書できれいでした。また、何か問題があれば話し合いの場を設け子どもと話し合っ問題解決していました。ケンカがあっても子どもの話をとにかく聞いて仲直りさせていて、すごいなと思いました。子どもと同じ目線に立って一緒に物事を解決しているような感じでした。子どもと接するときには同じ目線で、相手の話をちゃんと聞いてあげることが大事だということがわかりました。

19. 小・中学校のボランティアに行っ て苦勞したこと

化学科 3年 三賢 学

まず小学校に行って苦勞したことは、小学生は元気がありすぎて授業中に立ち歩いたり、話していることが多く、それを注意して、止めさせたり、先生の話聞くように指示することが難しいと感じた。特に多かったのが暴力であった。自分が一方的に暴力をふるわれてしまったが、これを止めさせるのが難しく、手や体を押さえることで精一杯であった。暴力を止めさせるときの説得が難しいと感じた。

授業の内容では、図書室に行って好きな車を調べるとい授業で、調べることをしない子どもをどうやって調べさせたらいいのか分からなかったが、一緒に調べることでやる気を出してくれ、質問をしてきてくれた。また、文章の書き方を教えるときに、分かりやすく説明するのが難しいと感じ、その時は1年生だったので一字一句教えることになってしまった。子どもの力を引き出せるような説明の仕方を身につけることが大事だと感じた。算数の授業では、足し

算、引き算の計算ドリルをやり、分からない子どもや、悩んでいる子どもに教えた。国語や社会などの文系の授業より算数などの理系の授業のほうが、子どもに分かりやすく教えることができ、大変であったが教えることの楽しさ、理解してくれたときの嬉しさというものがあつた。

小学生とは違って、中学校では、言葉遣いなどがそれなりにしっかりしていて、敬語も所々違っていたがちゃんと話せていた。また、授業を受ける姿勢が、一人一人が楽しく真剣に取り組んでいて、発問に対する答えもしっかりしていた。中には何人か、やんちゃな子たちがいて、先生に対する話し方があまりよくなかつた。話す場面がなかつたため話せなかつたが、そういうときに自分だったらどうしたらいいか考えたときに非常に難しいと感じた。また、自分が参加した授業で、その内容に関係した問題を作ることが意外と難しく、問題のレベルもどのくらいに設定すればよいか非常に難しいと感じた。

中学校のボランティアは行く期間が短かつたが、小学校のボランティアも行くことで、小学校から中学校に上がる時の成長が見られ、子どもの成長する早さを目で見て感じ取れた。また、中学生の言葉遣いや敬語などの話し方を見ていくと、精神的な面も大人になっていく過程も感じ取れ、まだまだ身体も心も成長することも感じ取れるボランティアであった。

20. 総合演習活動報告課題

国際経営学科 2年 高野 敦

私は10月中の2回は土沢中学校にボランティアに行き、その後のボランティア活動はみずほ小学校に行ってきました。

・土沢中学校

土沢中学校には2日間しか行けなかつたです。まず1日目は少し話を聞いた後に2時間分の授業参観をやりました。感じたことは、私の通っていた中学校はいわゆるマンモス校で1学年8、

9クラスあり1クラス40人近くいる学校でした。しかし、今回いった土沢中学校では20人くらいで2年生以外は1クラスしかない学校だったので授業が1人1人に行き届いているなという事を感じました。

2日目は中学校の文化祭だったので体育館での発表を聞きました。この時、インフルエンザが流行っていたのでマスク着用での参観でした。これも私の通っていた中学校とは違い、午前中にすべてが発表し終わるし、みんなが仲良くまた学年ごとの色がとても出ていていいなと思いました。特別支援学級の子どもたちも劇に混ざったり、ダンスを踊ったりととても良い雰囲気の学校だと思いました。

・みずほ小学校

11月からはみずほ小学校に行っています。1日目は5年生の担当でした。小学校では中学校の時とは違い、実際に丸付けをやったり子どもと遊んだりします。たくさんの子どもが話しかけてくるので少し困ることがあるくらいたくさん話します。

2日目は6年生の担当でした。6年生は精神的にだいぶ中学生に近づいているなと感じました。この二日間高学年を見て、中学生では当たり前前をやることを注意したりしなくてはいけないのかなと思いました。また、全てを言わずに子どもたちに考えさせ、やり方を導きさせるのもよいと思いました。

この後の4日間は1年生と2年生を担当しました。中学校から高学年そして低学年なので全く違いました。何が違うかと言うと授業中に後ろを向いて合図をしたり、ギャーギャーしたりまるで動物園のようです。1年生は2クラス1組と2組では雰囲気が全く違って、担任の先生次第でこんなにも変わるものなのだなと思いました。2年生はまだ1年生と似ていて落ち着きがないのですが、先生がしっかりやる先生でガンガン怒られていました。低学年は多くの児童が遊んでと来るので大変でした。

来週で最後になってしまうのでとても残念で

す。最後の日は餅つき大会なのでとても疲れそうですが、最後に子どもたちと仲良く餅を食べさせていただけるという事なのでとても楽しみにしています。これからも何かこのようなボランティアがあったら、やっていきたいなと思いました。

2.1. 総合演習 I レポート

国際経営学科 2年 鳥屋尾聡

10月は金曜日に2回土沢中学校へ行きましたが、先生や生徒との触れ合いというものがなく、授業参観と学園祭の参観で終わりました。しかし、授業の中で先生と生徒がコミュニケーションをとれていて、授業の雰囲気がとても良く、楽しそうな印象を受けました。

11月からはみずほ小学校へ行き、1年生2クラス、3年生、5年生を担当しました。学年だけでなく、同学年でもクラスによって大きな違いが見られました。その違いとは、先生の指導によりクラスの環境が違うということです。どのクラスも先生のカラーというものが染み付いており、子ども自身は思春期を迎えておりませんが、人格が徐々に形成されつつあるのではないかと思います。

次に、学年での大きな違いは想像・思考力、コミュニケーション・表現能力等の違いです。1年生では周りに合わせるということがあまりなく、自我が強く、自分中心の発言や行動が多いという印象を受けました。また、工作では一つのものに様々な機能がついていたりして、空想的な発想力に優れているのではないかと思います。

3年生では体格差という面では1年生と変わりなかったのですが、集団行動や言語表現にかなりの違いが見られ、授業前の机の整頓やゴミ拾いなどで迅速な行動がとれるようになり、授業中の私語があまりなく、敬語も少し使えるという点で、内面の成長が活発な時期であると思

われます。

5年生では、外見でも内面でも男女間に大きな違いが見られました。それは、主に女子の方が男子よりも背が高く、精神年齢も女子の方が高いということです。女子はほとんど決まった子と行動することが多く、自分の空間を作っているという印象を受けました。また、話し合いでもまとめ役が女子ばかりで、責任感というか、グループを一つにしようという姿勢が見られました。

中学校は行く回数が少なく、“変化”というものがあまり見られませんでした。小学校では低学年から高学年まで見ることができ、実際に子どもと接してみて“変化”を確認することができました。子どもに「ダメなことはダメ」としっかり注意し、何が正しいのかを教えることで少しずつ成長していくのではないかと思います。その部分もやはり先生のカラーだと思うので指導面ですごく参考になったと思います。

2.2. 総合演習レポート

情報科学科 2年 高田直紀

今回の総合演習で僕はみずほ小学校にボランティアに行ってきました。ボランティアで1, 2, 3年生の3学年を見てきました。この3学年を見てきて一番感じたことは、1年の差でこんなにも成長するものだなという印象を受けたことです。やはり個人差もあるとは思いますが、クラス全体で見るとやはり学年が上がれば上がるほど成長が見られました。

1年生は見ているとグループでというよりクラス全体での行動が見られ、2年生は小グループに分かれて休み時間を過ごすという印象でした。また、2年生は1年生と遊んであげるような大人な一面を見ることができました。

また、クラスというのは担任の先生で変わってくるというのを今回のボランティアで学ぶこ

とことができました。特にそれが見られたのは1年生です。みずほ小学校は1年生が2クラスありました。その2クラスはもちろん担任の先生は違います。しかし、担任の先生が違うだけでクラスがこんなにも変わるものなのだなという印象を受けました。1つのクラスは朝会の整列やクラスでの授業態度などだいぶ違うように見えました。まだまだ1年生で子どもではあるのですがこのクラスの子は、大人に感じられました。もう一方のクラスの子は整列に時間がかかったり、先生に並ばされなければ並べないという感じでした。また、授業中たち歩いたりと前者のクラスとは対照的なクラスでした。

次に今回のボランティアで自分が小学生だった頃と比べてみました。昔は僕も割とやんちゃな子どもだったので、毎日のように先生に怒られていたし、迷惑をかけてばかりのクラスには必ず一人はいる感じの子でした。やはり、今の小学生にもこういう子はいるわけで、なんか懐かしさを感じました。また、僕は、中学生の塾講師をアルバイトでやっていますが、自分の教えている生徒と比べるとやっぱり小学生はまだ子どもだし、わがままな子もたくさんいて、小学校の先生はすごい大変なんだなということを感じました。でも、そんな子どもたちが成長していき、立派な大人までとはいえませんがお兄さん、お姉さんへと成長していく過程がみられるのはこういった先生という職業しかないと思うし、これ以上ない楽しみでもあると思います。大変なこともいっぱいあるとは思いますが、先生というやりがいのある仕事に魅力を感じることができ、今回教師になりたいという夢の思いがいつそう強くなったボランティア活動になりました。

2.3. 総合演習 I を通して

情報科学科 2年 土屋広輔

私は初めに前期の小林先生の総合演習 I の授業を履修しようとしていました。その授業はパソコンを使って教材を作るという内容でした。そのとき、友達から鈴木先生の授業は実際に学校に行つて子どもたちと関わる事が出来るという内容の授業だと聞きました。小林先生の授業も面白そうでしたが、今まで実際に現場に行くという機会がありませんでしたし、今現在の教育の現状を自分の目で見てみたいという気持ちがあり、今回は鈴木先生の授業を履修しました。

まず初めに私が訪れたのは土沢中学校でした。一番大切なことは生徒とのかかわりについてで、中学生ということもあり、デリケートな部分も多々あるということで実際の現場では、私たちが普段気づかない細かいところまで配慮されていました。たとえばスキンシップの程度といったことなどです。私たちのころより重視されてきていました。中学校には1回行き、それからはみずほ小学校に行きました。

みずほ小学校の1年を担当したときに、まだ幼稚園・保育園からあがったばかりですが、一人ひとりはっきりとした性格が現れていました。子どもたちが作った作品をみるとその子どもたちの特徴や性格みたいなものが出ていました。作品を制作する中で助け合いといったものも見られました。何か発言をするときも座ってではなく立って発言するという教育が1年からされていました。休み時間にはもうすでにグループができていてびっくりしました。

次に2年生を担当して明らかだったのが、1歳しか変わらないのにぜんぜん違うということです。授業態度を初め言葉遣いなどあらゆる場面で成長していました。この1年がすごく大切なのだと感じました。

ずっと低学年の担当が続いていましたが、4年生を担当することになりました。今まで低学

年を見てきたので最初は少し戸惑いました。グループ行動、言葉遣いなどがしっかりしてきていたし、ノートのとり方など個人によって工夫したりしていました。また喧嘩などといった衝突も増えていきました。そんなときの先生の対応などとても勉強になりました。

この演習を通して今まで教わる側だったがこれからは教える側になるので今まで気がつかなかったことや、わからなかったことがしっかりと理解できるようになりました。貴重な現場での経験をこれからは生かしていけるように今後もがんばって生きていきたいと思いました。

2.4. 学校ボランティアに参加してみ

情報科学科 2年 中原雄太

自分は今回初めて学校ボランティアに参加しました。最初は何をするのかよくわからなかったけど、やっていくうちにとても楽しくなっていい経験になったと思いました。

今回は小学校にいて3～5年生と一緒に遊んだり授業をうけたりしてきました。最初は3年生で戸惑いもありましたが、子どもたちがとてもフレンドリーでいろいろと話しかけてきたり、たくさん質問したりしてくれました。4年生は、3年生よりも大人っぽくてとても活発的で話も少しは合うようになりました。5年生のクラスは負けず嫌いな子が多いのかわからないですけど、英語でかるたをやった時は、とても白熱していて見ていてとても面白かったです。

この実習で感じたことは、3～5年生というわずかな歳の差でも、言動や行動が全然違うということを感じました。また学年が上がって行くにしたがって人みしりをしていると感じ、なかなか寄ってこない子などがいました。それと3年生は休み時間にクラスみんなまで外でドッチボールなどをしていたのに対して、4年生と5年生は少人数で、勉強を教えたり教えてもらったり、外でサッカーやバスケットボールをやっ

たりなど、思い思いの場所で過ごしていました。

また、子どもたちは些細なことでもいろいろ話してくれて、例えば「バスケット始めたんだ」など言ってくれたのでとても嬉しかったです。それから音楽や国語などの専門外の教科は教えるのがとても大変でどうやって教えればいいのかわかりませんでした。そういうところを思うと小学校の先生はすべての教科を教えているのですごいと思いました。

どの学年の子どもたちも、クラスの雰囲気がとてもよくみんな仲良くとてもいいなあと思いましたし、それと同時に、授業などを見ると特徴がものすごく表れているのがよくわかりました。自分が小学生の時は、よく遊んではいたんですけど、休み時間は、クラスのみんなで行って遊ぶということはなかなかなかったので、すごく羨ましかったです。先生になったときも子どもたちだけじゃなくて、先生もいれて本当の意味での仲のいいクラスにしたいと思いました。

あと給食を何年振りかに食べたんですけど、懐かしかったし、普通においしくてよかったです。でも給食を自分の学校で作ってなかったのが意外でした。地元の川崎市では自分の学校に給食室があり、そこで作っていたんですけど、平塚市では給食センターで作ってから持ってくるみたいなので、びっくりしました。あと川崎市と平塚市では給食メニューが微妙に違っていたのが気になりました。

この実習を通して、実際の現場で先生のお手伝いという形で体験できたことはとても大きく、この先教師になったときには絶対役に立つと思います。また子どもたちと一緒に休み時間に遊んだり一緒に授業をしたりしてとても楽しかったです。だからこの経験をこれからの糧にしていきたいと思います。やっぱり子どもが好きなのでできればまた機会があればこういう活動に参加していきたいと思います。

25. 現場に行ってみて

生物科学科 2年 石上佳奈

私は、10月は土屋小学校、11月、12月はみずほ小学校へ行きました。

(土屋小学校)

土屋小学校では、担当が基本的に3年生でした。1学年につき、1クラスで人数も30人ほどという児童数の少なさに驚きました。担当の学年が決まっていたので、2週間でしたが仲を深められた子もいたので良かったです。

また、活動内容としては、午前中の授業と一緒に参加して、中休みには一緒に外で遊びました。授業は算数の課題の丸つけや、書道での手伝い、国語、図工に参加しました。算数の課題の丸つけを通して、彼らがどこまで理解していて、どこまで授業で習っているかがわからなかったもので、間違えている子への説明が難しかったです。算数や書道では自分のやるべき仕事かわかり、それをこなしていたのですが、国語や図工などではただ見てまわっているだけだったので、あれでよかったのだろうかかと反省しています。もっと見るべき視点を養わなくてはいけないと痛感しました。そしたら、違う参加の仕方が出来たかもしれません。

また、中休みには鉄棒と一緒に遊びました。3年生以下の子どもたちとも仲良くなれて、嬉しかったです。私は、運動音痴なので逆上がりのコツを聞かれても、あまり良いアドバイスが出来なくて、情けなかったです。3年生以下の低学年の子どもたちと触れ合う中で、低学年の子は表現が素直で、物事をまっすぐ受け止めていると気づきました。

(みずほ小学校)

みずほ小学校では、毎回担当学年が変わり、毎回初めてのクラスで参加しました。学年は1年生、2年生、6年生を担当しました。やはり、どの学年でも、算数の授業では質問に答えたり、教えるという役目がありました。特に6年生では、内容もむずかしくなってきたので、子

どもの個人の習熟度の差が大きい、という印象がありました。説明する際、自分は習っていて当然のようにわかっている事も、子どもはまだ習っていないと知らないこともあり、うまく説明が出来なかったときは理解させることは難しいと感じました。そんな中でも、理解しようと質問してくれて、自分の説明で理解してもらえたときにはとてもうれしかったです。

また、1年生を担当したときは、先生から、「給食中もお手本として見られているからね」と言われ、勉強の前の生活の基礎にも1年生には気を配らなくてはいけないのだな、と感じました。

全体を通し、初めて現場へ行って実際に体験して、先生方が子どもの何を見ているか、何に気を配っているかが学年によって違い、それを少しだけ分かった気がしました。

2.6. 小学校ボランティア活動を通して感じたこと

生物科学科 2年 鈴木りさ

10月から12月まで3ヶ月間、土屋小学校とみずほ小学校に行って子どもたちと接する中でとてもいい経験が出来た。週に1回、午前中だけ、さらに祝日なども重なり小学校に行った回数は全部で7回という限られた時間ではあったが、実際の教育現場を見て、今までの考えが大きく変わった。

10月は2回土屋小学校に行き、4年生の担当だった。まず初めに驚いたのは、担任の先生と子どもがとてもフレンドリーであったことである。先生は子ども同士で呼び合うのと同じようにあだ名で呼んでいて、冗談を言い合い、授業中も和気あいあいとした雰囲気は変わらなかった。その中で過ごす子どもの表情はとても明るく元気で、初めて私が訪れた時にも「なんて名前？」「○○ちゃん（以前来ていた神大のボランティアの学生）知ってる？」と子どもの方が

ら話しかけてくれた。この4年生のクラスは男女関係なくとても仲が良く、授業中もわからないところは教え合っていた。

11月と12月はみずほ小に行き、担当は毎回変わったが、6年生と1年生のクラスの担当になることが多かった。ここでもやはり担任の先生はあだ名で子どもを呼んでいた。1年生は学校に通い始めてからまだやっと7か月過ぎたころということもあってか、休み時間には次の授業の準備をすることを定着させようとしていたし、自分のことは自分でやるなど、私たちには当たり前のことを教えている場面が多々あった。6年生は女の子たちがいくつかの仲良しグループに分かれているのが目立った。私とは離れたところで、友だち同士の愚痴を言っているような時もあったし、話しかけるタイミングや話す内容は悩むことが多かった。男の子はプロレスごっこをしていて、活発な印象だった。1年生と6年生という小学校の中での最年少学年と最高学年を担当すると、その成長ぶりが顕著に見えて、こんなに違うものかと驚くことが多かった。

私は今まで、小学校の教師は中学校や高校の教師に比べてとても大変なイメージがあった。小学校に通う6年間は子どもたちの人格形成に大きな影響を与えると思うし、その大切な時期に一日の大半を一緒に過ごす教師は、生活指導の重要さが増すと思っていたからだ。しかし、今回小学校に行って実際に教師と子どものやりとりを見たり、自分が子どもと関わってみたりして、教師という職業である以上勉強を教えることも、生活指導をすることも大切で、“小学校だから大変”という区別をしていたのは間違いであったことに気づかされた。子どもと会話をする先生方はみんなとても楽しそうだったし、自分も子どもと話したり遊んだり出来て楽しかった。

大学の課題などが滞り、小学校に行くことが大変な時もあったが、子どもに会うと自然と笑顔になれたし、パワーをもらっていた気がする。来年、再来年もできるだけ小学校や中学校に行っ

て、教育現場を実際に見て、子どもと関われる機会を作っていきたいと思った。

2.7. 学校ボランティア活動に参加して

総合理学プログラム 2年 福永翔也

みずほ小学校に行ってみて感じたことは、教師によってそのクラスの雰囲気が決まってしまうこと。高学年になってくるほど子どもの感情が複雑になるためかクラスになじむことが難しくなってくるということである。1年生～6年生まで全てのクラスに参加したが、教師があまり怒ったりしないクラスは常に騒いでいたり、教師の言葉遣いが悪いクラスは子どもがそれを真似してか子どもも言葉遣いが悪く、いい印象を受けなかった。一方、教師が少なからずまとめているクラスはちゃんとしている印象を受けた。良し悪しとして区別するわけではないが、例としてあげるのが1年生の2クラスである。1年1組は騒いでいることが多かったが、教師がそのように決めているのか、ほとんどがやることをやってから騒いでいた。これはこれでよいのかもしれないが子どもに手がつけられないような印象を受けた。1年2組は教師がきちっと守ることは守るといったようなことを行っていたので、多少騒ぐことなどはあったが、少しざわつく程度であった。同じ1年生でもここまで違っていたので、とても印象が大きかった。

そして、みずほ小学校の5年生までの子どもたちは子どもからよって来るので、とても接しやすかった。その中でも1年生が一番接しやすく感じた。しかし、6年生のクラスは他の学年とは違った雰囲気を持っており、どのように子どもと接すればよいのか困惑してしまった。男子が話しかけてくるが、女子は話しかけてこないといった感じであった。一部の女子は企みがあったのかしゃべりかけてきたことはある。また、一緒に給食を食べたが一切話すことなく給食を食べたことがある。6年生になると思春期

になる時期でもあるので、そのようなことが関係しているのかもしれないと感じた。

全体を通して、みずほ小学校は明るく親しみやすい学校だと思う。そして、多くの子どもと接してみて、いろんな子どもがいてそれを束ねることは本当に大変なことだと感じるし、自分が教員になった時はそれを行わなければならないので、自分にそれができるのかが不安だ。しかし、教員は勉強を教える職業でもあるし、子どもの心を養う職業であると感じ、やりがいのあるものだとも改めて感じた。自分にとってみずほ小学校でのボランティアは充実したものであったと思う。

土屋小学校・前期

28. 小学校ボランティアを振り返って…

情報科学科 2年 小泉亮介

自分は小学校ボランティアとして半年間、土屋小学校にボランティアとして参加しました。自分は初めて訪れた頃から一番意識していたことがあり、それは小学生たちとどのように関わっていくことができるかということです。自分は「先生」というような立場ではなく、いかに子どもたちと「同等」の立場になり、無駄な堅苦しさや厳しさもなく話したり、活動したりしてお互いの関係を築き上げることができるかということを目指しています。ただし「同等」の立場になるとはいえ、それだけでは行って良いことと悪いことの判断がつけられない子どもも出てくるものです。だからこそ、その「同等」の立場の中で、行って良いことと悪いことがしっかりわかることの判断、自分の意思で堂々と立ち向かっていこうとするための厳しさ、いろんな人との関係を築いていけるための思いやりと礼儀（正直これは自分自身が本当に知りたいです）を身につけてもらいたいです。それがあってこそ初めて授業というものが成り立つものだと思います。とはいえ、そのようなものは、口できれいごとを説明するだけでは理解もできず、まず説得力にもなりません。そこで大切なことは子どもたちよりも長く生きて得た人間の経験談として説明できるかどうか、そして何よりも自分がそれを身につけているかです。しかし完璧に身につけているという人がいるのなら、個人的にその人をものすごく尊敬します。なぜなら完璧というものになるのが難しいからです。ですがそこでできないと決めつけず、その難しさを自分自身が乗り越えていくという思いを持つということこそが大切になってくるのだと思います。そしていかに自分がそのためにという

強い意志をもち、積極的に考え行動できるかが、さらに大切なことになっていきます。学校というのは子どもたちが勉強や生き方を学ぶことがメインではありますけど、同時にその中で大人も一緒に学ぶことができる場所だと思っています。

という感じでかなり脱線したことを話してしまいました。このような目標を持ちながらも初日にお邪魔しました。その頃はちょうど全校児童が運動会の練習を行っていたのですが、なんと全校児童の前で話す機会が突然現れました。その時はけっこう長々と楽しく話してしまったのですが、その中で一番嬉しかったのは最初に「おはようございます」と言った時、「おはようございます」と大きな返事で返ってきたことでした。挨拶というのは言っても気分がいいものですが、返してくれるとずっと元気になれるものだと思うのです。だからお互いの関係を築いていくためにも挨拶というのは必要不可欠だと感じます。挨拶から一日をスタートさせようという気持ちで、今でも教室に入ったり、廊下で会ったりする時は必ず「おはようございます」や「こんにちは」と言っています。そしてみんなが言い返してくれることで、元気をもらっています。

授業などでは理科の実験（その時は電流を流すやり方について）に参加して実験の様子を見回っていたり、「電球が点かない」というような質問も受けたりして解決できたのもある反面、よく知っている実験でもかなり単純なところに気づかないこともあり、改めて自分も一緒に学習したりしていました。算数の時間などは教室内に参加して、採点などをすることが多かったのですが、その採点で笑ったり、悔しがって自分が一言いうことで元気になって直しにいったりというのがあったりもして、そんな感じに関われることがとにかく楽しいです。そしてそのような関わりからみんなとの仲がより深まっていき、最近ではいろんな学年の子どもたちが男女関係なしに自分と関わりに来てくれて、それ

が何より嬉しいです。休み時間はみんなに「一緒に遊ぼう」と言われ、主にサッカーをやるが多かったです。その時も力加減は必要になってきますけど、「同等」という気持ちを忘れず、手加減なくシュートしたりしていました。大人気ないかもしれませんが、だからこそ、みんなで「楽しかった」と本気で思い、過ごせたのだと思います。

7月に入ってからは、自分の授業の関係で行ける回数が減ってしまい、子どもたちと関わる機会が大幅になくなってしまいました。しかしそれでも子どものみんなは変わらず積極的に自分と関わってきてくれます。だから休み時間の間だけでも、行ければ一緒に遊びたいと感じています。また、この半年間だけにとどまらず、これからも行ける機会があればまたお邪魔させてもらい、みんなともっともっと関わりたいです。そしてこの経験は自分にとって目標に大きく影響してくれているものだと思っています。

そして土屋小学校の先生方にはご迷惑をおかけしたことも多く、本当にお世話になりました。これからも機会があれば、また是非よろしくお願いします。

2.9. 総合演習レポート

総合理学プログラム 2年 刈部真里

私は、今年5月から、土屋小学校へのボランティアを始めました。今までにも一度、地元の小学校でのボランティアをやったりはしていましたが、子ども達を始め、先生方までも全く知らない環境でボランティアをするという事は初めての体験で、最初はとても緊張しました。

最初は、突然小学校に入ってきたものだったので、子ども達も物珍しい、学校に来るお客様のような感じに捉えられていたのではないかと思います。廊下で擦れ違う際にする挨拶一つでも、ぎこちなさの残るものであったり、中には

挨拶をしても挨拶を返してくれない事もありました。その時は、酷く悲しい気持ちになったものです。また、授業でも先生という立場として声をかけるタイミングやどう教えたらいいかもわからず最初は苦労したものです。特に、実習授業の一つである図工の授業では、「あまり手伝わずに、でも困っていたら手伝ってあげる」と言われましたが、言葉の意味がなかなか掴みませんでした。

ですが、何度か経験を積むうちに授業中にどう教えていけばいいか、どう接していけばいいかが感覚として身についていったように感じます。それと同時に、子ども達の態度にも変化が表れ、名前を覚えてくれたり、あだ名をつけてくれたり、廊下で擦れ違った際にするぎこちなかった挨拶も、ごく自然にしてくれるようになりました。それは、子ども達を始め先生方を含めた学校全体に受け入れてもらえたようで、とても嬉しく感じました。

理学部であるという事で、理科の授業にも携わる機会があったのですが、その際に先生が、最近では実験をやりたいがらない、実験嫌いな先生が多い事を教えて下さいました。その中で、実験での指導をする時には、その実験を通して子ども達に楽しい授業をさせる事を大事にするけれど、その中でも危険な事ははっきりと「これはしてはいけない」と怒る事も出来る授業がやれる事が理想の授業なのだと仰っていました。その話を聞いたのは授業の後だったので、話を聞きながらその時の理科の授業を思い出してみると、授業を受けている子ども達はとても楽しそうに実験をしている姿が思い出されました。また、怒るという事にも、ただ叱るだけという訳ではなく、優しく、だけど強く諭すように注意するという方法もあるのだという事も、授業にて学びました。

今回は理科での話でしたが、理科に関わらずどの教科にとっても楽しく授業をするという事はとても大事な事であると思っています。ただ、教科によってはどう授業をしたら子ども達が楽

しく感じるかという方法が違うので、その方法を自分なりに見出して授業をしていく事が教師として子ども達に授業をする際に大切な事なのではないかと思えます。また、何度も失敗を重ねながらも子ども達が楽しいと感じる授業に辿り着ける努力出来る教師を自分が目指せれば良いと感じています。

この土屋小学校での二か月間のボランティア体験は、私にとって得る物が沢山あったと思えます。それは、授業を通して得た教師として必要な物だけではなく、人間として必要な物もあったのではないかと考えています。この体験は、自分が教師を目指す中でも決して簡単に体験出来る事ではないので、これを無駄にする事なく、これから教師として自分が生きて行く中でずっと活かせるようにしたいと思えます。また、そんな貴重な体験をさせてくれた土屋小学校の先生方、また鈴木先生にはとても感謝しています。有難うございました。

30. 総合演習 I

～教育は教室で起きてるんじゃない現場で起きている～

総合理学プログラム 2年 佐藤英雄

私がこの総合演習 I で学んだことは、一緒に授業を受けていた人ならすぐに想像がつくと思います。

なぜなら、授業の形式が実際に教育現場に出て学ぶだからです。

つまり、私が学んだのは実際に現場に出てみないとわからないものが多々あるということです。そうして現場でも学んでいかなければいけないと感じました。さらに言えば教育実習の大切さを学んだような気がします。

教科書を見たり、勉強したりするのはいつでも出来ます。でも実際に小学校などでのボランティアはなかなか機会がない。この総合演習でこのような機会を得ることが出来て本当によかつ

たです。しかも、今それをする事で今しか感じれないものをこの身で感じた気がします。

では、実際に土屋小学校に行ってみて思ったことは、みんな本当に元気。小学生ってこんなに元気なもんだっけ？もしかして自分もこんなだった？と思うばかりでした。本当に予想以上でびっくりしました。早くも予想を超え、現場の空気を感じる事が出来ました。

この他には思っていたより、大人でプライドが高く、気をつけなければ簡単に傷つけてしまうなど自分が小学生の時には感じなかったことを今客観的に感じました。

お昼休みでは体力にも驚かされました。鬼ごっこで追いかけて、ほぼ本気で逃げました。残念ながら自分は授業の関係で昼休みにしか行けなく、一緒に給食を食べ、お昼休みに遊ぶことしか出来ないため、授業場面を見ることが出来ませんでした。

他の人より、関わってられる時間が少なすぎたのが悔しかったです。

もっと、いろいろな場面で今の小学生を見て、理解を深めたかったです。もうボランティアとして行っていることを忘れ、もっと仲良くなりたいたいという自分の感情も出てきました。

なので、前期でこの授業は終わってしまうがぜひ後期もこのボランティアを続けていきたいです。その時には授業風景も見てみたいです。

こんな自分が授業のサポートとしてやっつけられるかどうか分からないが勉強する身として胸を借りるつもりで後期も土屋小学校に通いたいと思います。

ぜひ、後期もよろしくお願いします。

31. 総合演習

総合理学プログラム 2年 忠本暁子

教師になるための授業。総合演習はまさにそんな授業だったと思います。

私たちは授業の一環として自分たちのあいて

いる時間をみつけてボランティアで小学校へ行き、授業の手伝いなどをしました。いうなれば狭い教室での講義ではなく、私たちが将来目指している場所へ行って憧れの先生方のお手伝いをしました。

しかし私は授業を手伝えるだけの時間がとれなかったので、火曜と木曜日の昼休みだけ行って、一緒に給食を食べたり、遊んだりすることになりました。はたしてこんなに少ない時間だけ行って意味はあるのか？という疑問を持ちながら私の総合演習がスタートしました。

初めて昼休みに、小学校へ行く時、とても緊張しました。小学生とうまくなじめるだろうか。無視されないだろうか。しかし、実際に教室に給食を持ちながら入ったら、みんなが「せんせーこっちこっちー!!!」と言ってきてくれました。これは今期小学校へ行く最後の日まで変わりませんでした。素直にすごくうれしかったです。いつだって食べているときは質問攻めでした。一度に2, 3人の子が話しかけ、質問してきます。答えるのが大変でした。食べ終わった後は5分間一緒に掃除をして、その後昼休み外に遊びに行きます。いちばん最初はみんな外に行ってしまい、ポツンと一人教室に残ってしまいました。慣れてくると、「せんせー一緒に遊ばー」と、今度は逆に1, サッカーやろう。2, ブランコしよう。3, ジャングルジムやろう。と同時に誘われてしまいました。短い休み時間。個人的にはサッカーがやりたかったのですが、それだけやるとひいきになってしまうと思ったので、少しずつ全部やりました。

そうして遊ぶことが多くなり、そして、夏が来ました。時には昼休みは外で遊ぶだけでなく、職員室から子どもたちが遊んでいるのを見ました。見ただけで心が穏やかになりました。小学校へ向って歩いているときや、大学内の小学校から近いところを歩いているときに子どもたちの声が聞こえると、ああ、あの子たちかなあ。思わずにやけてしまいました。

私は高校教師を目指しているのですが、小学

校も案外あっているかもしれないと思いました。私にとって昼休みに行くことは簡単ではなく、つらい時期もありましたが、小学校へいく今期最後の日、すごく空しい気持ちになりました。この子ども達に会うのは最後になってしまうのかもしれない。そしてそれをこの子ども達は知っているのだろうか。私はそれを言ったほうがいいのだろうか。結局私は言いませんでした。後期も行くかもしれない。そう思いました。そして、もし行くなれば、今度は授業の手伝いをしたいです。子どもたちと触れ合い、名前をちゃんと覚えたいです。子どもたちのかわいさを今一度知ることができました。

3.2. 小学校の必要

総合理学 2年 白石新之助

1. 掃除について

土屋小学校には週一回しか行けず、また他の小学校との比較が出来ないので自分の小学校を思い出しながら書きます。

どの小学校にも掃除はもちろんありますが、自分の小学校時代はおおまかな役割しか決めず細かな所までは決めなかったと思うのですが、土屋小学校は今日は誰々さんが黒板、誰々が床掃除と教室を掃除するにも一人ひとりの細かな役割が決まっており誰かがヒマになる環境を作っていないことがすごいと思いました。

今はまだ気がつかないと思いますが、このように班(チーム)で何かをやること、このように自分に与えられた役割をしっかりと果たす事は社会に出てからも役立つはずで。まあ…そんなこと考えて掃除する子はいないと思います。また、掃除の班は各学年1~6年生まで一人ずつおり最上級生の6年生はしっかりとリーダーとしての役割(例えば…ちゃんとやっていない下級生などに先生に代って注意したり)を果たしているか土屋小学校のこの掃除の形態は6年生などに責任感を持たせるためには良い

考えだと思います。

2. 先生の重要性

ちょこちょこ先生に叱られている子を見ます。しかもそれはほんのささいなこと、また、全然気がつかなかった事を先生は見逃さずに叱ります。その叱り方は冗談とかではなく真剣に叱ります。しかし逆にささいな事でもその行為が良いことならすぐ褒めていました。

それに給食をまだ食べ終わっていない子には最後まで付き合っあげたり、好き嫌いがある子には食べるまで泣いても救いの手をさしださず、妥協をしていませんでした。それを見ていると自分たちもこんなことがあったなあと思ひだし、あの時あの先生がああ言っていなかったら今の俺はどうなっていたんだろう、と考えさせられます。

それを思うと、小学校の学校の先生は社会の厳しさを教えてくれ、それと同時に社会に出るための人間形成そのものの原点は、ここの小学校にあると考えてもいいのではないか。もしここでケンカしても注意されない、何でも見逃されてしまった人間は社会という大きな空間に投げ出された瞬間、今まで許されてきたことはすべて否定され、どのように生きていけばいいのかわからなくなってしまいます。それはいままで先生たちがしっかりと注意してあげなかった、見て見ぬふりをしてしまったがために・・・。教師には小学生にこのようなことをしっかりと教えなければいけない責任があり、社会に出るための人間形成を手伝ってあげなければいけないと感じました。

土屋小学校・後期

3.3. 土屋小学校から得たこと

化学科 3年 大竹敦史

私は毎週水曜日 9時20分～13時15分まで土屋小学校の3年生の授業補助を担当することになりました。3年生は大学生をお兄さんの存在と見るので、とても興味を持って接してきてくれて、とても楽しかったです。しかし、3年生と接していく上で気がついたことがあります。喧嘩の問題です。昼休みの間にグループ分けをする際、私が2つのチームのどちらに行くか取り合いになりました。その結果、昼休みは喧嘩の原因を子どもたちに聞くことしか出来ず、結局解決できないまま時間が過ぎてしまいました。

この体験をしてからあの時はどのような対応がよかったか考えるようになりました。しかし、これは自分の考えであるだけで、答えにたどり着くものでもありませんでした。なぜならば、その喧嘩が起きた時には戻ることができないからです。自分で考えていても解決はしないので、喧嘩を解決した担任の廣渡先生に直接聞くことにしました。話を聞くと、先生は子どものことをよく把握していて、先生という立場をうまく利用して解決したことがわかりました。片方の子どもは意思が強く自分は間違っことはしていないという性格であり、もう片方の子どもは楽しいことに夢中になってしまう子どもであることを把握し、その良い点・悪い点を踏まえながら喧嘩の原因を探り、解決したそうです。また、仲直りの際は、先生がお互いの子どもの悪い点を少し述べ、最終的にどちらも謝るようにし、丸く収まるような展開にすることが重要であると聞きました。これはあくまで小学校3年生の話であり、高学年になると手を出すというような喧嘩も増えてきます。その際はまず何が原因でも手を出した子どもをはじめに怒ること

は徹底しているそうでした。

私は3年生に2, 3回会った程度だったので性格を把握できていなかったことと、私が先生ではなくお兄さんとしか見られておらず、先生という立場を上手く利用するという事は出来ませんでした。しかし、ここから得られることはとても大事なものだと思います。ひとつは子どもとしっかり接することで子どもの性格などを把握することであり、先生という立場を使ううまく子どもを良い方向に導くことが先生には必要だということがわかりました。自分が先生になった際にも、これらをうまく活用していきたいと思います。

3.4. 土屋小学校で学んだこと

化学科 3年 西島 理

僕は、土屋小学校で2年生(10~11月)と5年生(12月)のクラスを担当しました。2年生のクラスは、みんな僕に寄ってきてくれて、みんなが“次の休み時間遊ぼう!!”と僕にぶら下がってくるのはやはりうれしいものだなと感じました。しかし、みんなと遊べるわけでもなく違うことをやりたい2人がいて僕の体は一つしかないそこで2人を納得させる方法が唯一困ったことでした。じゃんけんで決めさせても負けた子はいじけてどこかへ行ってしまったりと簡単に思えるようなことが難しく感じました。そして、5年生のクラスは、15人で女の子も4人と少人数のクラスです。その為か、男女仲が良く教えあったりして、いい印象を受けました。当然、体の成長もよくわかる成長ですが、敬語をしっかりと使う子どももいるし、会話もしっかりとできる子どもが多くて2年生と5年生ではこんなにも成長しているのかと感じました。やはり、両方のクラスに共通して教えてあげたり、アドバイスしてあげたりした時のうれしそうな顔が印象的でした。

題にもあるように僕が学んだことは、授業の

中に多くありました。授業での先生の子どもの会話、子どものひきつけ方などさすがだと感じました。特に、教頭先生の授業を参観できる機会がありました。授業の始めや途中で、冗談や面白いこと、ちょっと馬鹿げたとこをかなり話しているのですが、その話で子どもが食いついて聞いていて、子どもが飽きないような授業をしていて、つまらなそうにしている子どもがほとんどおらず、子どもを引き付ける方法を知っているという印象でした。また、小学校のすべての先生に共通して素晴らしいのは言葉遣いがとてもやわらかいということです。僕は、2年生のクラスに行くと2年生はまだ小学校の中でも子どもなので一つひとつの自分の言葉遣いが子どもにそのまま伝わってしまうのだと思い気をつけて対応しました。また、僕が模擬授業をしたときに関口先生に「板書が汚い。行書じゃなく楷書で書け。」と言われ、小学校の先生はどのような板書をしているのかと気になって見ていたが、やはり小学校の先生は素晴らしく”とめ””はらい”などしっかりとなされていて丁寧に板書されていました。

この小学校ボランティアを通して、子どもに対する接し方、言葉遣いや授業での先生方のひきつけ、板書なども勉強になりました。僕がなりたいのは中学校の教員志望だが、とても共通することがあるような気がして、今後に生かしていけたらいいと思います。

3.5. 教育活動ボランティア

国際経営学科 2年 佐藤真由香

私は毎週水曜日、土屋小学校へ教育活動のボランティアに行った。土屋小学校は1学年1クラスという小さな小学校である。土屋小学校には縦割り班といって各学年1人ずつで6人の班があり、その班で掃除やピクニックなどの課外活動をしている。小学生はみんな元気で大学生にはないパワーがあった。また私が小学生だっ

たときは名札をつけていたが、土屋小学校では名札をつけていなかった。

私の前半の担当は6年生だった。6年生は私たちから見ると子どもだが、小学校の中では最高学年である。そのため、私は6年生に対してどのように関わっていけばよいのか分からなかった。男の子は案外フレンドリーに話しかけてくれたが、女の子は話しかけても恥ずかしがってうなずくだけなどの子が多かった。女の子は大人びていた。男の子より女の子の成長が早いという意味が分かった気がする。6年生は掃除も授業中も落ち着いていた。授業で一番印象に残っているのは算数の「速さ」である。教科書の例題の数値だけでなく、児童自身の50m走のタイムを使って速さを求めている。自分のタイムを使うことによって児童はよりいっそう学習に対して興味を持てるのだとわかった。

後半からは3年生の担当をした。高学年と低学年の差は大きかった。3年生は嫌なことがあるとすぐに先生に告げ口をしていた。先生もそれに対してしっかりとその場で対応していた。人の嫌がることはしないという、根本的な指導を細かくしていた。低学年の頃から指導していくことにより人間性が身に付いていくのだと感じた。人間関係のことだけではなく給食を食べるときの行儀なども細かく注意していた。6年生では細かく注意するようなことがなかった。また授業は理科で豆電球の学習をしていた。教室の中にあるもので何を使えば豆電球がつくのか探すという授業内容だったが、児童は積極的かつ興味津々に取り組んでいた。豆電球がついたときの満面の笑みが可愛かった。

私たちは年を重ねるごとに知識が増えていくが、年齢と共に忘れてしまっていることもあるのではないかと感じた。初めて教育の現場を体験したが、ボランティアに行った私自身が先生や子どもたちから元気とパワーをもらった。先生は子ども以上に若い気持ちと元気がないといけないと思う。また教育実習に行く前にこのような経験ができてよかった。そして何よりも実

際の教育現場を見て、教員になりたいという気持ちが強くなった。

3.6. ボランティア活動の感想

国際経営学科 2年 原 広子

2ヶ月半という短い期間でしたが、土屋小学校のボランティア活動を通して一番強く感じた事は、子ども達が想像以上にずっと素直で可愛かった事です。土屋小学校という小さい学校であるという点もあると思いますがとても素直でした。

私は前半、11月まで5年生の担当でした。5年生は男の子11人、女の子4人というとても少ないクラスでしたが、みんな仲が良く、とても雰囲気良かったです。女の子とはすぐうち解けることが出来ましたが、男の子とうち解けるには少し時間がかかってしまいました。授業は、算数や総合の時間を見学することが多く、そこでは一人ひとりが自分の意見を持ちきちんと発言していて子ども同士の討論が成り立つ事にとっても驚き、感心しました。算数の時間で、問題を解けない子どもに教えてあげる機会があったのですが、その子がどこまでの知識があるのかが分からなかったもので、少し戸惑いました。しかし、教えてあげた子が「分かった！！」と言ってくれた時はとても嬉しく、感動し、この気持ちが先生達のやりがいに繋がるのだらうと実感しました。

12月になり、担当が2年生に変わりました。5年生の教室とは全く違う雰囲気の教室で、とにかく元気でした。私が一緒に給食を食べていると四方八方から違う話をされて話を聞くのに苦労しました。でも一生懸命話してくれるのがとても可愛かったです。先生の指導の仕方も当然高学年と低学年では違っていました。授業は、校長先生や教頭先生の授業に就いたのですが、さすが経験豊富な先生方という感じで元気いっぱい2年生を上手にまとめていました。2年

生はまだ落ち着きが無い子が多く、先生が叱る機会が何度かあったのですが、なぜやっではない事なのかを丁寧に説明し、ただ上からダメ！と叱るのではなく、まず始めに褒めたり、何かフォローをしてから叱っていて、子ども達も納得した様子でした。先生の表現の仕方でも全体を使って大きくわかりやすく表現していて、普通に話す時よりも子ども達は興味を持って聞いていました。

土屋小学校に行く以前、小さい子どもは好きですが小学生と触れ合う機会は無かったので、ボランティア活動にとっても不安を感じていました。しかし、実際はみんな自然に受け入れてくれ、私自身も積極的に活動ができて、とても楽しく過ごせました。ただ授業を観ているだけで、何の役にもたっていない時もありましたが、その時は先生や生徒とやりとりを学ぶ事が出来ました。実際にお手伝いした時は、緊張しましたが少しだけ教師のやりがいというものが見えたと思います。それと同時に、経験の必要性や安易な言葉や行動をとってはいけない難しさなども考える事が出来ました。

土屋小学校の様に穏やかな小学校ばかりでなく、都市部になればいじめや学級崩壊など激しい現場があると思いますが、実際に教師の仕事を間近で見学できて体験出来たことに意味があると思います。短い期間でしたがボランティア活動で得たものは中学校や高校の教師を目指す上で役に立つはずで。また機会があったらボランティア活動に参加したいです。

3.7. 総合演習 I レポート

国際経営学科 2年 坂田彩美

私は、毎週水曜日に土屋小学校に行かせてもらった。土屋小学校は、1学年1クラスで児童数が少ないと感じた。小学校へ行くということは、私にとってとてもいい経験になった。小学校に入るのは約8年ぶりで、机や椅子、水道な

ど全部が小さくて、懐かしい気持ちになった。

土屋小学校の子どもたちは、みんな素直で明るい子だった。6年生は他の学年に比べて、大人な感じがした。私の担当は、最初4年生で、次は1年生だった。

4年生は、とても明るく元気なクラスだった。初めてクラスに入ったときから、いろんな子どもたちが話しかけてくれてすぐに馴染めた。給食の時間では班ごとに食べていたが、どの班も笑いが絶えず楽しそうに食べていた。しっかり時間を守って行動していた。休み時間には、鉄棒やドッジボール、バスケットボールなどをして一緒に遊んだ。体育の授業では、みんな積極的に準備や片付けをしていて、周りが見えている子たちだと感じた。チームごとに話し合っているときも、自分の意見だけを言うのではなく、しっかり他の子の話を聞いていた。4年生は、総合の授業で大豆を育てていて、大豆を収穫した後に軍手をなくしてしまった子がいたが、クラスの多くの子と一緒に探していて、思いやりがあってとてもいいクラスだと思った。

1年生は、とても小さかった。給食を食べるのにも時間がかかっていて、なかには掃除の時間もずっと食べている子がいた。一つひとつの動作が、ゆっくりだった。一輪車がはまっているようで、休み時間はみんな一輪車をやっていた。まだ周りがあまり見えていないので、休み時間に遊んでいるとき怪我をってしまった子がいて、見ていて危ないなと思った。算数の授業では、たし算、ひき算を教えた。進み具合は子どもによって、かなり差が出ていた。1年生は、みんな自分のことを話しがっていて、何人もいっせいに話しかけてきて、聞くのが大変だった。

今回、小学生と接することができて、自分も小学生のときの気持ちになれた。土屋小学校の子どもたちは、みんな素直で思いやりのある子どもたちで、自分の日頃の行動を改めようと思った。とてもいい経験になった。

38. 土屋小学校演習を終えて

国際経営学科 2年 川島 環

私は、10月から12月まで毎週木曜日、土屋小学校でのボランティアをさせて頂きました。土屋小学校は、色々な行事を行っていて、行事があると学年関係なく行事や総合学習を優先して参加させて頂きました。その中で、低学年から高学年まで見てきて、低学年と高学年の差をすごく感じました。学年が上がるごとにどんどん成長していくのだと感じました。小学校に行くと、みんな元気だし、素直だし、特に若さの面で自分とのギャップを感じて、小学生=子どもと思ってしまっていたけど、最初の担当学年だった6年生を見ていると、最初に思っていたほど子どもじゃないのだと感じることが何度ありました。6年生は、学校の最上級生としての自覚もあるし、中学校に上がる学年でもあるから、すべての面で小学生だからといって、子ども扱いしないで、一人の人として対等に接することも必要なのではないかとも思いました。

土屋小学校では、授業で、4年生と6年生を担当させてもらい、クラスの雰囲気は、当たり前だけど一つひとつのクラスで全く違うということが感じられました。それは、机の配置や、授業の雰囲気や進め方、子どもたち同士の呼び名、給食の食べ方など、いろいろな場面で感じることができました。担任の先生の方針も強く反映される場所だと思いました。クラスの雰囲気作りも教師になったらしっかり考えないといけないことだと思いました。

土屋小学校では児童数の少ない学校のメリットをたくさん感じました。やっぱりみんな仲が良かったし、授業の場でも、苦手な子には別室で個人指導をしたり、手の空いている先生や、私たちが授業の難易度によって駆り出されることも何度もありました。わからない子を置き去りにしないで指導できる場所は少人数学級ならではの良いところだと感じました。

初めて小学校へ行った日は、小学生の元気さ

や、若さを実感し、一つひとつの会話でもギャップを感じ、普段感じないほど疲れてしまいました。初めてで、子どもとどう接していいのかもわからないし、何をしたらいいのかもわからないので、常に気を張っている状態でしたし、小学生の無限の体力に正直圧倒されました。演習が終わってあまりにも疲れすぎて、「私は小学校の先生には向かないのだ」と思ってしまったくらいです。

しかし、その疲れを感じたのはその日だけで、何度か通って行くうちに慣れてきて、初日ほど疲れることはなかったし、逆に小学生とのやりとりがすごく楽しく感じられるようになってきました。やっぱりどんなことでも、初めてのことをやる時は、最初は疲れるし、体に力が入りすぎて、上手く力を抜いてリラックスすることができないのかなと感じました。変に力を入れないで、等身大で小学生と接したほうが、自分も楽し、小学生とも仲良くなれると感じました。子どもから見たら私たちは、先生というよりも、“お姉さん、お兄さん”だから、どれだけ自然に接しられるかがポイントだと感じました。自分を出すことが、楽しむことにつながってくると感じました。

今回の、小学校でのボランティアを通して、改めて素直さや、無邪気さの大切さを感じました。やっぱり、思春期に入る中学校や、高校になってくると薄れていくものが、小学校ではたくさんあるから、そこを大切に伸ばしていくことが重要だと思いました。子どもたちから学ぶことはたくさんあって、大人になるにつれて忘れてしまうものばかりなので、小学校教師もすごく魅力のある職業だと思いました。今回この体験ができて本当によかったです。

39. ボランティアでの経験

国際経営学科 2年 船守翔子

私は3つの学校の中から、「土屋小学校」を

選択してボランティアに行った。他の学校にも行って様々な場所で様々な経験をするのも良い経験になると思ったが、一つの学校に集中している学んでいくのも良い経験ではないかと思い、私は一つの学校に絞ってボランティア活動に取り組むことにした。

土屋小学校で私はまず6年生の担当になった。6年生とは、神奈川大学でスポーツを教える教室を開いた時、一緒にスポーツをしたことがあったので、すぐに馴染むことができた。土屋小学校の6年生ははじめが全くなく、みんなとても仲良しだった。私が小学校6年生の時は、クラスの中で、はじめがあり、苦勞した思い出がたくさんある。そして、お互いに名前を呼ぶ時は呼び捨てで呼ぶのではなく、「〇〇さん」と呼ぶルールがあった。このルールに私は驚いた。私が小学生の頃には、この様なルールがあっても守らなかつたらうし、守る人は少ないと思う。しかし、みんなこのルールを守って呼び合っていて感心した。そしてもう一つ驚いたのは、「給食」である。給食というのは残したら怒られるイメージがあった。しかし土屋小学校では、食べる前に配膳された物を減らして、自分の食べられる量まで減らすことが許されていた。

12月からは学年が変わって、4年生の担当になった。4年生は高学年とはいっても6年生とは、全く違った。まず、みんなで集団行動をするときに必ず何人かは別の行動を取ってしまう。そして、誰かが間違つた発言や行動を取ると長い間引きずり、罵る。しかし、6年生と比べて、授業中や普段の生活でも自分の意見をはっきり言う子どもが多いと感じた。だからこそ、衝突して喧嘩が起きてしまうのだと感じた。

3ヶ月という短い期間で、2学年という少ない人数としか深く関わることが出来なかつたが、とても良い経験が出来たと思う。小学生は、新しく来た人にすごく警戒するが、その分すごく興味を持っている。私たちから気軽に声をかけると、徐々に心を開いてくれる。そして、名前を呼ぶと名前を覚えていてることをとても喜んで

くれる。

今回、小学校で学んだ様々な経験を、将来教師になった時や教員採用試験、教育実習で活かしたいと思う。

40. 土屋小で学んだこと

情報科学科 3年 上村 恵

僕が土屋小学校で手伝った学年は、6年生、4年生、3年生のクラスでした。最初に行ったときは6年生のところで、算数の丸付けと、リンドウ祭の話し合いなどをやりました。算数の丸付けは、正解した子には丸をして間違えた子には答えを教えないようにやり方を説明するのに苦勞しました。6年生の話し合いはみんなちゃんと意見を持っていて、それをみんなに伝わるように話しているし、聞くほうもしっかり聞いていて妙に大人に見えました。

次に3年生のところでは、子どもらしく無邪気な感じがあって、すごく積極的に接してくれてうれしかったです。3年生の授業では、算数の三角形の授業に参加させてもらいました。4種類の色で5本ずつ棒が配られて、それを使ってさまざまな三角形を作るレースをしました。そのときズルをする子、たくさんつくる子どもや理解出来てない子どもなどいましたが、競争するごとにみんな作る個数も増えて、半分以上の子が出来るようになっていました。

次に4年生のところに行きました。4年生のところでは、国語と算数のテスト直しをやりました。国語では、僕の知らない事を知っていて勉強になりました。テスト直しでは、計算のやり方など、丁寧に教えたなら理解してくれて、すごくうれしかったです。

6年生のところで学んだことは、6年生は小学校では最上級生で、大人らしい感じで、しっかり考えたことを話しているとおもいました。先生も6年生にしっかり自分の考えをもたせ、意見をいえるように進めていたと思いました。

3年生の所では先生が大きな声ではっきりとわかりやすく授業を進めていて、子どもたちの興味をそそる授業をしていたと感じました。僕が見た学年では一番子どもたちが楽しそうに授業を受けていました。

4年生の所では、先生が子ども達がわからなかった時のヒントの与え方が非常にうまく教えていたと感じました。

今回授業で土屋小学校にいて先生は子どもの気持ちとかも考えて授業を計画しているとおもったし、人としてのあいさつやら返事がしっかり出来ているとおもいました。あとずっと後ろで見ていて少し子どもの考えや気持ちなどがわかるようになった気がします。

4.1. 土屋小学校のいろいろな体験

総合理学プログラム 2年 佐々木彩奈

私は、土屋小学校に毎週木曜日の12時50分から14時30分まで授業に参加させてもらっています。11月いっぱいまで2年生を担当していたのですが、2年生は本当に元気でした。初めて土屋小学校に行ったとき、お昼休みの時間から2年生のもとへ参加しに行ったのですが、教室をのぞきにいったら誰もなくて驚きました。校庭に行ってみると、ブランコで遊んでいる子どもたちに何年生か聞くと、2年生ということが判明し、その会話が終わった時点でブランコに乗っていた子ども達が鉄棒をやろうと誘ってくれて、それまで馴染めるか不安だった気持ちが、一気に吹き飛びました。そのあととどんどん子ども達が集まってくれて、登り棒をしたり、ジャングルジムをしたり、私も小学生に戻った気持ちになってすごく楽しめました。昼休みが終わって、5時間目の授業は音楽の時間でした。音楽は、鍵盤ハーモニカを演奏したり、合唱しながら踊ったりしました。私は先生の動きをみながら、鍵盤ハーモニカの補助をしたり、一緒に歌ったり踊ったり、すごく楽しんで出来ました。初

日は特に先生という視点ではなく、子ども達と一緒に楽しむといった感じで終わりました。

次の週からは、算数の時間に九九の丸つけの手伝いをしたり、一人ずつに問題を出したり、子ども達からは、先生と呼ばれるようになったりしました。2年生は本当に元気で授業のときも、先生の質問に対してほとんどの子ども達が手を挙げていて、授業に対するやる気が本当にあって、見ているだけで微笑ましくなりました。授業が始まる時と終わる時に日直さんが、その時の時間を声に出してみんなに伝えたりしていました。また、お昼休みのワイワイとした雰囲気から、授業が始まった時に多少うるさくなくても、真剣な眼差しをして授業に取り組める切り替えの上手な子ども達が本当に多いと思いました。2年生同士で喧嘩をしていた子ども達を見かけた時も、すでにその喧嘩には他の2年生の仲裁役がいて、あつという間に喧嘩した2人はお互いに謝っていました。それを見て、小学2年生だからといって、なんでも教えてあげたり、手伝ったりするばかりじゃいけないと思いました。子ども達自身で解決出来ることもたくさんあるから、それを温かく見守ることも時には大事だと思いました。普段どんなに担任の先生に注意される子でも、喧嘩の仲裁を立派に果たしたりしていて、2年生の、無限な可能性を感じました。一人ひとりが、授業に真剣に取り組んだり、友達と無心に遊んだり、時には先生に怒られたり失敗したりもするけど、めげずに頑張ったり、実際にそういった一つひとつのことに対する取り組みの姿勢は、普段やっているようでやっていなかった私を見習うべき点であると思いました。12月からは、少し寂しいのですが担当が2年生ではなく6年生になり、2年生の時とは違う落ち着いた雰囲気を感じます。土屋小学校に行けるのも残りわずかなので、なるべくいろんな子ども達と関わったりして、いろいろなことを学んでもらいたいし私自身も学んでいきたいです。

4.2. わたしの小学校体験

総合理学プログラム学科 2年 神田恵子

小学生は元気でやんちゃでちょっぴりいたずらっ子だけど、本当にみんな可愛くて週に1回のボランティア活動が自分の中で楽しみになっていきました。

わたしは土屋小学校の3年生と一緒に勉強することになりました。3年生は元気いっぱいである明るいクラスです。先生も温かみがあって、しっかりとした方でした。初めて行った時はとても緊張していたのですが、みんながかけよってきて自己紹介をしてくれたり、話しかけてくれたので自然と笑顔になることができました。お昼休みは鉄棒、探検、ドッジボール、サッカー、たくさんのことをして遊びました。子どもたちと遊んでいるうちに、私自身も夢中になっていたと思います。子どもたちは私のことを先生というよりは、お友達とかお姉ちゃんのような感じで接していたような気がします。

小学校に行くのは本当に楽しい時間なのですが、何回か行くうちに困ってしまうこともありました。先生がいない自習の時間のことでした。みんなは漢字の練習をするはずでしたが、少しすると手を止めている子がいました。様子を見ながら近づいていくと、どうやら鉛筆の芯が丸くなってしまっただけで字を書けなかったようです。私が話しかけていると隣の席の子が鉛筆削りを持っていました。貸してもらるように頼んでみたのですが、3年生のクラスでは授業中に鉛筆を削ってはいけないというルールがあったようです。私は知らなかったとはいえ、いけないことをさせようとしてしまいました。他にもお茶は一日に何回しか飲んではいけないなど、私が気付いただけでもいくつかのルールが教室にはあるようでした。そのため何度か失敗してしまいそうな事があったけど、そんな時は周りの子が教えてくれました。でも、もしかしたら教室でのルール、学校でのルールをあらかじめ少しでも把握しておく小学校での活動がやりや

すいかと思いました。

私が小学校へ行く時間は総合のような学習をしていることが多かったので、普通の授業の様子はあまり見られなかったけど、先生の子どもに対する接し方や扱い方が、見ていてとても勉強になりました。先生は教室がうるさくなった時にただ注意するのではなく、静かに待っている子をほめていました。そうすると、他の子はほめられた子を真似して静かになることができました。後ろから見ているとその様子がとてもよく分かり、ひとりの静かが教室に伝染していくようでした。先生は子どものひとつひとつの行動や言動を注意していて、始めは少し厳しめかなと思ったけど、私たちから見て小さなことが、この年齢の子どもにとって大きなことで、これから成長していくにあたって大切なことなんだなと感じました。

私が小学校に通っていた時には、先生の姿やクラスの友達を見ていたはずだけど、毎回たくさんの発見があります。これは私が先生でも子どもでもない立場で先生と子どもとの関係を見ているからではないかと思います。始めはこの曖昧な立場に戸惑うこともあったし、どちらの目線で行動すればいいのか分からなくて困ってしまうこともありました。でもせっかく今貴重な体験をさせていただいているので、どちらの立場でもないことを武器に私だから見えることをたくさん学んでいきたいと思います。

4.3. ボランティアを通じて

情報科学科 2年 大川哲史

初めに小学校へボランティアに行く聞いて、正直驚きを隠せなかった。シラバスどおりに学生同士ディスカッションをするんだらうな、とっていたからだ。教職課程を受けるにあたって、後々の教育実習でも学校に関わることになるのだからそのための慣れと思えばいいのだが、近年の学校はモンスターペアレントなど様々な

問題があり正直不安だった。

その後行き先や日程も決まり、担当日前日になると始まってもないのに緊張していた。だが、実際に担当クラスに行ってみると驚いた。自分は土屋小学校の5年生担当で、小学校の1クラス当たりの人数というのは大体30人~40人だと思っていた。しかし、15人程度しかいなかったのだ。しかも周りをみても1学年1クラスのような感じだった。自分の持つイメージと違っていたし、初対面にも関わらず児童たちは自分に話しかけてくれたのでとても安心した。

初日は2時限続いて理科の授業だった。自分が小学生のとき、どんなふうに授業を受けていたのかは鮮明には覚えていなかったの、どのように授業を行うのだろうかと思いつつ授業が始まる前に思った。実際に始まると初めは授業内容(その日はこの原理と天秤と重りの関係について)とは違う雑学(ウイルスについて)の話だった。教科書にのっている以外のことも教えていて、色々なことを習い始め、覚える小学生に対しては、一般常識等を身につけさせる上で大切なことだと思った。他には、テストが返ってきた日のうちに間違い直しをできるまでやらせるということもあった。自分のときはその場で、赤ペンを使って、言われたとおりに間違いを直していたような気がするの自分のときとの違いがわかった。授業の補助とはいってもほぼ授業の見学といったような感じだったが、体育のマット運動の際にはとても驚いた。その日は技を自由に繋げて音楽に合わせて動く、といったものだったが自分から「こうしたほうがいい」などアドバイスをすることなく児童たちが自らあしろうこしようとしてアイディアを出し合っていて行動していたから。人数余りなどの問題が起こっても解決していた。驚き半分自分のやることあまりなかったの逆で逆にならなかつた。

5年生から3年生へと担当が変わったとき、算数の授業(単元:大きな数)で困ったことがあった。児童たちの丸つけをすることをしていたのだが、 1×3 や 10×1 といった簡単な問題は解け

るのだが 35×1000 となるとみんなが悩み始めた。また、数字を漢数字に直す問題で百を一百と書いたりする児童もいた。自分もどうやって教えていいのかかわからず、あいまいな説明になってしまったと思う。漢数字の件は先生の教え方から児童に自分の書いた解答を読ませてみるという方法を学んだし、 35×1000 についてもただ0を3個付け足すという説明でよかったらしい。始めは自分もそうしようと思ったが、原理がわかっていないと 35×2000 など数字が変わっただけでわからなくなってしまうかもしれないので下手に手を出しにくかった。

始めは不安でいっぱいだったが、やってみてよかったと心から思う。楽しさの反面、悩んだり、困ったこともあったが、学んだことも多々あったからだ。

4.4. 総合演習を通して学んだこと

生物科学科 2年 福田晋也

私は主に2年生の担当をしていました。最初に教卓からクラスみんなに向き合って自己紹介をするのは緊張しました。その後、何人か自己紹介したことについて興味を持ってくれたらしく、話をしているうちに私が思っていたより早く仲良くなれた事が良かったです。ただ、話をしている中で、言葉遣いには気をつけて話したほうがいいと思いました。

活動は主に算数の手伝いと図工の手伝いを行っていました。授業に参加して最初に思ったことは教える事の難しさでした。その中で算数は特にそうだと思います。掛け算で数字、例えば 4×6 だと24と答えられるのですが、それが文章になると首を傾げてしまい、分かってもらえるにはどうしたらいいか悩みました。

図工の授業では、絵を描いて画用紙に貼っていく、その画用紙がどんどん賑やかになっていく絵を見ているのは特に楽しかったです。その中で、みんなの絵を見てまわっている時、でき

た絵を見せに来てくれた事が嬉しかったです。

中休みには、外や体育館でよくドッジボールをしました。何度か中休みの中で、流れ玉が他の児童に当たりそうになったり、怪我をする子、勢いの強いボールが当たったりして泣く子が出てしまった時、どうしたらいいか戸惑いました。鬼ごっこをしている子、サッカーをしている子といった一つの場所でいろんな事をしている子がいるので、授業だけでなく、何があってもいいように、周りをちゃんと見る事も重要だと思いました。それは2年生だけではありません。作業が雨などで遅れている為、二度ほど、6年生の図工で堅穴式住居の手伝いをした時そう思いました。

6年生は自分たちで話し合っ、分担等して、大人よりもスムーズに作業をしていましたが、住居の周りの竹の大きさや紐の長さを鋸や鉋といった刃物で調整するとき、近くに人がいるのに、使用し始めた時そう思いました。

特に参考になったのは、授業の中で落ち着かない子がいて、先生が注意した場面です。結構恐かったです。ですがほかの授業で、その子の絵が上手だった時は褒めていました。それを見ていて、やってはいけない事はしっかりと言い、褒めるところはちゃんと褒める、ちゃんという事が重要で、年齢などから仕方ないといって、言うべき事をちゃんと言わないというのはやめた方がいいと思いました。

この総合演習を通して学んだ事は、一人ひとりと向き合っ話し合うこと。又、季節に応じて健康状態の記録や何が起こるか全く分からないので、授業や休み時間でも常に周りをしっかりと見ていることだと思ったので、先生の方々はずごいと思いました。今回、大学の授業の関係で参加する機会が少なかったため、また機会があれば参加したいと思いました。

45. 総合演習 I 活動の感想

生物科学科 2年 安藤義浩

今回、総合演習 I を通して土屋小学校にボランティア活動として実際の現場はどのようなものであるかを実感しました。自分が一番実感したのは、土屋小学校の児童数がとても少なかったことです。自分の行っていた小学校はマンモス校とも言われていたほど人数が多くて、1クラス当たり35人程度の1学年5クラスもありましたので、土屋小学校は1学年1クラスの20人程度だったことには本当にカルチャーショックを受けたようにびっくりしました。

主に自分は1年生の担当で毎週水曜日の午前中の授業と一緒に参加しました。1年生の授業を見ていて感じたことは1年生の授業においては時間に縛られてはいないということ。あと、一緒になってやる活動は子どもたちが興味を持てるようなものであるということでした。自分は、りんどう祭が間近ということもあったので、一緒に出し物の制作を行った。この出し物に使う商品の材料というのは、先日一緒に神奈川大学ひらつかキャンパス内でどんぐりを拾って歩いたのだが、その時に拾ったものも含まれ、自然に触れ合いながらの課外活動を行った。そのような自然にある物や身の回りにあるペットボトルのふたなどを使って簡単に作れるものを作った。自分はコマづくり協力して、コマを作るには錐など危険なものもあるので、とても注意をして作業を行い、また子どもがけがをしないように目を配りながらの作業でした。さすがにまだ1年生なので細かいところから気を配っていかないと、いつ何が起きるかわからないので十分注意が必要だと実感しました。

他の科目においては、算数の授業で足し算や引き算を学習したのですが、ここで実感したのはSAみたいな先生がもうひとりいたらとても授業がスムーズになると思ったことです。わからない子どもに1対1で教える方と、計算ドリルなどの丸付けをメインに分からない所や間違っ

ているところなどを丸付けしながら教えてあげ
るような感じにしてあげると、もっと子どもが
授業に参加できるような形になると思ったから
です。こんな人数の少ない学校でもわからない
子どもが多く出るのであるから、人数の多いと
ころなどにおいてはもっとわからない子がいる
のではないのかなと思います。自分が先生になっ
たときを考えると、わからない子にいか理解
してもらえるような組み立てを行うこと、そし
てわからない子に1対1で教えられるようなス
ペースを生み出すことも大事だと思います。先
生の数を増やした授業も必要なかと思う。

今回ボランティアに行った小学校で多くのこ
とを学習したのでそれを生かせることが大事。
そのことから次の一步を踏み出したい。

土屋小学校は、いろんな学習ができていいな
と思いました。

資料13 2010年度学校ボランティア活動レポート集

目次

* ページ及び書式を本稿用に変更した。

みずほ小学校・前期

1. ボランティアで得たもの	神谷 匡俊 131
2. 笑顔と成長	神山 典子 131
3. 児童一人一人を視ること	橋本 理子 132
4. 小学校ボランティアを終えて	木村 綾夏 133
5. 小学校ボランティアを終えて	柴田真奈未 134
6. 「知識」だけではない重要なこと	鶴岡 俊二 134
7. 子どもの年齢と内面の発達	金子 仁哉 135
8. 先生によってクラスの雰囲気が変わる	小泉麻衣奈 136
9. 先生のすごさについて	見邊 将貴 137
10. 成長するということ	神原 将樹 138
11. 児童と教師がつくるクラスづくり	富岡 大将 139
12. 子どもと先生	服部起一郎 140
13. 学年によって変わる生徒の接し方	春名 良太 141
14. 小学生の行動そして先生の対応	山本 恭平 141

みずほ小学校・後期

15. 学校ボランティアに参加して 工藤 若菜 143
16. 子どもたちと先生 小椋 光 143

土屋小学校・前期

17. 体験してわかったこと 宇佐美円花 145
18. 成長するにつれて 神林 匠 145
19. 先生たちの裏の努力 斎藤 佳織 146
20. 各学年についての比較 高下 房己 147
21. 個性～みんな違ってみんないい～ 山口 有紀 148
22. 学年の違い ～見守ることも指導～ 狩俣 瑚 149
23. ジェネレーションギャップとカルチャーショック 四ツ家大祥 150
24. 自分の小学生時代と比べて 田中 浩貴 151
25. 教室の雰囲気 吉田 成美 152

土屋小学校・後期

26. 「応用力」 大庭 晴弘 153
27. ボランティアで学んだ子どもへの対応 堀 健太 154
28. 先生じゃなくておにいちゃん先生 小林 由人 155
29. 教師に求められるもの 三浦 雄弘 156
30. 学年が変わるということ。年を重ねるということ。 芳賀 健介 157

31. 叱ることも大事	鈴木 幹太 158
32. 適切な判断から生まれる互いの成長	石倉 光博 159
33. 教師の在り方	小西 一徳 160
34. 教師・私たちの接し方の違い	小此木 彩 161
35. 考え方を大きく変えた瞬間	長谷川周一郎 162
36. 1年生でも…	佐久間達也 163
37. 子どもたちを理解すること	小西 良祐 164
38. 教師の大変さ	齋藤 和宏 165
39. けじめあるひと	鈴木 宏満 166
40. 「子ども脳」への切り替え	西田 紘章 167

みずほ小学校・前期

1. ボランティアで得たもの

科目等履修生 神谷匡俊

自分は、教員を目指す上で、教員の仕事すら把握できていませんでした。教員の仕事は授業を行い、生徒指導し、部活動を行う。そのイメージしかありませんでしたが、このイメージはやはり子どもの目線でしかなかった事を痛感しました。

自分の都合で4回しか行けなかったボランティアですが、うち2回が子どもの授業ではなく田んぼの仕事でした。

もちろん、ボランティアなので普通かとも思うのですが、そこには校長先生や教頭先生や校務さんまでいらっしゃいました。その体験を通して、教師とは授業を行うだけでは無い事を知りました。自分も大人になったのか小さい所に目が行き、教員の皆様の小さな心遣いに気付き教員の仕事の本質に触れた気がしました。

自分は高校でもバスケットボールを通じて、生徒と関わらせて頂いているのですが、それは生徒指導のごく一部だということを実感しました。もちろん高校のボランティアの中では、部活動は教員が生徒の事をどう感じているという事を知るととても大切な場所ですが、今回のボランティアを行わなかったら自分が教師になれた時、戸惑っていたと思うので非常に有効でした。

子どもと関わった感想は、いつもは高校の生徒と関わっていたので、会話は通じるのですが今回は小学生なのでとても気を使いました。自分の頭にあるものを直接子どもに与えるのではなく、一回砕いてから子どもに与えるよう心がけていました。低学年から高学年まで6年間という月日が子どもたちをどう成長させるのか、もちろん高校もとても大切な教育の場所ですが小学校はさらに人格の形成などの多感な時期な

のだとも強く感じました。

授業のお手伝いは難しかったです。算数など足し算、引き算なんか今更わざわざ計算しませんし、数を数えるにしても単純に上から数えるのですが、小学生はわざわざバラバラに数えるのです。やはり、頭の回転といえますか、発想が違うのだと感じ、子どもは自由な発想が出来、大人になると頭が固くなること実感しました。

最後に、このボランティアを通して感じた事をまとめますと、教師の仕事とは何か。人格の形成の大切さ、大人になると頭が固くなる事、行えた回数が少なく想像していたものとは大きくは変わりませんが、実感できた事は自分にとって、大きいものではないかと思えます。

2. 笑顔と成長

国際経営学科 2年 神山典子

小学生ってこんなに小さいのか。はじめて行った時、笑顔で手を振ってくれる児童を見て思いました。わたしにとって小学校というと約8年前です。給食ひとつにしても食器がおしゃれになっていたり、昔はでなかったような給食がでたり、自分が小学生の頃と変わっている部分がたくさんあり、いろんな面で比べてしまいました。

1年生を見た後に、4年生を見たことがありました。1年生はとにかく元気でやんちゃでした。1年生は入学して2、3カ月ということもあり初めての体験がたくさんあります。掃除の時間、ほうきの掃き方、床のふき方、6年生が1年生に教えに来ていました。「みんな、時間無いから少し急いでやるよ、みんな協力してやって」という声をかけながらやっていました。1年生は掃除をしない子がいるのに対し、6年生になるとこんなにもしっかりするものなのかと驚きました。また、先生方は1年生に対して叱るときは怒鳴ったりせず、「どうしてこういうことするの?」「こういうことしていいの?」

と、やさしく問いかけ考えさせるようにしていました。また短縮授業で掃除がなかったとき、「今日は掃除がないよ」と言われていたのに、掃除をしに行って授業に遅れてしまった子たちがいました。遅れたことに対して怒るのか、掃除をやってくれたことに対して褒めるのかわたしはどうするのだろうと思いました。先生は笑いながらありがとうといって褒めていました。確かに遅れたことは悪いことだけれど、掃除をしようという気持ちを持っていた子どもにとっても喜んでいました。「今日は掃除をやらなくていいんだ、ラッキー」と思う子がほとんどだと思うのに、毎日やっているから習慣化していたからかもしれないが、やってくれたのは先生にとってうれしい事なのだと思います。

1年生は何にでも挑戦するのに対し、上級生になると好きな教科、嫌いな教科がはっきりしていました。5年生の教室に行き、家庭科の授業をしました。玉止めや玉結び、縫い方の練習をしているときに、家庭科が嫌いという子がいました。その子は何もやっていなかったのでも「どうしたの？ やらないの？」と聞きました。そしたら、「家庭科嫌い」などといってやろうともしませんでした。好きなことには熱中し、嫌いなことには進んでやらないと、とてもはっきりしていました。しかし、嫌いなものをどうやって好きにさせるのか、難しさを知りました。私も勉強など苦手な嫌いなものがありましたが、親に「やりなさい」とよく言われているのを思い出しました。

たくさん話をしてくれる子、人見知りで全く話をしてくれない子さまざまの子がいました。また1年生から6年生までみることができたので学年に合わせた怒り方、年齢による違いというものがよく分かりました。とにかく学校では小学生たちの元気な笑顔がたくさん見られ、元気をもらいました。

3. 児童一人一人を視ること

国際経営学科 2年 橋本理子

小学生の年代では、友達とケンカをしたり、自分の思うように物事がいかなかったときにすねてしまったりすることがある。その時に、自分の気持ちをストレートに言える子や、なかなか気持ちを伝えられない子もいる。また、善し悪しの判断が間違っていることもある。私が2年生を受け持った時、掃除の時間にケンカが始まった。原因は掃除の時間になっても現れず、遅れてきても仕事をしなかった女の子に対して、ほかの子たちが怒っていたことから始まる。確かに、掃除をしていなかった女の子が悪いのだが、それに対して、同じ班のほかの子が一斉にその子を責め始めた。私はそれにとっても驚いた。悪いことをした子に対して、注意がしっかりとできることはとてもいいことだと思うが、その子達はまだ、「言い方」や「相手がどんなふうにするか」などを考えず、ただただ注意が始まったからである。みんなが口ぐちに文句や注意を言うので、とうとう女の子は泣き出してしまった。その時は、確かに掃除をしていなかった女の子が悪かったと思ったので、周りの子にはそんなに責めなくてもいいのではないかと。ということ、掃除をしていなかった女の子には次から気を付けるようにうながし、その場はいったん収まった。しかし、教室に戻ると注意をしていたほうの子が担任の先生にこの出来事を報告したらしく、またそこでケンカが始まった。先生は、まずは自分たちで話し合わせ、お互いにしっかり思っていることを言うようにうながした。後から見ている、注意をしているほうの女の子が、クラスの中でもよく発言し、そのたび、言い方があまり良くないという印象を受けた。

私は、週に1度しか小学校には行かず、また、2年生を担当したのは2回目だった。児童それぞれの性格や特徴など、なにもわからず、ただその場面で判断するしかなかった。しかし、それでは本当に正しい判断ができないととても強

く感じた。小学校のうちは、クラスの中心的な子や、仲のいい子の発言に左右されてしまう子も多い。そうした時に、その子の立場や性格なども考えて問題と向き合わなければ、子どもたちの納得するような解決に至ることができないのだ。今回の学校訪問で、担任の先生方、クラスにかかわっていない先生方もだいたいの先生が児童それぞれの名前を覚えていることにとっても驚いた。些細な注意や、挨拶でも、一人ひとりの名前を呼んでいた。児童それぞれとしっかりと向き合っている姿勢にとっても感動した。

小学校では児童一人ひとりを見なければいけないということがとても顕著に表れたが、それは、小学校だけにとどまることなく、中学校、高校の教師になったとしても求められることだと思う。子どもを尊重し、良い関係を作るためにも、何か問題が起こった時に一緒に解決するためでも、一人ひとりを理解することから始まるのだと、この小学校ボランティアを通じて学ぶことができた。

4. 小学校ボランティアを終えて

国際経営学科 2年 木村綾夏

私はみずほ小学校にボランティアに行きました。小学校にボランティアに行くと、1年生から6年生までの様々な年齢の子たちと触れ合うことで、普段の生活では気づかないことや、大学の講義だけでは学べないことを多く学びました。実際に小学校に行ってみて、「自分のときはこうだったっけ？」と思うことが多く、変わらないものもあれば変わっていくものもあるのだと強く実感しました。

何回かいく中で、2年生と4年生以外の学年は担当させてもらいました。1年生と6年生の違いはたくさんありました。子どもたちの違いはもちろんなのですが、先生の接し方も学年によって違っているように感じました。

1年生は“自分たちで何かをする”という

ことはなかなかできず、先生が指示した事をその通りにやるだけでした。終わったら「先生、先生」と一人ずつ次の指示を聞いていました。一つの事をやるのに必死で、先生が全体に「終わったら〇〇してください。」と言っても作業に夢中になっていて先生の言葉が耳に入っていない子が多くいました。そのため、先生は何回も同じ事を言っていました。しかし、決して怒ったりせずにそのつどちゃんと答えてあげていました。だからと言って全ての問いかけに答えていたかというところではなくて、必要でないことは軽く流したりしていました。全て答えているときりがないし大変だと思います。1年生を担当する先生はそういうところもしっかり判断しているのだと思いました。

6年生になると、なんでも自分たちでやっていました。調べ学習の時間はそれぞれの班でパソコンでも本でも使い、何も言わなくても黙々とやっていました。先生はアドバイス程度のことしか言わず、あくまでも自分たちで考えて何でもやりなさいといった感じでした。また、最上級生としての自覚がちゃんとあって、しっかり1年生の面倒も見ていました。昼休みの時間などに低学年の子が少し危ないことをしていると、「それ危ないよ」ときちんと注意していました。

それぞれの学年やクラスにカラーがあり、担任の先生によってそのカラーも変わってくるのではないかと感じました。あまり怒ったりしない先生は自然と子どものやる気を出させることができている、そのクラスの子どもも文句を言わずに素直に受け止めていました。また、悪いことをしてしまったら「ごめんなさい」と素直に謝ることができていました。怒ることの多い先生のクラスの子どもたちは、怒られたらまず「何で俺だけ」という子が多いと思いました。謝る時もしぶしぶ謝っているようにも見えました。これは学年の差かもしれませんが1日の大半を学校で生活し、その中でもクラスでの生活が多いのでクラスの環境というのは子どもが成

長するのに重要なことだと実感しました。成長ははっきりしている小学生と身近に接することで、いろいろ気づくことが多く、とても勉強になりました。

5. 小学校ボランティアを終えて

国際経営学科 2年 柴田真奈未

私は初めて教わる側とは違う立場で教育現場に足を踏み入れ、新しい視点で今までは考えもしなかったようなことに気付くことができ、指導の難しさや大変さ、子どもである子どもたちの考えや、教師という職業の面白さを知ることができたように思います。

私は色々な学年を担当させていただいたのですが、学年やクラスによってカラーがありました。担任の先生が厳しいクラスはメリハリがあり、気さくな先生では笑いが絶えず和気あいあいとしていて、また、優しい先生のクラスは子どもたちがすごくのびのびして学校生活を送っているように思いました。学級の雰囲気は担任の先生によって大きく左右されると感じました。やはり小学生という年代はあらゆることを吸収するため、人格形成の重要な年代であるがゆえに、一番身近な大人である先生という立場がどのような存在であるかがすごく大切だと思いました。

そして、先生方は子どもたちに教えるときに色々な工夫をしていました。高学年では間違いは厳しい言葉で指導すればわかるのですが、1年生はそうはいきません。そこで先生方は優しい口調で「○○ちゃんはこんなこともできました。じゃあ○○君はどうかね〜?」と促す指導のしかたをしていました。先生は子ども一人ひとりをしっかり見て、どのように教えれば良いかを考えて接しているのだと思いました。私が1年生の掃除の時間に手伝いに行った時、そこには掃除の仕方を教える6年生の姿がありました。6年生の男の子の後ろに1年生が一列に並

んで見よう見まねでほうきで床を掃いていました。6年生は優しく分かりやすく教えていました。高学年になると自然と責任感も芽生え、もう“教える”ということができるのだと感心しました。指導をしている先生の姿を子どもはしっかりと見ているのだと思いました。また、1年生にとって6年生は見本になる偉大な存在であるのだと思いました。

しかし“教える”ということはそう簡単ではないということも分かりました。6年生の授業を担当している時に漢字の読み方を聞かれました。“先生”と私のことを呼んで頼ってくれたのはとても嬉しかったのですが、私は自信がなくて「たぶん○○だと思うよ。」という答え方しかできず、その時に私は一つのことを気付きました。“教える”というのはただ“知っている”ではできないということです。“理解している”ということが大事で、“理解している”からこそ初めて自信を持って“教える”ことができるのだと思いました。そう考えると先生という立場は、あらゆることを理解していなければいけないのだと、改めて先生の偉大さに気付くことができました。

ほかにも、プール掃除、田んぼの草抜きなど、色々なことを体験させていただき、子どもに教えることだけではなく、子どもを取り巻く環境を整えること、安全を保つことなども教師の仕事であるということも知りました。この小学校ボランティアを通して、たくさんの知識を得ることができ、子どもたちから私が成長させてもらいました。

6. 「知識」だけではない重要な事

生物科学科 2年 鶴岡俊二

僕は3カ月間、みずほ小学校で普段の授業風景を観察し運動会にも参加しました。初めて担当したのは1年生で、子どもにどの様に接したら良いか分からずに緊張している僕に

子ども達から話しかけてくれて緊張がほぐれたのを今でも覚えています。最初に気付いたのは、先生はきちんと子どもの目を見て大きな声で接しているということです。また、教え方も全てを教えるのではなく、その子ども自身に気付かせるような教え方をしていました。これは教え方の基本として勉強になりました。初めのうちは授業見学の他に運動会の練習も見学しました。恥ずかしがらず歌を大きな声で歌い踊りを体全体で踊るなど皆一丸となって練習していました。運動会当日では子どもは全力で頑張っており、今の自分はこの頃のように全力で取り組む事が無くなったがこれは非常に大切な事ではないかと考えさせられました。しかし、中には不真面目な子どももいます。僕は注意された経験は沢山あるが人に注意をした経験がないので初めほどの様に注意をすれば良いのか分かりませんでした。そこで先生の注意の仕方を観察すると、「〇〇しなさい。」という命令口調ではなく、何故それがいけない事なのかまずそこからしっかりと聞いて聞かせていました。暴力を振るう等、本当にいけない事をした子どもを叱る時にはしっかりと子どもの目を見て、はっきりと聞こえる声で叱っていました。これほどでも参考になりました。

運動会の前は低学年を担当していましたが、運動会の後は初めて高学年を担当しました。そこで驚いたのが、子どもの雰囲気は全然違う事です。1年生や2年生は年上の人間でも緊張する事無く話しかけ、自分の意見を躊躇せず発言します。しかし、5年生は大人っぽく子どもによっては年上にはきちんと敬語で話しかけてきます。また、子どもから話しかけてくる事が少なくなります。授業で先生が意見を募っても、躊躇してほとんどの子どもが手を挙げません。この頃からこんなに子どもの性格が変わってくるのかと驚かされました。高学年になると授業の進め方も変わります。低学年のうちは1から10まで全て面倒

を見なければいけないのに対して、高学年になると先生が課題を出すと後は子どもが各自自分から課題をこなす様になります。少しでも不真面目な子どもがいたら先生は甘やかさず厳しく一喝します。学年が変わると教え方も違うという事を学びました。

僕は1年生の同じクラスを何度も担当しましたが、前は授業に参加していなかった子どもが授業に参加していたり、喧嘩が無くなっていたりなど行く度にクラス全体が成長していて驚きました。子ども自身もこうして精神的に少しずつ大人になっていくという事を学びました。

様々なクラスを見て感じたのが、各クラスにそれぞれの雰囲気があるという事です。学年が違えば勿論、同じ学年でもクラスが違えば雰囲気が違います。どの様な子どもがいるかにもよりますが、これは先生の教え方による影響が大きいようでした。クラスが良い雰囲気になるか悪い雰囲気になるかは先生の教え方の腕にかかっていると思いました。

7. 子どもの年齢と内面の発達

生物科学科 2年 金子仁哉

ここでは、小学校におけるボランティア活動から学年と子どもの行動の発達についての関係の考察を述べます。

まず、1年生のクラス内での行動ですが、授業中の私語や立ち歩きなどの頻度はクラスによって差がありました。そして、その私語については普段静かなクラスにおいても移動教室などでは多くなる傾向がありました。それについては運動会での活動でも強く感じられました。また、普段の生活においては、給食時に箸をきちんと持っていない子どもが見られました。これらのことから、1年生は行動から生活習慣についての指導を考える必要があると思いました。

次に、2年生についてですが、最初に目につくのは子ども間での体格差です。1年生の時から皆かなり身長が伸びているはずですが、それでも差が開いているように思いました。また、成長しているのは体の面だけでなく内面にも見られました。それは、授業中の私語が多い子に対して注意する子どもがいたことです。それで、クラス内での問題の自己解決をしようとする意識が生まれ始めていることが分かりました。

そして3年生担当時の話になりますが、ここで今までとは子どもとの接し方において大きな違いが表れました。それは、スキンシップの取り方が低学年ではおんぶが多かったが、接触から会話主体になったことです。これは子どもの自分の話を聞いてもらいたいという欲求が表れたものだと思います。

最後に担当した中では最高学年の4年生についてです。4年生では主に工作系の授業に参加したのですが、作業に集中するためなのか私語はほとんどありませんでした。そして図工の色塗りでの縁取りや色の置き方など、授業態度だけでなく技術面においての上達がありました。個人での作業が主体の授業だったこともあるでしょうが、授業中の質問は今までの担当学年で一番多かったのは4年生でした。また、休み時間でのドッジボールで子どもの身体能力の上昇について実感しました。

以上で述べたように、小学生の内面は4年生までのたった4年間で飛躍的に成長します。ちょうど7歳から10歳という、ピアジェの発生的認識論では具体的操作期にあたります。この時期に子どもは論理的に物事を考えることが出来るようになります。それは私の活動での具体例では、低学年の子どもが注意を受けた時に、「嫌だから」という漠然とした理由で我儘を通そうとすることから、学年が上がって明確な理由から自分の意思を通せるようになる思考の成長に表れていました。このような子どもの成長は、単純に上記の論理に

よるものだけではなく、兄弟学級という下級生との繋がりが重要であることが2年生の1年生とのレクリエーションの話合いからわかりました。つまり、子どもの健やかな成長には学年という年齢単位を意識しながらも、他学年との交流が大切であると今回のボランティア活動から知り得ることができました。

8. 先生によってクラスの雰囲気が変わる

生物科学科2年 小泉麻衣奈

私は、2年生から6年生の授業を見学させてもらいました。2年生では、学級菜園の雑草抜き、算数の授業。3年生では、算数の授業。4年生では、音楽の授業。5年生では、家庭科、書写、総合の授業。6年生では、家庭科、総合の授業。他にも、運動会の練習の見学や、田んぼの雑草抜きなどをやらせていただきました。

今回活動して、挨拶などをしっかりとしてくれたり、わからないことがあったらいろいろと教えてくれたり、何か問題があったとき子ども同士でわからないところを教えてあげたり、注意していたりしたので、子どもの一人ひとりがしっかりしていると感じました。私の小学校では授業のときに、なかなか積極的に発言をすることができていなかったのですが、みずほ小学校ではそれができてすごいいつも感じました。また、クラスの数が少ないからかもしれないのですが、みんながとても仲がよさそうにみえました。他にも、低学年のうち、掃除などを効率良く行うことができなみたいなので、先生が上手に指示をしていましたが、だんだん学年が上がっていくにつれていろいろなことが上手に行えるようになって、高学年では下級生の面倒をみられるくらいにしっかりとできてすごいと思いました。

また逆に、低学年の方が、私をはじめでそ

のクラスに行ったときに、よく声を掛けてくれたり、質問を気軽にしてくれたりしているなど感じました。高学年は低学年に比べてそのようなことが少なかったように思いました。子どももすごいと感じましたが、先生方もすごいと感じました。

そして、先生方はみんな親切だなと感じました。私一人では、子どもをどのようにまとめていけばいいのかや指示の出し方、注意の仕方、喧嘩の止め方などがよくわからず何にもできなくなってしまうのに、先生方はそれぞれクラスをまとめているのですごいと思いました。また、どの先生方も子どもをまとめることが上手だということは共通することなのですが、先生によって、指示の出し方、注意の仕方、喧嘩の止め方、子どもの話の聞き方、しっかり聞かなきゃいけないときはしっかりと話を聞き、流してしまっても大丈夫なときは聞き流すなどとそれぞれ異なっていました。先生方はそれぞれのやり方で、子どもと上手に付き合っているのだと思いました。そのように、先生によってやり方が異なっているので、その先生によって、クラスの雰囲気などがだいぶ変わってしまうのではないかと感じました。ですから、先生というのはとても大切な役割をしているのではないかと考えました。

他にも、子どもに授業をするだけでなく、運動会だったならば、その準備を子どもよりも早くから学校に来て準備をしたり、みずほ小学校の場合では、田んぼの様子をみたりなど、子どもにより充実した学校生活を送ってもらえるようにすることも仕事のうちの1つなのではないのかということを感じました。私が小学校に通っていた頃は先生についてやその仕事について考えることなく過ごして来ましたが、今回の活動で、先生というのは学校生活を送る上でとても大切な存在だったのだということを実感しました。今回とても貴重な体験をすることができて本当に良かった

と思います。

9. 先生のすごさについて

生物科学科 2年 見邊将貴

半年間みずほ小学校でボランティア活動をして思ったことは、小学校の先生はすごいということです。例えば、小学生が授業中に個々で自分の言いたいことを言い合っている中で、子どもたちを自由に話させているなどと思って自分が先生を見ていると話の筋が少し外れてきたときの話をすぐに戻すという先生の話の舵取りがすごくうまいなどその時に關心させられました。また、ある男の子が突然泣き出してしまったときに自分もその現場にいたのですがなんで男の子が泣いているのか他の子どもに聞いてみると昨日みんなで取ってきたヤマモモと一緒に取っていた女の子がみんなに適当に配ってしまって泣いていたみたいで、自分はその男の子が「ただ泣きやむまで待ってよう。」と思っていると次の授業が始まって、そのときもまだ男の子は泣いていて先生が他の子どもにどうして泣いているか聞いてそのまま授業は始っただけ先生も泣きやむまで待つのかと思っていると、その男の子に「ほんとうは泣いてないんじゃない。」等の先生はちょっかいを掛け始めて自分はずっと泣くんじゃないかと思ってみていました。がすると男の子は顔を下にしていたのですが、少し肩で笑い始めて、すると先生が「ほら、もう笑ってるよ。」と言って他の子ども達もつられて笑い始めてさっきまで沈んでいた教室の空気が一気に明るくなって、このときに私は先生ってすごいなと思いました。そして、子どもの気持ちを瞬時にくみ取って、さっきまで泣いていた男の子を笑顔にしてなおかつ教室の空気も一気に良くしてしまう先生の腕に御見それしました。そんな先生の中で授業を受けている3年2組の中にしげくんという

男の子がいて、その男の子は自分が一回目にその教室に入るのをためらっているときに、手を引っ張って行って窓側のほうにつれて行ってきてそこで授業が始まるまでバスケットボールでの話をしてくれました。他にも6年生の直輝くんもボランティアで行くと話しかけてくれました。その他には、運動会の練習が思い出に残っていて、その日は一人子どもが休んだ人の代わりに走らせてもらったことです。また他には自分が新潟出身ということで小さいときに何回か数えるほどしかやらなかった田植えをみずほ小学校で田植えができるとはおもいませんでした。田植えに行く前にその日はとても晴れていたのが久しぶりに麦わら帽子をかぶって泥の中にかか危ないものがあつたらいけないので足袋も履いて、みんなで田植えをしました。泥の中に足を入れる感覚はとても気持ち良くて、神谷君はとても慣れた様子でどんどん突き進んで行って本当に農家の人みたいですごかったです。始めのうちはそうでもなかったのですが、除々に腰が痛くなってきて子どもの頃にはなかったつらさがありました。そのあとに、イネがなくなっていたりしてる所にまた田んぼの横にあるイネを植えたり、押されていて倒れているイネを元に戻したりして田んぼのイネをきれいにしたときにとってもやりがいを感じて、これがお米になってみずほ小学校の子ども達が食べると思うと感慨深いものがありました。今度行くので最後のみずほ小学校の先生になるので、半年間ボランティアで培ってきたことをすべてぶつけていきたいと思います。半年間は長いようでとても短くて、先生になろうとしている一緒の目標の人とボランティアできて切磋琢磨でとてもやる気がでたし、このボランティアを通して先生という立場から学校が見れたのでとてもよかったと思います。

10. 成長すること

総合理学プログラム2年 神原将樹

私は5月11日から毎週火曜日にみずほ小学校に学校ボランティアに行きました。時間は10時20分から13時10分までです。内容は当日に決められたクラスへ行き、丸付けや簡単な指導など授業の補助、田植えや運動会の練習などの手伝いを行いました。そして給食を子どもと一緒に食べて、昼休みを終えて終了という流れです。

今回のボランティアで一番学んだことは、「教えるのではなく、自分で考えさせ、気付かせる」ということです。全て教えられてしまうと身につかない。簡単に計算の解き方を教えるのではなく、少しのヒントを与えることで、一人ひとりに考えさせ、自分自身で答えを見つけさせることです。そこで初めて自分の力として身につくのです。

中学、高校ではいかに「正しい答えを出す」かが重要視されていますが、小学校では間違えてもいいから「どのように考えて解く」か、そこに重点を置いていると感じました。「考える力」というのは勉強だけではなく、これから先の人生において大きな力となります。若く、なんでも吸収していくこの時期にその力を養うというのはとても大切なことであると思います。

先生の姿勢から学んだこともいくつかあります。まず誰よりも元気だということです。

子どもを飽きさせないように楽しませるように鼓舞するために子どもよりも元気に雰囲気盛り上げ、子どもたちを上手くのせながら率先して行動していました。

次に「繰り返すこと」の重要性です。算数の計算や時計、漢字など覚えることがたくさんあります。大きくなってもアナログの時計が読めなかったり、分数の計算ができない人もいるようです。覚える(記憶する)ことは真似すること、反復することです。

す。みずほ小の先生はことあるごとに、全員いっせいに時計を読ませていました。いっせいに読ませることで、読めない子どもも分からないで終わるのではなく、読める時計をみながら読める子どもの声を繰り返し聞くこと、真似することで少しずつでも自然に読む力がついてきます（英語だけの環境におくと、聞くことで自然と英語が身についてくるのと同じ）。計算問題も簡単なところでも一度解かせて、ヒントを出して、順番に前で解かせて、全員で「いいですか？」と確認する。1問で3回分の効果があります。これは自分自身が教師になった時に大切にすべきことであるし、とても勉強になったことでありました。

3つ目に怒っている先生がいないということです。「怒ると叱るは違う」と私は考えます。怒るは怒り、すなわち感情的になり相手に気持ちを押し付けるということです。一方で叱るというのは冷静に子どものことを想って強い口調で教えるということです。本当に危険な時、絶対にしてはいけないことをした時は怒鳴ることもありあますが、それも含めて怒ったり、恐怖によるものではなく、冷静に叱り、何が悪かったかを本人に考えさせ反省させます。親以外の身近な大人として、子どもの成長に大きな影響を与える先生として、あるべき大人として素晴らしい先生がいるのだなと思いました。

たくさんのことを学ばせていただきとても有意義な時間になりました。

1.1. 児童と教師がつくるクラスづくり

総合理学プログラム 2年 富岡大将

私が、小学校へのボランティアを経験し、感じたことは、各クラスで雰囲気は全く違うことである。各クラスで、児童と教師がどのようなクラスづくりをしているかにより、雰囲気がそれぞれ違っていた。

1年生のクラスでは、まだ落ち着きがない児童に対して、担任の教師が、優しく接し、しかし叱らなければいけない場面では、怒鳴るように叱るのではなく、児童に注意をし、授業に参加させることを、最優先にしていた。私は、教師が児童に授業を習慣づけさせようとしているように思えた。

2年生のクラスは、1年生とは違い、授業には、しっかりと取り組むが、わからない箇所があると投げ出してしまう児童がいた。このような児童たちに対し、担任の教師は、わからない児童を集め、指導していた。この時、わかっている児童を自由にしておくのではなく、自習などをさせていた。私は、教師が児童に学習意欲をもたせようとしているように思えた。

3年生のクラスは、教師が児童に教えるのはもちろん、わかっている児童がわからない児童に対し、教えている場面が、あちらこちらで見られた。また、担任の教師は、児童間のトラブルに対し、お互いの言い分を聴き、指導していた。1, 2年生は、明らかにどちらかが一方的に手をだしていた場合が多かったが、3年生では、お互いの児童にいけない点が見受けられた。そのため、担任は、お互いの悪い点を指摘し、今後のどのようしていくかを指導していた。

4年生のクラスでは、児童それぞれが、授業と休み時間をしっかりと区別し、また、担任の教師の指導をしっかりと聴いていたと思えた。しかし、児童個人々々の主張がしっかりとっていて、多少の対立が見られたような気がした。

5年生のクラスは、担任の教師が厳しいというのもあるが、児童一人ひとりが、とてもしっかりとっていて、児童同士で注意しあえていた。しかし、注意された児童が、注意した児童に対し、反発し、言い争いになる場面がしばしば見られた。だが、授業には、積極的に取り組み、多くの児童が発言していた。

6年生のクラスは、少しゆとりがあり、児童一人ひとりが緊張なく良い雰囲気です。授業に取り組んでいたように見えた。また、担任の先生と児童の間に、信頼感が見え、児童が過ちをおかした時、担任が児童にすぐに指導するのではなく、児童自身に考える時間を与え、児童にどこがいけなかったのかを判断させ、反省する時間を与えていた。

1年生から6年生までの各クラスでは、それぞれのクラスの雰囲気があり、その雰囲気が児童と教師を1つにし、クラスをつくっているのだと思う。1年生には、1年生の雰囲気があり、6年生には、6年生の雰囲気がある。それぞれのクラスの雰囲気が、そのクラスをよりよくしていくのだと思う。また、学年が上がるにつれ、児童は、成長していくし、もちろん担任の教師も変わるし、クラスの雰囲気も変わっていく。しかし、その度に、そのクラスにあった雰囲気をつくることで、良いクラスが作られていくのだと私は思う。

私は、この小学校ボランティアから、クラスというものの大切さをあらためて知ることができたと思う。

12. 子どもと先生

総合理学プログラム 2年 服部起一郎

入学してきたり学年が上がったばかりで、学校の状況はわかりませんが、先生は学年ごとによって、子どもに接する態度が違っていました。当たり前のことだと思っていましたが、成長段階によって注意することがあって小学校1年生から6年生までで学校生活、中学校生活に向けて準備させていき、いろいろなルールを教えていくのだと思いました。

例えば、1年生には、ほとんど注意をしませんでした。むしろ、授業中に一緒に楽しめながらやって、学校を好きにさせているんじゃないかと思いました。先生は子どもの

意見をしっかり聞いてあげて、発言することは、いいことなんだと身に付けさせているのだと思いました。

2年生には、楽しそうにやるのは一緒でした。だけど、メリハリのある授業だったと思います。静かにさせたり、今は喋ってはいけないうところなんだと気づかせたりしていました。でも、僕が授業に参加させてもらったときは注意しても怒ってたりしていませんでした。で、まだまだ叱らない学年なんだと思いました。

3年生になると授業の締め切りなどがとても厳しくなっているかなと思いました。けっこう授業中の態度にも厳しいと思いました。子どもが足を組んでいたときは怒っていました。きっと、1,2年生ならそこまで怒らないと思いますが、やはり、学年が上がるにつれて、授業中の態度にも厳しくなるんだと思いました。また、給食中にもあまりうるさいと注意していました。だんだんと生活態度に厳しくなってくるんだと思いました。

4年生になると、授業中とか静かだと思いました。高学年になっていくといろいろな面でしっかりしていると思いました。例えば、授業中にうるさい人がいれば注意しているところや、放送をしっかり聴こうとか、お互いに注意しあっていました。先生が注意をあんまりしなくて、子ども同士がしているのは、すごいなと思いました。

5年生は、とても静かなクラスだと思いました。先生が注意することもなく授業をしていました。授業中も真面目でぜんぜん私語が聞こえなかったです。授業でも発言するし、質問などもしていました。給食中でも静かに食べて、放送の邪魔にならないようにしていました。このようなことができるのはこれまでの先生たちの積み重ねなんだと思いました。

6年生は組み立て体操と給食だけ行って来ましたが、一番クラスが汚かった気がします。組み立て体操のときは5年生の方が早くなら

んでいたし、最高学年だからダラけているのかなと思いました。それから、言葉の使い方など悪い気がしました。関わった時間が少ないため授業中や生活指導はわかりませんが、中学校にむけて、きっと後半になったら厳しくしていかないといけないんじゃないかと思いました。

1.3. 学年によって変わる子どもへの接し方

総合理学プログラム 2年 春名良太

今回、みずほ小学校のボランティア活動をしに行つてどういった事・どういった活動をしたのかと言うと、「休み時間に外で小学生と小学生の気分に戻った感じで遊んだ事」と「先生と子どものコミュニケーションの取り方」についてこの2カ月間やってきました。

初めて小学校に行った時は、子どもたちから声をかけられる前に、自分から声をかけようと思っていました。しかし、子ども達から積極的に自分に声をかけてくれて子ども達はフレンドリーだと思いました。どの学年のクラスに足を運んでもみんなフレンドリーでした。足を運ぶ身としてはとても嬉しくてやりがいのあるボランティア活動をだと思っています。多人数の子ども達から声をかけられた分、遊んだときは子どもたちが面白く遊べる時間をつくれるようにと精一杯つくしました。特に、子ども達は走ることが大好きみたいで、よく校門前で競争をしました。自分にとっても大切な思い出にもなり、小学生にも楽しんでもらえた一つだと思いました。

みずほ小学校の先生の言動・対応は学年によって大きく違ったことに気がつくことが出来ました。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生の接し方がとても似ていました。1年生と6年生の担任の先生は厳しく指導するというより、子どもたちに自由にさせ

ていました。授業中も静かで、先生が注意するまでもないクラスでした。しかし、休み時間に教室でやたらと騒いだりしていると、注意をしていました。同様に2年生と5年生も似ていました。3年生と4年生だけは他の学年と対比的でした。3年生は、先生の話の聞いていなかったり、勝手な行動をとったりする子どもがいたら強い口調で注意していました。特に、給食当番、係の仕事等の集団行動をする際には、みんなが給食を配って各自の仕事をこなしているにもかかわらず、手を抜いている子どもがいると怒っていました。この頃から、集団行動の大切さを指導していくものだと今回初めて知りました。

みずほ小学校の周りは緑に恵まれていて、小学校で耕している田んぼがいくつかあり、田植えをし、雑草を抜くという一貫した活動を手作業でやりました。普段体験できない事を経験することができてよかったです。

1.4. 小学生の行動そして先生の対応

総合理学プログラム 2年 山本恭平

今回、5月から7月までの2カ月間、みずほ小学校で先生方のサポートとして行ってきました。これを通してたくさんのことを勉強することができました。行く前、小学生はとにかく元気で活発だということだけしか思っていないませんでした。しかし、低学年と高学年では全く言葉遣いや態度などが違いました。先生方を見ても学年が上がるにつれて子どもへの対応が変化していました。

まず1年生は、まだまだ幼くてとにかく元気いっぱいだという感じです。給食のときは、歩き回ったり友達とお話ばかりで給食が食べ終わらなかつたり自由だなと思いました。そんな1年生の担任の先生はあまり厳しく言わずに「お話ばかりしないでご飯食べようよ」など注意するときはなるべく優しく言ってい

ました。

2年生も1年生と同様でとにかく元気でした。ただ、1年間小学校という生活を経験して集団行動にも慣れていただけあって周りの子たちの行動にも関心を持つようになりました。ただ先生の言っていることをあまり聞いていないなと思いました。そんな2年生の担任の先生は、うるさいところのクラスの目標である「先生の合図をしっかりと見る」ということに触れ「みんなの目標は何か？」と聞いて全員を授業に集中させようとしていました。

3年生の自分が行ったクラスは一番やんちゃな子が多いなと思いました。そして先生も1年生や2年生の先生に比べて少し厳しく言うようになりました。授業が始まる前の挨拶もみんなが静かにするまでやらなかったり足を組んだまま挨拶をさせなかったりと社会にでも恥ずかしくないように指導していると思いました。

4年生はこの学校で一番真面目なクラスだと思いました。授業中も静かに授業を受けていました。また、分からないことがあれば積極的に自分や担任の先生に質問をしていました。だから、自分が行ったときは先生の注意をする姿は見られませんでした。

5, 6年生は給食でしか行ったことがありませんが1年生と比べるとすごく大人だなと思いました。ある程度の常識は知っているののでやっていいこととやってはいけないことの区別はできているなと思いました。その分、言葉でからかってくるなりと大変でした。担任の先生は、まだまだ子どもですが小学校では一番上の学年なので下の学年のいい見本にさせようとしているなと思いました。

このボランティアに参加して1年生から6年生に上がるにつれて確実に大人になっていっているなと感じました。また、担任の先生方もそれぞれのクラスで学年に応じての対応をしているなと感じました。ここで感じたことは、

将来教師になったときやその前の教育実習にも大きな糧になると思いました。

みずほ小学校・後期

15. 学校ボランティアに参加して

生物科学科 2年 工藤若菜

私は、平塚市立みずほ小学校に学校ボランティアとして支援しに行かせてもらいました。みずほ小学校での主な活動内容は、低学年のクラスでの授業の手伝いでした。その他の活動としては高学年のクラスで調理実習の手伝いをしたり、小テストの見回りをしたりなどしました。

今回の活動を通して一番驚いたことは、子どもの叱り方でした。わたしは最初、高学年ならある程度厳しく叱っても良いと思っていましたが、低学年の子に対する叱り方が良く分かりませんでした。しかし実際の教育現場に行ってみると、低学年の担任の先生は子どもが悪いことをしたときにとても厳しく叱っていました。予想通り、子どもは泣いてしまいましたが、それを可愛想だと思ってはいけません。可愛想、可愛想ではないということではなく、将来のその子のために正しいことを教えてあげるといことなのだと思、とても勉強になりました。

この活動の中で一番大変だったことは、授業中に騒いでしまう子をどうやって静かにさせるかということでした。静かな子はずっと静かなのですが、騒ぐ子はいつも騒ぎっぱなしで、わたしはほとんどその子に付きっきりの状態になってしまい、他の子の相手を全く出来ない状態になってしまいました。また、自分の話を聞いてもらいたいという気持ちが強く、授業中や休み時間を問わず、いろんな子がたくさん話しかけてきてくれました。休み時間ならいいのですが、授業中にこのような状態になってしまうと、わたしの声がか

届かなくなり、先生に迷惑をかけてしまうという結果になってしまいました。このようなときの対策として、わたしはいちいち注意していたのですが、担任の先生たちは放っておくという対応をとっていました。わたしは最初、このような方法はどうかのだろうと思ったのですが、高学年のクラスを手伝ったときは、このような子は一人もおらず、ただ単に騒ぐということは成長すれば収まることなのかと思い、時間がたてば直るから、あえて構ったりしないという考えもあるのだなと思いました。

今回の活動の中で一番嬉しかったことは、わたしの名前を覚えてもらえたことでした。何回か学校に行っていると、手伝いに行ったことのあるクラスの子たちは、ほとんど名前を覚えていてくれ、廊下で会ったりするといつも名前を呼んでくれました。しかしわたしはなかなか子どもの名前を覚えることができず、その点は申し訳なかったと思います。他にも、わたしが好きなゲームの話でたくさん子どもといっぱい盛り上がれたり、休み時間にたくさん子どもに遊びに誘ってもらったりと嬉しいことがたくさんありました。また、今日は自分のクラスに手伝いにこないと知ったときに残念がってくれたことがとても嬉しかったです。

やはり実際の子ども様子は実際に体験してみないとわからないことばかりなのだと思います。今回の学校ボランティア活動では、貴重な経験をたくさんさせてもらえてとても良かったと思います。

16. 子どもたちと先生

生物科学科 2年 小椋 光

私は平塚市立みずほ小学校に行き、学校ボランティアとして小学生の授業の手伝いをすること、小学生と一緒に給食を食べること、

休み時間に一緒に遊ぶことなどを体験しました。

最初に小学校に行った時は、子どもたちに受け入れてもらえるのか、仲良くできるのか、ちゃんと教えられるのか、などいろいろ考えてしまい緊張しましたが、行ってみると子どもたちの方から「一緒に遊ぼう」、「一緒に給食食べよう」とたくさん近寄ってきてくれてとてもうれしかったです。本当は私の方から子どもたちに話しかけていかなければならないはずなのに、子どもたちに不安を取り除いてもらいました。ずっと年上の私が緊張してなかなかできないことを、子どもたちは簡単にやってしまうんだなと感じました。このとき子どもから学ぶことはたくさんあるなど強く感じました。

最初に担当したのは1年生でした。1年生は落ち着きがない子どもも多く、授業に集中できない子や教科書を出していない子もいて一緒に机の中から教科書を見つけてあげたりしました。担任の先生はたった一人で子ども一人ひとりに気を配らなければならないのでとても大変だなと思いました。

次に担当したのは2年生で音楽の合唱の授業でした。私は、みんな上手に歌えていると思ったのですが、先生たちはもっと上手に歌えるように「隣の人の声をちゃんと聞いて」とか「姿勢が悪いよ」と細かいところまで指導していたので、びっくりしました。変に子どもあつかいをしてはいけないんだなと感じました。このとき、「子どもだから」といって、勝手に子どもたちの限界を決めてしまったのは私だということに気づきました。子どもたちは教えればできるし、やればできるということを実感しました。私が勝手に限界を決めてしまったのでは子どもたちの成長の妨げにもなるので一番やってはいけないことだと感じました。そのためには、子どもたちと同じ目線で物事を見てみよう意識することが大切なんだなと思いました。

また、1年生の担任の先生が不在のときに、1時間だけ自習の時間を1人で担当しました。そのときに最初に自習で与えられた問題が終わったあと、静かに自分の机で絵を描く子や、折り紙をする子もいたのですが、ふざけて自分の机を離れ、ボールを投げたり消しゴムを投げたりする子もいて、一人がやり始めるとだんだんふざけてくる子が増えていってしまいました。その投げた物が違う友達に当たってしまったりすることもありました。そのとき私は注意することしかできなかったのですが、結局注意をしても注意をしても直してくれませんでした。このとき私は注意するのではなく、もっと違う方法でみんなをまとめられたのではないかと考えました。与えられた問題が終わった人から、みんなでゲームをやったりみんなでボール遊びをやったりしたほうが子どもたち全員を楽しくまとめられたかもしれないなと思いました。学校は1対1での教育は少ないので、周りには友達がたくさんいるということを生かして教育しなければならないのだなと感じました。一人ではできないけれどみんなであればできることはたくさんあるので、せっかく一番たくさん友達と触れ合うことができる「学校」という場所でみんな一緒に何かをやるということをとくさん学んでほしいと思いました。また、その環境をつくるのが先生の仕事であると感じました。

小学校は1～6年生まで幅広い年の子どもたちがいるので学年によって接し方の違いが難しいですが、子どもたちの成長が目に見えるのでそこに立ち会える先生はとてもやりがいがあるなと感じました。学校ボランティアを行って、先生の立場に近いものを体験し、子どもと先生との関係などを子どもたちや先生から学べるとてもいい経験になりました。

土屋小学校・前期

17. 体験して分かったこと

生物科学科 2年 宇佐見円花

毎週火曜日、土屋小学校にボランティアに行ってきました。授業中の子どものサポートや休み時間の遊び相手、事務の先生のお手伝い、運動会のサポート。様々な経験をさせていただきました。小学校の給食も一緒に食べて、懐かしく思いました。小学生はとても元気で、学校に行くといつもにこにこして話しかけてくれました。担当する学年は順々に変わり、その学年によって感じることは様々でした。みんな笑顔が可愛くて癒されます。低学年の子どもたちは元気すぎて、少しサポートするのが大変に感じましたが、一番こちらに興味をもって接してくれました。中学年の子どもたちとは、1回しか関わる機会がなかったのですが、元気に外で遊んでいた姿が印象的です。高学年になると、先生の注意を素直に聞き入れ、自分の気持ちをきちんと伝えることができていると感じました。約3カ月の間で、小学校の先生の大変さを間近で痛感することができた気がします。

小学生は、高校生や中学生と違って、子どもたちが自力でできることが限られているので、先生の雑用がたくさんあります。とくに事務の先生方は、草むしり・花壇の片づけやプール清掃など陰でたくさんの仕事をしていました。手伝って初めて、自分が小学生だったころ陰で多くの人たちに支えられていたことが分かりました。

私がなにより嬉しかったことは、子どもたちが私のことをすぐ覚えてくれて、たった1週間に一度の訪問でも、とても親しみを持って接してくれたこと、そして私を「先生。」と呼び、頼ってくれたことです。いつも子ど

もたちは自分の話を楽しそうに話してくれました。きっと小学校の先生はこういうところにやりがいを感じるのではないかと思います。

私はボランティアに行き始めてから、先生たちが人の子である子どもたちにどの程度叱り、どのような言葉で子どもたちに接し、子ども同士の問題をどのように解決しているのかを知ろうと思い、いつも注意深く見ていました。私自身は先生でも親でもない立場で、どこまで介入していいのか戸惑ったことが幾度もあり、ボランティアを終えた後によく振替って反省しました。一度6年生が理科の授業で実験をしていたときに、危険なことをしていたので注意をしたことがありました。その時は先生に「ありがとう。」と言われ、言ってよかったと思いました。しかし、低学年の子どもたちの喧嘩はどんな対応をしたらいいのか分からず、なだめて話を聞くことしかできませんでした。負けず嫌いで、感情的になりやすい子どもたちを相手にする仕事はとても難しいです。

ボランティアに行って、小学校の先生になりたいとは思いませんでした。子どもたちは可愛くて、関わることは楽しいけれど、精神的にも体力的にもきつい仕事だし、言葉を選んで話さなければうまく相手に伝わらない。自分はいつだって感情的にならず冷静でいなければならない。そんな大変な仕事を続けることは私には少し無理があると思います。でも、本当にいい経験でした。教職を続ける上で、絶対に自分にプラスになったと思います。

18. 成長するにつれて

生物科学科 2年 神林 匠

自分は土屋小学校にいて感じたことは、当たり前ではあるのですが、1年生から6年生の間にはこんなにも違いがあることを改めて感じました。

まず1, 2年生について感じたこと、それはまだまだ子どもなんだなということです。それが普通なんですけども授業中もうるさかったり、「静かにしなさい」といわれればちゃんと静かになったのはまだまだ純粋な子どもだからなのでしょう。昼休みにグラウンドで遊んだときに、サッカーをしたんですけど、最初にチームを決めたときは子どもたちが自ら進んで決めました。試合が始まってからもどんどん子どもたちが一緒に入りたいと来ましたが、そこからチームを決めることがなかなかうまくいかなくて、決めていた間に昼休みが終わってしまうことがありました。そこは、自分が中心となってチームを決めようとしたんですけど、先ほど話したようにこっちの話を聞いてくれなくて、なかなかまとめることは難しかったなと思いました。ただ、低学年を担当している先生たちはそういった子どもたちの気持ちを分かっているのでしょう。しっかりと子どもの希望を踏まえて子どもたちをコントロールしていたので、すごいなと感じました。1つだけうれしいというよりも不思議な感じがしたことがありました。それは1年生に自分が行ったとき名前が「たくみ」と呼ばれる人が自分含めて4人もいたことです。それですぐ仲良くなれたのかもしれませんが。

次は3, 4年生の中学年の子たちについて。自分だけが感じたのかもしれませんが、中学年（特に3年生）が一番元気で一番うるさいのかもしれませんが。3年生のクラスにいったときに入った瞬間周りを囲まれてまったく逃げられないし、昼休みにもまったく離してあげられないのでかなり大変でした。授業中でも一人だけ言うことをきかない男の子がいるのですが、その子が先生の目の届かないところでいつもいたずらをするので、それを止めるのに必死になっていたような気がします。4年生はいい子たちばかりで、最近はクラスに行っていないんですけど、いまでも名前を覚

えてくれていて、なんだか嬉しいです。

最後に5, 6年生の高学年について。やっぱりこれくらいの年になってくると落ち着きというのが見られます(数人、落ち着きがない子が見受けられますが)。一番変わってくるのが女の子たちの自分への接し方だと思います。クラスに行ってもほかの学年ならすぐに飛びかかってくるのに対して、この学年は男の子たちと比べると一歩後ろから自分のことを見ているような気がします。それは「お年頃」の女の子なので、仕方がないことなのかなとは思いますが、もうちょっとフレンドリーになれたらなと思います。あと敬語の使い方もちゃんとしてきているなと思いました。一緒に話をしても「～なんですよね」みたいな感じでちゃんと敬語を使っているので、これも成長の一つなのかなと思います。

おまけで、校務さんの仕事について。校務さんは一言で言ったら陰から学校を支えてくれている功労者ですね。子どもたちが安心して学校生活を送れるのも、校務さんがいてこそのことなので、覚えていてほしいです。

19. 先生たちの裏の努力

生物科学科 2年 齋藤佳織

私は、学校ボランティア活動として、週1回で土屋小学校に通い全9回行きました。

これまで私たちは子どもという立場で学校に通っていましたが、この活動を通して先生側の立場に立つことによって、今まで知らなかった先生たちの裏の努力を知ることが出来ました。

子どもたちは十人十色で一人ひとりが持つ考えも異なるし、とる行動も多様です。昼休みに外へ元気に遊びに行く子もいれば、教室で読書をする子、友達とおしゃべりして遊んでいる子など様々です。もちろん、算数が得意な子もいればそうでない子もいたり、教科

ごとの興味関心も人それぞれです。

この個性豊かな子どもたちに先生側はどうすれば皆が授業に集中し理解できるか等を常に考え工夫をしていました。例えば、算数の授業の足し算ではサイコロを使って出た目を計算したり、垂直と平行では折り紙を使って実際に折って確かめてみたりしていました。

しかし、それでも理解に苦しむ子はいます。その時に「分からない。」と自分から聞きに来る子は教えている時も理解しようと頑張りますが、「もういいや！」と投げ出してしまいう子やすねてしまう子は教える時も聞く耳持たずという状態で、気持ちを变える所から考えないと教えるということは難しいなと思いました。また、低学年の子どもに教える時、自分では分かっていることでも相手にはどのような言葉で言えば伝わるのかを考えました。

そして、先生は子どもに授業を教えるだけではありません。授業中にふざけている子をその時は一時的に皆から外すこともあります。それだけでは終わりにせず後から1対1で話をしたりし、学校で学ぶルール等もちゃんと教えなければならないことなんだなと思いました。

さらに、先生は他にもプール清掃や運動会のテント張り、卒業式に使った植木鉢洗い、校内のポスター貼りなど陰の仕事をたくさんしていることを知りました。しかし、それを子どもたちの為に危険が無いかどうか点検や見回りまで徹底的にやっていることがすごいと思いました。

今回の学校ボランティア活動を通して知った先生たちの努力はほんの一部だとは思いますが、その大変さを身体で体験するという良い経験をさせてもらいました。けれど、その大変な努力があっても子どもの成長に携わりやりがいを持って働く先生という職業は魅力的だなと思いました。

20. 各学年についての比較

生物科学科 2年 高下房己

今回は土屋小学校訪問についてのレポートを書きたいと思います。まず小学校全体を通じて思ったことは、まず土屋小学校の子どもは、全員全クラスともに仲がいいということです。その理由を先生から聞くと、土屋小学校は、1学年の人数が少なく、クラスが各学年に1クラスしかありません。したがって、クラス替えもないし、転校というのもあまりないので、仲がいいのだといえます。しかしやはり喧嘩はどのクラスでも起こります。それでもすぐに仲直りが出来るというのも、仲がいいということが分かる1つの理由かもしれません。それでは、1学年ずつどのようなクラスだったか発表していきたいと思います。

まずは1年生、1年生は、予想通りとても元気で明るいクラスです。しかし明るすぎと元気すぎが理由で、先生の話もあまり聞かないというのが難点ではあります。それでも、みんなとても優しく、喧嘩をするときもありましたが、いつの間にか仲が直っているという感じが何回もありました。遊ぶ時も、何をして遊んでいるのかわからなくなるくらい走りまわったりしていました。それから、やはり1年生なだけあってとても甘えん坊で、「おんぶして」とか「だっこして」とかを頻繁に要求されました。

次は2年生です。2年生は、正直びっくりしました。それはなぜかという、普通2年生というのは、1年生と同様に先生の話も聞かずに、ひたすら遊んでいるイメージでした。しかし実際にクラスに行ってみると、全然違って、遊んでいるときはさほど1年生とは変わらず元気に飛び乗ってきたり、甘えてきたりしてきました。しかし授業に関しては、全く違いました。自分が行ったときは、防災訓練と耳鼻科検診がありました。防災訓練の時は、本当に一言もしゃべらずに、行動を行い、

耳鼻科検診の時も、一言もしゃべりませんでした。自分はそのことにとっても驚きました。

3年生は、まだ行ってないのですが、遊ぶときに一緒に交じってくる3年生を見ていると、やはり3年生なだけあって、敬語も使ってくる子もいるようになってきました。しかも下級生からとても慕われているように思われました。このことから3年生は、おそらくとても優しい子たちだと推測できます。

4年生は、色々な子がいたクラスだと思います。中には、自分の髪を引っ張ってきたり、服を引っ張ってくるやんちゃな子がいたり、ひたすら笑う元気な子もいたり、甘えてくる子もいたり、よく泣く子もいたり、とても特徴的な子が多かったと思います。そしておそらく1番喧嘩が起こる可能性が高いクラスでもありました。しかしその分、覚えやすいクラスでもありました。この学年から、先生の言動が厳しいような気がしました。

5年生は、自分が初めて行ったクラスです。ここからだんだん女子の警戒心が強く、なかなか絡みづらいものがありました。しかし男子は、他の学年とかわらず、よく絡んでくれた印象があります。先生が女の先生でしたが、結構恐れられていて、動きがとてもきびきびしていたイメージもあります。やはりそろそろ中学生になるので厳しく行こうという気持ちが伝わってきます。

6年生は、もう男子の体つきが自分と変わりませんでした。女子は、ほとんど関わりがありませんでした。やはり警戒されているんだと思いました。やはり来年中学生になるというだけあって、とてもおとなしく、敬語で大人っぽい接し方をしてきました。

今回の小学校訪問は、将来の教職課程をとりきっかけになると思いました。

2.1. 個性～みんな違って みんないい～

生物科学科 2年 山口有紀

『人間は誰一人として同じではないのだ』という当たり前のことを、この学校ボランティアを通して改めて思った。児童の学校生活のどこを見ても、一人ひとりがとても個性豊かだった。これだけ違いがある児童をまとめるのが簡単なことではないのは、ボランティア初日から感じていたし、先生方の苦労は見ているだけでも伝わってきた。その傾向は特に低学年に強く、じっとしていられない、人の話が聞けない、など、慣れない集団行動に戸惑っている様子も見受けられた。

しかし、そんな大変さよりも私を驚かせたのは、児童たちが「学年が上がるごとに目に見えて成長している」という点であった。クラス全体の雰囲気も全く違い、集団でなければ学べないことをたくさん学んできたという感じであった。また、成長は見られるが、一人ひとりの個性は失われていないということにも驚かされた。児童自らの成長の力と、それを支えている先生方の力があって、小学校の6年間は成り立っているのだと思った。

いかにして子どもたちの個性を損なわずに、かつクラス全員を平等に指導していき、集団行動の指揮をとるのか。これは小学校に限らず、程度の違いこそあれ、中・高共通して考えなければならないことなのではないかと思う。

今日、クラスに2～3人程度、学習障害と思われる子どもが在籍しているといわれている。今回のボランティアでも「この子は、どうしてみんなと同じに出来ないのだろう」と感じる子がいた。私に対応に困っていると、その子のクラスメイトが「〇〇さんは、言い出すと聞かないの。でもちょっといいことがあると途端にニコニコになるんだよ!」とこっそり教えてくれた。長所がたくさんあり、こんなことはあまり得意ではない、など色々教え

てくれた。周りの子たちもしっかりその子の個性を受け止めていた。その時私は無意識のうちに、その子と誰かを比べてしまっていたことに気づき、ハッとした。

小学校教諭はクラスのほぼ全教科を受け持つ（特に土屋小は実技科目まで受け持つ）、中・高とはまた異なった特異な環境であるといえる。接している時間は睡眠時間を除けば、きっと親よりも長い。そんな現場を間近で体験して思ったことは、『みんな違って みんないい』ということだった。これは金子みすゞの詩に出てくる私の好きな言葉の一つである。冒頭でも述べたが、誰一人として同じ人間はいない。だからこそ一人ひとりに大きな可能性があるのではないだろうか、そんな可能性を伸ばしていく責任が教員に、そして教育現場にあるのではないだろうか、と感じたのは決して大げさなことではないと思う。初めて学校という場を客観的に見ることができた今回のボランティア。1年生から6年生までを同時期に見るという経験は、このような機会がなければ得られなかったのだろうと思う。『子どもが好き』というだけで、教師にはなれない。個性豊かな子どもたちの未来を、考えていける教師になりたいと強く感じた。

2.2. 学年の違い～見守ることも指導～

総合理学プログラム 2年 狩俣 瑚

今回、総合演習の授業の一環として、私は土屋小学校にボランティアという形で、週に1回（木曜日）、体験に行った。そこで、主に私は1年生の教室をお手伝いすることになった。授業でわからないことがあったら教えてあげたり、休み時間には一緒に遊んだり、児童の作品を教室に貼ったり、一緒に給食を食べたり、プール掃除をしたり、などの活動をした。また運動会という学校恒例行事にも参加させてもらい、児童たちのエネルギー

な様を間近でみることができた。

その際に感じたことだが、小学校というのは1年生から6年生までと幅広い学年の児童がいる。先生がたは学年によって接し方や教え方、考え方も異なり、これを瞬時に判断して児童たちと触れ合っているのだ。例えば私は初め1年生のクラスに行き、学習のお手伝いをした。1年生というのは結構大変で、一人では何もできないし、言ったことを一回で理解が出来ない。あちらこちらで先生を呼ぶ声があがり、教師は一人ひとりつきっきりな勢いで見てないといけない。何もかも助けがあるのである。ところが、三回目の体験で3年生を見たとき、1年生と同じように接しようとしたら担任の先生に止められた。あまり助けしないでほしい、という。先生の気持ちとしては「3年生には今自立の力を養いたい。だから出来るだけ自分で出来ることは自分でさせたい。どうしても無理なときだけ、助けてやってほしい」というのである。その時に私は気付いた。ここは1年生のクラスではなく、3年生のクラスなのだ、と。小学生だから何でもかんでも助けるのが教育ではなく、その学年に見合った指導があるのである。一見当たり前のようだが、その当たり前のことに私はその時まで気付かなかった。次に小学校を訪れ5年生をみたが、なるほど、皆しっかりして、自分のことは自分でできる。むしろ、もはや先生の手助けなどいらぬ感じであった。さらにその感じを深めたのが運動会であり、全学年と触れ合うことのできたその学校行事は、児童たちの上の学年に比べいくほどしっかりし、先生たちの接し方もあまり干渉しないようなものになっているのがよくわかった。

今回のボランティア体験で私は、‘見守ることも指導’の意味と大切さがよくわかった。小学生だからなんでもかんでも干渉し助けるのではなく、学年ごとに段階を踏んで少しずつ自立の道へと歩ませているんだな、と感じ

た。最後にこのボランティア活動にあたり、色々と手配準備してくださったそよ子先生を始め、土屋小の先生がたにお礼を述べたい。貴重な体験をどうもありがとうございました。

23. ジェネレーションギャップとカルチャーショック

総合理学プログラム 2年 四ツ家大祥

今回、私は土屋小学校に学校ボランティアとして週2回、およそ2ヶ月行き感じたことや自分の小学生のときの違いを以下のようにまとめます。

子ども

1年生…授業中に立ち歩く子どもが多く、授業中に子ども同士が話したりしていて、先生はとても大変だと思います。また、そのようなときに、その子どもを名指して怒ったり、先生の他にお手伝いのような先生もいました。

2年生…1年生とは異なり授業中に立ち歩く子はいませんでした。

3年生…喧嘩が他の学年と比べても比較的多かったと思います。またパソコンを触るのが初めての子が多く、今ではあたりまえになってしまいましたが、自分も10年ぐらい前に触ったときには、楽しく授業を受けていたような気がします。

4年生…音楽のリコーダーの授業のお手伝いをしましたが、中学生以来音楽の授業をやっていないので最初は苦戦しました。

5年生…算数の小数の割り算をやっていたときに、自分にとって小数の割り算はあたりまえの様になりますが、それをわからない子にわかりやすく説明することができませんでした。

6年生…初めての日に行った学年でしたが、初めは授業中にどこまで手伝ってよいかわからず、手伝いすぎてやりすぎと他の子どもから指摘されました。またこちらから話しかけ

ないと話しかけてくれないのですが、先生は普通に話していて、本物の教師とボランティアとの差を感じました。

教師

叱り方…悪い子をした子に対して叱るときに、色々な先生がいますが共通して言えることが暴力を使わずに大きな声で叱っているということが多かったです。それは体罰の問題などがあるから、そのような叱り方をしていと思います。また小さい子に叱るときに大きな声で叱るのが一番有効だと考えます。

授業…例えば運動会前とかに組み立て体操ができていなかったりしたら、臨機応変に授業の予定を変更して、最優先でやらないといけないことに授業を代える必要があるということがわかりました。

学校

給食…パンと同じくらいにご飯が出ていました。また箸が学校から出ていたことに驚きました。納豆もジャムのようにでるらしいと聞いて、自分が小学生のときの給食と全く違うことにも驚きました。

運動会…準備にテントを組み立てたりして、当日は競技が終わった後の撤収作業の手伝いをしていましたが、運動会をやるにも学校の先生はとても大変だと思いました。

プール…小学生のときにはプールの授業はとても楽しみにしていましたが、教師の立場から考えると、とても大変なことだと思いました。まずプール周辺の清掃をしているときに水あかがなかなか落ちなかったりして、プールの中には様々な生き物が生息していて、とくにヤゴがいっぱいいました。またプールの中の清掃は外の何倍も大変でした。

プールが校舎側のほうが浅くなっている理由は、低学年用として利用するためです。プールの水は火災があったときなどに利用するため年中水が入っています。そのため清掃などで水の量を減らしたりするときは消防局に連絡が必要だったりします。

用務員…全校子どもの鉢に植えた植物の残りの処理をしたり、学校にある植物を整えたり、学校の外に蜂の巣がないか点検をしたりと、とにかく仕事が多くてとても大変だと思いました。小学生のときには気がつきませんが、プールの清掃とか運動会の準備など様々なことをしていて、校務さんがいるからこそ学校が成り立っていると考えました。学校の仕事の中でも最も大変な仕事だと感じました。

まとめ

今回様々な貴重な体験により感じたことは、子どもは私と一回り違うわけですが、自分が小学生のときにしていた遊びなどをしていなく全く別な事をしています。これにより自分がもし教師となったときには、子どもは自分とは異なる体験を経ているということを考慮しないとイケないと考えました。なので、今の流行などの話ができなく、自分で一回り、二回り違うのだからジェネレーションギャップを生じさせない話術というものが必要だと感じました。

悪いことをした子どもに叱るときにも感情的に怒るのではなく、なにが悪いのか、論理的かつ簡単に説明する能力というの必要だと感じました。私は喧嘩をしている子どもを見たときとあえず止めましたが、正直どうしたらよいかわかりませんでした。教師は瞬時にそれを止め、原因解明をし、必要に応じた叱責をしなければならないと考えます。

これが今の自分と現場の教師と比べたときに明らかに足りない能力であり課題であると思いました。

2.4. 自分の小学生時代と比べて

総合理学プログラム 2年 田中浩貴

私は、5月10日(月)～7月16日(金)の学校ボランティアの期間、週に1回、火曜日に土

屋小学校にボランティアに行きました。主に、3年生の担当をやらせていただきました。今回の報告書では、私がボランティアを通じて分かったこと、自分が小学生だった頃と今の小学生とを比べた違いなどを報告したいと思います。多少、私は地方の出身のため、地方と関東の差というものもあるかもしれませんが、ご了承ください。

まず、小学校に行き、来賓用の玄関から入ろうとしたらチャイムが鳴りました。このようなものは、私が小学生の時にはありませんでした。ここ数年で、学校に密かに侵入する不審者の事件などが話題になっているため、その措置だと考えられます。次に、教室に入って気付いたのは、何人かの子どもの髪の色が少し茶色に染まっていたのに驚きました。私が小学生の頃には考えられないことだったので、これには驚きました。普通に髪を染めていても何も言われなかったということは、学校側が許しているということなのでしょう。これも、時代の移り変わりなのかもしれません。

次に、授業での出来事。自分が小学3年生の頃を鮮明に覚えているわけではないのですが、私が担当した3年生は、全体的に落ち着きがないなということに気付きました。授業中に、文房具や教科書を何回も落としたり、教室の前方にいる先生を見ずに、教室の後方に立っている私のことを見たりしていました。やはり、小学校の中級学年である3年生になっても、まだ低学年だった頃の幼さが残っているのだと思いました。それと、一度だけ6年生の担当をやらせてもらったのですが、6年生は逆にとても落ち着いていました。3年生は、自分たちから私に接してくれてくれたのですが、6年生は、自分から接してくるようなことはありませんでした。ですが、私の方から接していくうちに慣れたせいか、6年生の方からも接してくれるようになりました。6年生は、落ち着いているという風に表現しましたが、とらえ方によっては、少々元気がな

いようにも感じられました。私が6年生の頃には、休み時間になるとすぐに体育館に行って遊んでいましたが、担当した6年生は、休み時間になっても教室で次の授業の準備や、他の活動をしたりしていました。

次に、給食での出来事。『いただきます』をした後、ほとんどの子どもが立ち上がって、配膳台の方に行き、自分の給食の量を減らしていました。私が小学生の時には、逆に『いただきます』をした後に、すぐに立ち上がって、余っている給食を友達と取り合ったりしていました。ですが、逆にそうしたほうが、時間内に給食を食べ終わることができ、いいのかなと思いましたが、その余った給食を食べる子どもがあまりおらず、結局給食を余らせて捨ててしまうことになるので、何か残念な気持ちになってしまいました。それと、これは土屋小学校だけの取組なのかもしれませんが、給食で出た牛乳パックの箱を飲み終わったら、中を洗った後に広げて干して、リサイクルをするということをしていました。これは、私が小学生の時にはなかった取組なので、エコが注目される現代だからこそ、いい取組だと思いました。

それと、今回のボランティアでは、運動会の準備や鉢植えの土の後処理、プール清掃、避難訓練の手伝いなど、今まで子どもとして行っていた活動を先生の立場で参加することができました。特に、運動会準備とプール清掃は、先生とボランティアの大学生数名で行ったので、とても大変でした。だけど、とてもやりがいのあるものでした。

今回のボランティアを通して、私が小学生の時と今の小学生とで、いくつか違いがあって、最初は驚きました。私が先生になる頃には、小学校に限らず、中学・高校でもいろんな違いが生じていると思います。その時は、自分が小・中・高等学校だった頃の常識を取り払って、その時その時対応できるように頑張りたいと思います。

2.5. 教室の雰囲気

総合理学プログラム 2年 吉田成美

私は毎週木曜日の10時から13時10分までの時間帯で土屋小学校にボランティアに行かせていただいた。

活動の内容はクラス見学や子どもたちが問題を解いているときの補助、また、運動会の準備、運動会の練習で休んだ子の黒子役、プール掃除をした。

4年生のクラスのほうへ向かうと最初から子どもたちの笑い声が聞こえた。4年生の担任の先生は男の先生でとても面白くて、子どもたちはのびのびと発言し、笑いが絶えない教室の雰囲気。算数の授業のときに分からないと言われて、少しヒントを与えていたが、答えを言ってしまい、その子しか分からないという状況をつくってしまった。4年生は一番仲良くしてもらった。

2年生の教室の雰囲気は笑いがあったりもしたが、先生は注意を3分に1回くらいするので、少し子どもたちは固まっていた。

5年生は先生がはきはきとして元気なので子どもたちもとても元気だし、先生に質問し、活発的なクラスだと思った。

そして運動会の時に3年生の先生とお話をして、すごくがんばっているのだと感じた。子どもたちと接しているときとまったく雰囲気が違っていて、子どもたちのことをすごく考えていると思った。3年生の子どもたちは先生におびえているような印象だったが、それは間違いで、子どもたちは先生のことをとても慕っていた。3年生の先生は常に子どもたちのことを考えていることがお話して分かった。給食のときはグループにならずにご飯を食べた。グループになって食べると友達同士で話してしまい、給食を食べるのが遅くなってしまったためらしい。難しいところだけど、時間内に食べることを先生は重要視しているようで、静かな雰囲気で楽しそうではないけ

ど、食事の大切さなどが分かっていいと思った。

1年生はまだ何も分からないような状態で教えるというよりも、やらせると言った感じだった。先生はやさしくて、穏やかで、怒るときは怒るといった感じで、子どもたちものびのびと活動していた。

先生たちの雰囲気によって、クラスの雰囲気が変わると思った。また、雰囲気も大切だけど、「何を重要とするかによってだ」と3年生の先生とお話をして感じた。子どもたちを注意することも大事だけど、そのあとの切り返しも大切で、いつまでも怒ったことを引きずることをどの先生もしていない。先生は、常に子どもたちのことを考え、行動しているから、子どもたちの雰囲気がよくなっていたのだと思った。

このような経験をさせてもらえて本当に先生の大変さが改めてわかったし、また、もっと教員になりたいと強く思った。そのために、原論、数検、たくさんやることをしっかりやって、絶対教員になりたい。ボランティアさせていただきありがとうございました。

土屋小学校・後期

26. 「応用力」

国際経営学科 2年 大庭靖弘

学校ボランティア活動の内容は主に、授業補助や清掃活動、行事活動の事前補助を行った。授業補助は、先生の授業でわからないところを、補足的に子どもたちに教え、清掃活動は通学路を清掃した。また、行事活動の事前補助とは、焼き芋大会に備え、前日に落ち葉集めなどを行った。

今回、この学校ボランティアに参加し、実際に子どもたちと触れ合うことで、たくさんのことを学んだ。勉強を教える楽しさや、昼休みに子どもたちと共に遊ぶ楽しさなどの他にも、先生の視点に立った子どもたちを叱る難しさや、行事活動の準備の大切さなども、多々学ぶべき点があった。しかし、今回このボランティア活動を通して、個人的に一番重要な力だと感じたのは、この題名の通り「応用力」だ。「応用力」というと様々な意味を連想させてしまうかもしれないが、端的に言うと、教師が子どもたちを教えるうえでマニュアル化しない力である。例えば、1年生の授業で勉強が苦手な子どもたちの指導を頼まれた時、このような力は非常に大事だと身をもって感じた。他の子どもたちが平仮名、片仮名をすらすらと書けるなか、その子は平仮名も書けない程であったので、教えるのにかなりの時間を要した。先生が黒板に平仮名を書いて、他の子どもたちがそれを模写するなか、その子は字を書こうとする素ぶりすら見せてくれなかった為に、先生の実験を経て急遽「かるた」で、平仮名を学ぶことにした。本文を自分が読み上げ、その内容に即した「かるた」を子どもたちに取りらせて、ノートに模写させるゲーム感覚の学習スタイルは、最後

まで飽きさせることなく、教えることができた。これは、その子どもたちが、昼休みに「かるた」で楽しそうに遊んでいたことを思い出したのが、きっかけである。このようなことをすれば、必ず成功するというわけではないが、子どもたち一人ひとりを観察し、絶えずアンテナを張り巡らせていなければ、培えない力だと痛感した。

この力は小学生のみならず、中学生や高校生を教えるうえでも大切な点だと感じる。授業を展開するうえでも、勉強が得意な子どもたち、不得意な子どもたちと様々なので、その子たちの関心を高めるような話題や教材を用意することは重要かもしれない。勿論、全てが想定内の範囲内ということはない。むしろ、今回の学校ボランティア活動の経験からだと、「想定外」のことのほうが多いかもしれない。自分の工夫が良い方向に進まなかったとしても、改善点を考え、めげずに試行錯誤することは、教師になるうえで欠かせない能力である。

5年生の国語の授業を見学させてもらった際、先生の授業展開に多くのことを学んだ。教科書中でわからない用語が出てきたら、即座に辞書で調べる時間を設けさせていたり、抽象的な数字が出てきたら、実物を持ってきて、視覚的にも子どもたちの関心を惹きつけ、そこから話を展開させていたことなどは、さすがだなと感じた。どうやったら、子どもたちの興味や関心を高めさせることができるかを絶えず模索しなければ、あのような工夫は決してできない。自分も教師を目指すうえで少しでも多くのことを吸収していきたい。

10月からスタートした、土屋小学校の学校ボランティア活動もあと僅かである。せっかくあのような実践的な場所に行くことができるのだから、自分で様々な「想定外」をシュミレーションしつつ、重要な資質である「応用力」を今後も養っていかねばならない。また、そのような場所を提供してくださった方々

への感謝の気持ちを忘れることなく、残りの学校ボランティア活動を意義あるものにしていきたい。

27. ボランティアで学んだ子どもへの対応

国際経営学科 4年 堀 健太

私はこれまでに1年生から4年生までを担当し、主に1, 2年生のクラスに行くことが多かった。時間帯は午前10時から13時10分までで、その間の授業のサポートを行ったり、休み時間に子どもと遊んだりした。また、給食の準備や掃除の手伝いなども行った。

今回のボランティアでは、先生に近い立場から子どもたちを見ることができたので、子どもとは違った視点から物事を考えることができた。たとえば、授業中に子どもが授業とは関係のないもので遊び始めた時に、先生が小学生に対してとは思えない程、厳しく叱りつけたときである。今までのように子どもとしての立場から見ると、なぜ、これほど厳しく叱りつけたのかということに対して、気にすることはなかったであろう。しかし、今回は学校ボランティアという立場だったので、将来先生を目指す身としてはとても気になることであった。

これは私なりの解釈なのだが、もし、今回のようなことを見逃すことが続くと、子どもは授業中に関係のないことをしても大丈夫だと勘違いするようになるだろう。それを繰り返しながら成長していくうちに、先生の指示を聞かなくなることや、授業に集中しなくなるなど、様々な弊害が発生する恐れがある。将来的には、ルールを無視して、他人に迷惑をかけるような人になってしまうかもしれない。そのことを見越して、小学生という小さな子どもに対してであっても、厳しく叱りつけていたのかもしれない。これは、先生の愛

情の裏返しであるようにも感じられた。そして、その後のアフターケアも素晴らしかった。怒られた子どもはもちろん落ち込んでいたのだが、先生が授業に戻り、次にその子どもと話すときは、何事もなかったように優しい笑顔で話しかけていた。その先生の表情に安心したようで、子どもも再び笑顔になり、楽しそうな授業風景に戻った。さらに、問題で指名した時に正解することができる、先生はきちんと褒めてあげて、子どもは嬉しそうにしていた。この切り替えこそが、先生の経験や力量が出るのではないかと感じた。普通ならば、一度怒った子どもに対しては、厳しく接してしまいそうだが、うまく切り替えることにより授業を円滑に進めているように感じた。このようなことは、実際の授業現場に来たからこそ考えることができたのであり、大変有益なものだと感じた。

上記のように、学校ボランティアを行ってよかったと感じたことはたくさんあるのだが、一番よかったと思えるのは、なんといっても子どもたちと触れ合えたことである。教員を目指すとなると、実際に現場ではどうということを行っているのかという状況が気になる。百聞は一見に如かずで、いくら話を聞くよりも、やはり、自分が実際に学校に行き、感覚として学校というものを理解する方がいいと感じた。土屋小学校の子どもたちはとても元気で、両腕を引っ張られることもしょっちゅうあった。休み時間にはみんなで鬼ごっこをして校庭を走り回ったり、給食の時にはたくさん話をしながら食べたりした。私は高校教員を目指しているのだが、こうやって子どもたちの笑顔を見ながら楽しい時間を過ごしていると、小学校の教員を目指すのもいいのではないかと感じた。もちろん、楽しいことばかりではないのも分かっている。私の父は小学校の教員をしているので、学校の先生がどれほど苦労して大変な思いをしているかということも小さい頃から見えてきた。しかし、

そう感じずにはいられない程、素晴らしい経験をすることができた。この学校ボランティアで得た経験は、計り知れないものがある。このことを活かすためにも、教員になるために一生懸命頑張っていかなければならないと感じた。

2.8. 先生じゃなくておにいちゃん先生

情報科学科 2年 小林由人

私は10月から12月の3ヶ月間、火曜日の午前中に学生ボランティアとして土屋小学校に行きました。そこでの主な活動は児童と一緒に給食を食べること、授業参観や丸付けの補助、児童からの質問に答えることでした。また、校務さんの手伝いや校外活動の同行など、通常ではできない貴重な体験をすることができました。

この活動で私が児童と接するとき特に大げさと感じたことは、遠慮をしてはいけないということです。最初のボランティアに行く前、「どういう風に接すればいいのだろう」、「間違ったことを教えてはいけない」などマイナスなことばかり考えていました。そのため、児童と接するときどこかよそよそしくなってしまうたり、児童が質問しに来たときの的確なアドバイスをすることができなかつたり、上手く対応することができませんでした。しかし、児童はそんな小さいことはどうでもいいという感じで、私の服を引っ張りながら「ねえねえ、鬼ごっこしようよ」、「この問題はどういうこと？」と、おどおどしている私に遠慮なく話しかけてくれました。

このときから私は遠慮なくどんどん話しかけてくれる児童とコミュニケーションをとるのに自分自身が遠慮してはだめだと考えるようになりました。いつも使わないような丁寧な言葉遣いはやめて、鈴木先生がよく言う“おにいちゃん先生”のように振る舞いまし

た。算数のプリントをやっている児童のところに行って「できた？」や「すごいね」と自分の言葉で話しかけると、「余裕！」とか「こってこうでいいの？」と返ってきてくれ、児童との距離がぎゅっと縮まったように感じました。このように遠慮なんかせずにいつもの自分である、児童と一緒にいる時間が楽しく、ボランティアに行くことがとても楽しいと感じるようになりました。さらに、ボランティアの活動が楽しいと感じるようになると、授業展開や指導などいろんなことに目が行くようになり、実際の現場でしか学べないことを吸収できたと思います。

ボランティア活動にだんだん慣れてくると、先生方にいろいろなことを頼まれるようになり、私は少し視野が狭いという障害をもったA君のサポートを頼まれました。はじめてA君と会ったときは目を合わせてくれず、話しかけても知らんぷりをされてしまいました。最初の仕事は階段の上り下りの補助でしたが、信頼されていないため手を繋ごうとしてもすぐ放されてしまいました。しかし、私は遠慮なくどんどん話かけていきました。そうすると、少しずつ反応してくれ、A君の方から話しかけてくれるようになりました。いまでは、階段も一緒に上り下りし、先生から「A君、小林さんに懐いてきたね」と言われるくらい仲良くなることができました。私は教育において教師と児童の間の信頼関係を築くことが最も大事だと思っています。教師側が遠慮しないで接することがその第一歩になるのではないかと、このボランティアの活動で強く感じました。また、児童から歩み寄ってくるのを待つより教師から歩み寄るほうが、より良い関係が築けるのではないかと感じました。

このボランティアの活動で児童との関係づくりなど様々なことを学び、吸収することができました。そして、指導をする上での知識や教養、教える技術など、自分に不足しているところも発見することができました。これ

からは様々なことに挑戦し、様々な経験をjして、不足しているところを少しでも埋められるように頑張りたいと思います。

29. 教師に求められるもの

情報科学科 2年 三浦雄弘

毎週火曜日の12:30~15:30まで土屋小学校で様々な学年の子どもたちと給食を食べたり、実際の授業風景を教室の後ろから見学をしました。授業のなかでは、先生のサポートをすることもあり、丸つけや、誤字脱字がないか、先生がついていなければ取り扱えない器具などの使用を注意深く見守るなどもしました。また、授業外では、校務さんのお手伝いなどもしました。

小・中・高等学校では、「生きる力」をはぐくむための教育が推進されていますが、その一環として、「総合的な学習の時間」が新設されました。この「生きる力」の柱の一つが「自ら課題をもって、自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決する資質、能力」です。その課題に取り組む教師は人間としてのすべてをさらけ出してしまっていると言っても過言ではありません。

授業に本当に必要とされているのは、何よりもまず、教師自身の総合的な人間力なのではないかと思います。実践を支える土台としての総合的な能力、「人間力」。日々の教育活動で、効率性や技術を要することが多くありますが、実際小学校の授業を見学して教師の仕事は、あまりにも多岐にわたることを再認識しました。ましてや担任の仕事ととして、子どもたち一人ひとりに、ひとつずつ時間をかけていては、日々の教育活動に滞りが生じることになります。しかし、目の前の課題をすべて技術的に「てきぱきこなす」、言い換えれば「処理する」という感覚で動いている、教師としての創造的な喜びはなくなると

思います。技術の習得は必要です。それがなければ、子どもの前に立って教鞭を振るウプロの教師にはなり得ません。しかし、技術習得の総点検のみではなく、人間的、かつ知的な試みを伸ばしていかなければならないと思いました。

また子どもたちにおいては、他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信をもたせる必要があります。そのためにも、国語をはじめとする言語の能力が重要になってきます。特に、国語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤です。自分や他者の感情や思いを表現したり、受け止めたりする語彙や表現力が乏しいことが、他者とのコミュニケーションがとれなかったり、他者との関係において容易にいわゆる「キレル」原因になっていて、これらについての指導の充実が必要になると思います。子どもたちの発達の段階を考慮して、子どもたちの言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、子どもたちの学習習慣が確立するよう配慮しなければならないのも教師に求められるスキルになってくると思います。教師と子ども・子ども同士の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること、児童が集団の中で安心して話ができるような教師と子ども・子ども同士の好ましい人間関係を築くことも必要です。

子どもに課題を与えるのは簡単にできるが、そのことを続けようとするとなかなか続かなかったり、教師の思うように課題をこなしてこなかったり教師への課題も増える一方です。ただ「書いていっちゃい」というだけで、しばらくは書いてくるが、だんだんと続かなくなってくるでしょう。子どもが毎日書く努力をするのは、先生から返事がもらえるという喜びが得られるからだと思います。だから、どんなことがあっても、必ず赤ペンの返事を書かなければなりません。それも、形式的なものではなく、子どもの語っている事柄に対

して、誠実に心をこめて対話をする事です。また、丸をつける基準として、その子どもが、よく考えているか、よく感じているかということによって決めます。できごとだけを書いている子には、ほとんど丸がつけない。だから、子どもが丸がつく作品を書こうとすることは、自然に感じたことや考えたことを書くようになります。それは、題材を見つける目を培っているということに繋がります。

30. 学年が変わるということ。 年を重ねるということ。

情報科学科 2年 芳賀健介

自分は毎週木曜に土屋小学校に通っている。土屋小学校は様々な行事が行われており、特に木曜は「わくわくタイム」という時間を設けており、給食後の掃除の時間が少ない分、昼休みを長くしている。そのほかにも、りんどう祭の準備の手伝いをおこなったり、たてわり班行動によるミニ遠足(びわ青少年の家)のようなものにも同行させてもらった。

毎週木曜にあるわくわくタイムは、ただ休み時間が長くなって、遊ぶ時間が増えるだけだと思っていた。しかし、この休み時間は、たてわり班で各自で考えた遊びなどをしたり、子ども全員で落ち葉広いをしたりなど、学校全体での活動がよく組み込まれていた。特にたてわり班による活動は、1年生から6年生で編成された班による活動であり、上級生が下級生の面倒をみなければならない事が増えてくる。このようなことを行うことによって、上級生は上の立場としての自覚が芽生え、下級生はその上級生を見習って(もしくは反面教師?)上級生になっていくのだろうなと思った。

その最たるものが、びわ青少年の家での活動であると思った。びわ青少年の家は思った以上に遠く、小学校から30分以上かかり、距

離にするとだいたい1.5から2キロはあると思われる。その道を班ごとに集団になって進んでいくのだから、上級生は下級生の体力を心配しながら進んでいく。車通りが少ないとはいえ、「一列になって」「そこ、散らばらない」などといった言葉が時々飛ぶのは、自分たちにも上級生が頼りがいがあるように見えた。到着後のドッジボールでは上級生と下級生の力の不利がなくなるようなルールを設け、ボールも極力下級生に投げさせ（特に女の子にも参加させようと努めていた）、全員を参加させることに成功し、とても楽しい時間が過ぎていた。

りんどう祭の準備では、子どもが一生懸命取り組むのは当たり前であるが、先生も細かいところまで指示し、時には先生自らが修正したりなど、子ども以上にいいほどに一生懸命に取り組んでいた。先生が「正直言ってこういうイベントは、子どもたちよりも先生が楽しみにしていることが多いよね」と言っていたことに、こういうものに自分から進んで取り組んでいくことも先生に必要なものの一つなのかなと、とても感銘を受けた。

通常授業では自分は1年生から5年生の特に1年生を中心に授業に参加させてもらった。その中で一番の収穫は、全ての学年で算数の授業を手伝わせてもらったことである。もちろん、各学年で授業内容は異なり、学年が上がるごとに難しくなっていく。週ごとに授業に参加する学年が変わるから、どれだけ違う内容をやっているのかをはっきりと知ることができた。しかし、授業のレベルアップにも驚きはしたが、それ以上に子どもの集中力がどの学年でも非常に高いことにとっても驚いた。昔も自分はこのくらい集中できていたのか？と思うと、昔を思い出して頑張らなければと思ってしまった。

学年が上がることによって、変わっていくものが思った以上にあることを改めて思い知った。しかしその反面、全く変わってないもの

も必ずあるということも知った。それは大人になるまでに変わっていくべき、変わっていくだろうと予想できるものであったり、変わってはいけないものだろうと思うようなものであった。残りの大学生活で自分の中のそれを探し、将来に活かしていきたいと思う。

3.1. 叱ることも大事

情報科学科 2年 鈴木幹大

私は土屋小学校へ行き1年生から3年生のクラスを担当させてもらった。主な活動内容としては、算数の授業で用いたプリントの丸つけや国語の音読練習の手伝いだった。また、子どもが授業で使う道具の準備など直接授業とは関わらない裏方の仕事を校務さんで行ったが、これはとても貴重な体験になりました。

土屋小学校は1学年1クラスしかない小さい学校ではあるが、その分クラスの仲がとても良いと感じた。そして人数が少ないということもあり学年、性別関係なしに名前で呼び合っていたことは珍しい光景だと思った。クラス内のルールなのか、学年によっては名字にさんをつけて呼んでいたクラスもあったが校庭で遊んでいる時に1年生が6年生を名前で呼んでいたことには驚いた。また、土屋小学校ではたてわり班といって、1年生～6年生まで各学年それぞれ2～4名程度のグループを作って、そのグループ事にお昼ご飯を食べたり遊んだりすることがある。ご飯を食べる時も遊ぶ時も1年生や2年生は自分勝手な行動を取ってしまうときがあったが、リーダーを中心に上級生が下級生に注意したりしていたのを見て、土屋小の6年生はともしっかりしていると感じた。

学校ボランティアを体験してみて「気がついたこと・学んだこと」はたくさんあるが、中でも特に印象に残っていることがある。小学生ならまだ小さいし先生が色々伝えても

分からないこともあるだろうから、子どもに多少注意することがあっても強く怒ることはそうないだろうと思っていた。しかし、話を聞いていない子どもや授業中に先生が注意したにもかかわらず喋っている子どもには、小学生だからといって甘やかすのではなく、強めの口調で叱っていた。最終的に叱った後は優しく注意したり同じようなことは2度としないように声を掛けていたが、小学生にそこまで叱るのかと思うくらい強く叱っていた。そのクラスの担任の先生と話す機会があったので、色々なお話を聞くことが出来たが、低学年だからと言っていつも甘やかしているとこれから学年があがってもけじめがつかなくなるので時には怒ることも大事だということをおっしゃっていた。話を聞いてみて、その時と場合によっては甘やかすだけではなく叱ることも子どもを成長させるうえではとても大事なことなのだなと感じた。

私がこの学校ボランティアを行うにあたっての1つの目標として「1人でも多くの子どもたちとコミュニケーションをとる」という目標を自分の中で考えた。初めて小学校を訪れたとき1年生を担当させてもらったが、どんな事を話しかければ興味をもって貰えるのか分からず困った。しかし、限られた時間ではあったが子どもと触れ合っていくなかで、どのようなことを話せば興味をもってくれるのか分かるようになった。コミュニケーションが取れる場としてお昼ご飯を食べるときが考えられるが担任の先生によってはご飯を食べるときは静かにしなさい！と言ってお昼ご飯の時間が終わるまで誰も喋らずご飯を食べていた。大学生の自分としてはあまりにも驚いた出来事ではあったが、マナーを教えるために先生が考えた工夫なのではないのかなと思った。幸いにも私がボランティアに行った木曜日はわくわくタイムといって、掃除時間を短縮してその分昼休みを長くするという日だった。そのため普段はあまり関わらないよ

うな上級生の子ども達と混ざってドロケイをしたり遊ぶことが出来た。目標が達成されたのかと言えば分からないが、授業中やお昼ご飯を食べるとき、昼休みでたくさんの生徒とコミュニケーションが取れたのではないかと思う。短い時間ではあったが貴重な経験が出来た。この経験がこれからの人生で役立てれば良いと思う。

3.2. 適切な判断から生まれる互いの成長

情報科学科 2年 石倉光博

平塚市立土屋小学校でのボランティア活動を通して、様々な体験を小学生と共にやった。特に5年生の総合学習におけるイネの脱穀や腐葉土作りなど、一生に一度の経験かもしれない貴重な体験をすることができた。このボランティア活動を通じて私が考えたこと、学んだことを見ていきたい。

私がこのボランティア活動を通して最も考え学んだことは「適切な判断」である。このことを学んだのは、初日のボランティア活動で3年生と給食を食べた時のことである。私が給食の準備を3年生としていると、担任の先生から「ここに座って見てください」と言われ、しばらく椅子に座って給食準備を見ていた。しかし、この時の私は座っているだけではボランティア活動ではない、積極的に行動を起こし、手伝う事こそボランティア活動だと思い、担任の先生に何か手伝う事はないかと聞いてみると、担任の先生は私に「手伝ってもらうことは本当にありがたいことですが、3年生は自分たちでやることを学ばないといけないので、何でも手伝うのではなく、状況に応じてサポートしてほしい」という話をしていただいた。この経験は私が考えていたボランティア活動とは全く異なっていた。先にも述べたとおり私は「ボランティア」＝「手伝う」という考えであったが、こ

のことから「ボランティア」＝「状況に応じたサポート」という考えを学んだのである。つまり、ボランティアだからといって小学生の活動を何もかも手伝ってしまったのなら、その子どもたちが「自分でやること」の大切さを学ぶ事が出来なくなってしまうのである。そしてそこに成長はない。しかし、「自分でやること」を身につけたのなら、それはこれから一生使える知恵になり、その知恵が今後の生活に生かされ自分自身の成長を実感することになるだろう。だからこそ、「手伝う時」と「見守る時」の判断が非常に重要なのである。まずは手伝うのではなく見守るそして、どうしてもできない時にサポートする事こそがボランティアの本質であり、私にボランティアの意味を考えさせてくれた非常に貴重な経験であった。またこのことは学習面にも応用できると私は考える。分からないことに関して、答えをそのまま教えるのではなく、答えにつながるためのヒントを出し、答えにたどり着くまでの過程を一緒に考えることによって、その問題を解決する力が身に着くのだと思う。分からないことを一緒に考え、できた時の喜びは非常に大きいものであり、このような達成感を積み重ねていくことによって次へのやる気にもつながるのである。

このボランティア活動において私は以上のような「適切な判断が互いの成長につながる」ということを学ぶことができた。しかしこの「適切な判断」をすることは非常に難しいことも実感している。「手伝いたい」という気持ちは非常に大切に、まさにその気持ちが「ボランティア」であるが、その熱い気持ちをぐっとこらえ「見守る」ということも含めた、状況に応じたサポートができた時、子どもたちだけでなくサポートした私自身も成長することができる「互いに成長ができるボランティア活動」になるのだと実感している。それと同時に、この活動で学んだ事をこれからさらに磨きをかけ実行することによって、

今回このように貴重なボランティア活動をさせていただいた土屋小学校に感謝の気持ちを伝えることができるのではないかと考える。後期の学校ボランティア活動を通じてこの「適切な判断」と「適切な手伝い」を学び、そして「ボランティア」の意味を考えさせてくれたこの経験は、私にとって一生の宝物になった。

3.3. 教師の在り方

情報科学科 2年 小西一徳

毎週木曜日に土屋小学校へ学校ボランティアとして訪問している。小学校では、担当する学年の授業の見学と補助、給食や休み時間を共に過ごすなどが主な活動内容である。また、子どもに直接関わることでなく、学校行事に関する事務の手伝いなどと貴重な経験を積ませて頂いている。

教員の仕事に対して最初は「楽しくて、やりがいのある仕事」と感じていた。しかし、実際に現場に行ってみるとボランティアとして体験し、どの先生も毎日相当な仕事量をこなしていて、やりがいがある半面、休む暇なく苦勞が絶えないのではないかと思った。授業の準備だけでも多くの時間を割くのに、もし担任となったならクラス一人ひとりをどう指導して、育てていくかを毎日考えていかなくてはならない。日々の子どもの変化にも敏感にならなくてはいけないし、他にも学校行事の計画・実行や他の学校との交流、指導力向上のための研究授業への参加などもあり、非常に多忙であると感じた。

学校ボランティアに行くまで、教職課程でたくさんの事を学んできたがその内容に対して、教職のイメージ像を持つことがあまりできなかった。しかし、実際に職場で体験してみても、自分の中で明確なイメージを持つことができるようになった。それによってこれか

ら教職課程で学んでいく一つひとつのことが、この経験により具体化してしっかりと理解できるようになったと思う。

発見したこととして、先生方の板書がどの文字も正確できれいだった。今、模擬授業をしているが、子どもは先生の一举手一投足に注目していると考え、そういった細かい所にこれから意識していきたいと思った。また、特別活動が普段の学校生活の中でクラスの団結力の向上や人間形成のために重要な役割を持っていると感じた。例えば、学校祭。土屋小学校のりんどう祭の準備に携わり、子どもがお互いにアイデアを出し、出し物を決め、その役割を決め、成功という一つの目標にみんなで行く。これは団結力や協調性を学ぶことの大切さを理解させるためにとても重要なことだと思った。こういった活動を通して、友達と前以上に仲良くなれたり、役割を決めたことで責任感が生まれるなど、人間的な成長につながっていくとも思った。

思ったこととして、どの教科でも子ども達が学んでいる一つひとつのことに意味があることを伝えるのはとても大変だと思った。また、単純な計算であっても、どうしてその答えになるのかという“過程”を大事にしているのだなと授業を見学して思った。小学生は感受性が豊かな年代であると思うのでいろんなことに興味を湧き、疑問を持つことが多いと思う。そのようなある意味、人生で学ぶことに対して手探りの期間における子ども達に、ちゃんとした意味を教えることは大切だと強く思った。中学高や高校に上がると“受験”といった壁が待ち構えている。(受験に対する捉え方は人それぞれであると思うが・・) 受験は合格が最終目標であるため、“いかにして点数を取るか”や“答えを出すための解き方はどうすればいいか”など結果ばかり求めて、中学校・高校では学びの本来の楽しさが失われてしまうと思う。それらの時期の子ども達に、学校ボランティアで毎回の授業見

学を通して感じた答えまでの“過程”の重要性を指導できるようになりたいと思う。過程を理解することでその物事の構造や成り立ちといった背景を知ることができ、理解力の向上に繋がり、分かると楽しいからもっとやる気が出るようになると思うからだ。そのために、これからの教職で専門とする科目の学習を怠らず、常に子ども側に立ち、どうすれば理解しやすいかなどを意識しながら勉強していきたいと思う。

3.4. 教師・私たちの接し方の違い

情報科学科 2年次 小此木彩

学校ボランティアとして、週に1度月曜日に土屋小学校に行っている。授業の手伝いをしたり、休み時間に鬼ごっこや折り紙を折ったり、給食を一緒に食べたり、掃除を手伝ったりしている。週の初めに小学生に会うのが楽しみになっている。土屋小学校は1学年に1クラスしかなく、クラスの人数も20~30人くらいで少人数で授業をしている。座席も黒板が見やすいように黒板に対して「コ」の字になっている。私が小学生だった時は人数も多かったのですが、黒板に対して「コ」の字に座るという発想がなかったのではじめてみたときは新鮮だった。

約2カ月の間、小学校に通ってみて発見したことがあった。それは、クラスの子どもに対する担任の先生の接し方だ。1年生と言うと幼稚園や保育園から上がってきた子どもたちばかりである。だから先生の接し方も優しいと言ったら変だが、同じ立場になった接し方をすると思っていたが、全く逆だった。1年生に対しても大人と同じような接し方をしていた。時には言い方がきついのではないかと思う時もあるが、1年生のころから大人のような扱いをされているからこそ養われることがあるのだと分かった。例えば授業中に集

中力が切れてしまいだらけてしまう子どもに対して、「がんばってやろうね」などと優しい言葉をかけているはその子は全く進歩しない。きつい言い方でみんなの前で大きな声でしかることによって、みんなに怒られているところを見られているという恥じらいの気持ちが生まれ、どのような態度で授業臨まなければいけないのか考え行動することができる。その瞬間だけでみるとやりすぎだと思ってしまうことでも、これから先の子どものことを考えたら適切な言動なのだと考えた。きついといってもいつもきつい言い方というわけではなく、先生の手伝いをしたり、優しい行いをしたとき、また体育の授業中にきれいにできたりなど子どもががんばって何かをやり遂げたときには、きちんとほめの言葉をかけている。どんな子どもであってもほめられているやな思いになる子どもはいなく、ほめられたらもっとうまくなって、またほめられたいという気持ちになり、がんばろうと必死に物事に取り組む姿勢が私から見ても分かった。どのように接したら子どもが自分からがんばろうと思うのか、どうやったら子どものやる気を伸ばせるのかも教師の腕にかかっている。“あめとむち”をきちんと適切に使い分けることができこそ、いい教師になれるのだと思った。また、私たち学生ボランティアがどのように接するかで子ども達の接し方も変わってくるということも分かった。大半の子どもは私より背が低い。その子どもに対して立ったままで話をすると子どもを見下ろしてしまう。最初は気付けなかったのだがやはり見下ろして話されるよりは、子どもの目線に合うようにしゃがんで話すほうが良いと気づき、このことを心掛けてからは、子ども達が心を開いて接してくれていると感じるようになった。私がしゃがむことによって、背中に抱きついたり、だっこを要求したり、ボディータッチが多くなった。自分から子どもに触れることは“セクハラ”と取られてしまうことがある

ため、気をつけなくてはいけないと思っていたが、子ども達から寄ってきてくれるので最近では以前の様に“セクハラ”と思われぬように接しないと”と考えることが少なくなった。給食の時は一緒に食べている時に、子ども達からも話を振ってくれたりしている。一番うれしかったのは給食の時に一緒に食べたいからと私を取り合ってじゃんけんまでしてくれたことだ。このときに子どもの輪の中に入れたと思った。昼休みも外で楽しくかけっこなどをして遊んだり、室内で折り紙をしたり、TVのことについて話すようになったのもこの時からだと後々考えて思った。これを通して子どもたちと言えどやはり見下ろされるより対等の目線で話したりした方がいいのだと分かった。「子どものために何が最適なのか」考えたり、行動した積み重ね一つひとつがよりよいクラスを作る秘訣だと考え、教師一人ひとりで子どもに対しての接し方は違ってくると思うが、根本的にある考え方はみな同じだと思った。

35. 考え方を大きく変えた瞬間

情報科学科 2年 長谷川周一郎

10月、初めて土屋小学校に行かせていただいた時は、3年生の英語のクラスと、5、6年生の音楽の授業でした。一番初めの印象は、イメージしていた小学生との違いでした。

私が知っている小学生は、もっと騒がしい、やんちゃな子どもばかりというものでしたが、実際行ってみると想像以上に大人である、という風に感じました。授業でも、これは3年生の自習の時間でしたが、それなりに話をする子どもが居ても可笑しくないと想像していました。しかし、予想に反して誰一人として話すことはなく、1時間黙々と勉強をこなすという姿にとっても驚きました。また、そのあとの5、6年生合同の音楽の授業では、発

表会の練習を聞かせていただきました。本番直前というのもあったのですが、とてもレベルの高い演奏で、私は小学生という認識を大きく変えた、そんな一日でした。

また、学年が変わると、子どもたちの様子も大きく変わっているという点も特徴的でした。1年生、2年生はまだ少し幼いようで、ある程度自由な印象にありましたが、3年生にもなると、他のクラスメイトや、周りを見る事が出来るのか、気遣いが出来る子どもに多く出会った様に思います。5年生、6年生になると、もうこれは殆ど大人に近い、という印象を受けます。なんでも自分でこなし、分からなければ他の子どもや先生に助けを求める、などすごく成長しているな、と感じました。なんでも自分で考えて行動できるので、知識を付ける、ということがこの先の課題なのだろうな、と授業を見させていただいたときに感じました。

それから、学校の先生の考え方、というものにとっても驚きました。3年生の担任の先生に初めてお会いした時に、自分たちで気付かせ、考えさせなければ駄目、こちらが察して行動するのではなく、自分で行動する事が大切、という様なお話をいただきました。凄く衝撃を受けました。私は凄く甘い考えを今まで持っていたんだな、と酷く反省した瞬間でもありました。また、とても難しいな、とも感じました。そのときは、教室のゴミをひろうにしても、私がやっては駄目。教室をきれいに使う、邪魔なものを除けるという事を覚えさせるというのが必要だという様な、気遣いができるようにする、というものでした。先生が教室をさりげなく拭いていて、なぜ自分たちの教室なのに代わろうとしないんですか、というようなこともありました。そのとき、自分の行動で子どもが成長する機会を逃してしまう、逆に成長させることが出来る場所にいるのかと酷く痛感するとともに今まで持っていた考えを全く新たにしたり、そういう

場面でした。その後の活動は、常に先に子どもの先を考え、気付きだけでも分かってもらえたらな、と行動しているつもりではありましたが、実際そんなに簡単にできる事ではなく、相当な難しさを感じました。これを出来る様になるにはやはり相当な努力が必要だと、これもまたひどく痛感させられました。また、他の学年の先生方も、そういった部分にメリハリがあり、とても凄く心に響いたと同時に、改めて教師というものの凄さを感じさせていただきました。その甲斐あってか、6年生もあんなに大人になっているのかとも思いました。

私が通っていた小学校とは、大きく違い、凄く教育熱心な学校だった、と今ではそう考えます。私が通っていた学校とは子どもたちの数に差はありますが、その分子どもたち全員の名前を覚えていたり、班登校などもしっかり出来ているあたり、やはり気迫といえますか、熱気をとても感じたボランティア活動でした。今回体験させていただいた事を、これから先、大きく活かしていきたいと、そう思います。

36. 1年生でも…

情報科学科 3年 佐久間達也

私がボランティアとして土屋小学校へ行って、特に印象に残った出来事は1年生の男の子同士のけんかです。これは休み時間に私が1年生の男の子何人かと鬼ごっこをしていた時のこと。A君が鬼で、そろそろ休み時間が終わろうとしていた時のことです。A君は自分が鬼で終わりたくなかったのでしょうか。みんなが校庭から昇降口へ走って引き上げていく中、A君の中ではまだ鬼ごっこは終わっていなかったらしく、B君にタッチして「はい、B君鬼ね。」と、言いました。しかし、自分が鬼のまま終わるのが嫌なのはB君にとって

も同じであり、B君は「えー、もうチャイム鳴ったからセーフだよ。だから今のはなし。」と、言いました。そこから二人のやり取りは口喧嘩へと発展し、終いには取っ組み合いのけんかへととなりました。そして体の大きなB君がA君を強く押した所でA君が壁に頭をぶつけて泣いてしまいました。ここで私が間に入って止めさせて、ひとまずA君は泣きやむのを待って念の為保健室へ、B君含む残りの子たちは教室へと行かせました。私がA君を保健室へ連れていくと、保健室にはB君がおり、実はB君も少し腕をぶつけていて、さらにA君に謝りたくて保健室へとやって来て事の経緯を保健室の先生に話している所でした。その後、ここは私が実際に見ていたわけではありませんが、二人はお互いに謝り、ちゃんと仲直りできたようです。あとで聞いた話では、現場にいた残り子どもたちにA君に謝る様に促されてB君は保健室に来たらしいのですが、それにしてもB君は偉いなと感じました。また、それと同じくらいA君や他の子どもたちにも関心させられました。非常にシンプルな事ですが、けんかをして、後になって悪いなと思わずに謝るということは、たまに中学生でもできない時があります。それを1年1組の子たちが自然と行うことができていました。

私は小学生くらいのうちにちゃんとしたけんかは経験しておいた方がいいと思います。そして、けんかを通じてお互いの意見をしっかりと言い合い、自分に非がある部分をお互いが認め、謝り、直す。これを小学校のうちに何度か経験することは、後になってその子ども的人格形成において良いはたらきをするからです。この出来事もそうですが、私はこのボランティアの間、各学年の児童に対しての手助けの程度の区別の難しさについて特に考えさせられました。私は初日のボランティアで前半に1年生、後半は5年生を見させてもらい、低学年と高学年の違いに驚かされま

した。小学生くらいの年齢の子どもたちは1年での成長が著しいものです。その為、低学年にはある程度の誘導的な質問、高学年に対しては自分で答えの方向性も考えさせるよう指導など成長に合ったフォローの仕方で付き合っただけでなければなりません。さらに言えば、低学年の中でも2年生と3年生では扱いはまた違ってきます。私は高等学校の教員志望ですが、目に見えて分かる程児童の成長が早いこの時期の、初等教育の難しさというものに触れる事ができ大変良かったと思っています。

今回、実際の教育現場を訪れて子どもたちと触れ合ったり、授業を手伝ったり、校務さんの作業を手伝ったことなどは、私にとって本当に貴重な体験となりました。このレポートでは触れていませんが他にも印象に残った、勉強になった出来事はいくつもあります。今後また機会があれば是非行かせて頂きたい、そんな風に思わせてくれた今回の土屋小学校のボランティア活動でした。

3.7. 子どもたちを理解するという事

化学科 2年 小西良祐

私は10月15日から12月17日の期間、毎週金曜日の12時40分から15時30分まで平塚市立土屋小学校に授業の手伝いや、子どもとの交流から教師として必要な経験を積むためにボランティア活動を行いに行いました。主な活動内容としては、子どもと一緒に給食を食べたり、掃除をしたり、遊ぶこと、先生の行う授業を見学させていただき手伝わさせていただくことなどをさせていただきました。

今回のボランティアでさまざまな子ども、先生と出会えました。当たり前のことですが子どもたちの中には私に対して人懐っこい子、テレやな子、よく真似をしてくる子、あまり

なついてくれない子（でも嫌いなわけではないようです）、先生には優しい先生、気さくな先生、放任主義（適当とは違う）先生、厳しい先生など本当にいろいろな人たちが一つの学校にいるということに気がつきました。また先生たちもそんな子ども一人ひとりに対していろいろな場面で（実際に先生の口から聞いたわけではないですが）この子は割と自分で何とかできるから平気とか、この子はすぐ調子に乗るから少しほめすぎないようにしているとかのように、ひいきとはちがう個別的な指導、やる気の出しせ方や子どもの叱り方を変えるなどの子どものことをよく理解しているからこそその対応を見つけました。そして先生たちも同じ授業中でも凶工などの子どもが自分で集中して取り組む時には空気のようになって子どもたちにあまり口出ししないようにしているなどの状況に応じた行動をしていました。

私はこのような一見当然に思えるような先生たちの当たり前ともいえる対応が、自分が現場にいると本当にすごいことだと思いました。私たちが大学の教職の授業でも言われていることですが、いざ学校に入ってボランティアとして入ってみて子どもたちの個性を観察するどころか名前を覚えるだけでも大変でした。以上のようなことを学校ボランティアで感じました。

この個別対応がいじめや不登校などの問題などの解決につながるのではないかと考えました。たとえばいじめや不登校などの問題が起きて、それが発覚したらその子どもを集中的に対応して何とか改善するようにしていますが、もし先生たちが最初からクラスの中の子どもたち一人ひとりの性格や、個性を理解していけば子どもたちのわずかな気持ちの変化に気づくことができたり、もっと子どもたちのやる気を引き出したりできるのではないかと思います。

私は今まで子どもたちに対してどんなふう

に授業したらいいか、どうやって不登校になった子どもを学校に登校させるかのようなことばかり考えていて、あまり子ども個人については考えたことがなかった。大体どの子どもも同じように対応していればついてきてくれると思っていましたが、現場に入ってその考えの甘さや、子どもを理解することの難しさや、大変さ、大切さなどに気づきました。しかしその能力を上げるためには実際に現場に入って経験を積むしか方法がないことを考えると、改めて教員が経験職、専門職であることの難しさを感じました。私はこれから教育実習やほかのボランティア活動などで学校を訪問することがあると思います、そんな時、今回の経験を生かして子どもたちの名前と顔をすぐ覚えて書面上などだけでは表しきれないさまざまな個性などをできるだけ早く理解できるようになりたいです。

38. 教師の大変さ

化学科 2年 齋藤和宏

小学校ボランティアではまず担当する学年へ行って給食を食べます。そのまま掃除がある日には、その学年の掃除を手伝い、昼休みにはみんなと一緒に遊んで遊び、授業中は教室の後ろに立って授業を聞いて手伝えることがあれば手伝います。

最初に小学校へ行ったときはすごく緊張しました。児童や先生方とも初めてだったのであまり子どもたちとも話せず久しぶりの小学校と小学生の雰囲気戸惑いながら終わってしまいました。しかし2回目、3回目と行くごとに、みんなよく話しかけてくれたし、私も他の先生と児童とのやりとりをみたりして接し方や教育の方法に段々慣れてきて、みんなと仲良くとても楽しくボランティアをすることができました。大学生なので先生に近い立場にいさせてもらい、教師になろうと思っ

ている私にとってはとても貴重でプラスになる体験でした。

小学校ボランティアで改めて分かったことは、先生というのは、本当にしっかりしなければいけないと感じました。なので私も大人としてしっかりした見本にならなきゃという思いで毎回小学校に行っていました。教師という職業の大変さが少しは分かったような気がします。まるで自分の人間性を確かめられているようで、自分の行いが児童の教育に影響がでると思うと責任重大な仕事なのだと実感することができました。だけど、そんなに思いつめることは無く昼休みには一緒に遊んだりして、私は児童であり先生みたいな役柄になっていました。

そんな中で児童に対する先生方の対応や態度または児童の反応をみることは、とても勉強になりました。例えば大学生だったら許されてしまうことも小学校では厳しく怒っていて、こういうことも注意をしなければいけないのかと思うこともありました。また6年生と1年生では児童への対応や態度、教えることは全然違うということが分かりました。これは担任の先生の考え方にもよると思いますが、私がみて感じたことは1年生では生活の態度をしっかりと勉強し、質問や意見をよく言う元気いっぱいのクラスでした。6年生ではもう生活の態度もしっかりしていて、中学へ行くため授業の勉強をちゃんとやっている感じがしました。また6年生は学校のリーダーになって下級生をまとめていて、上級生としての自覚がすごくあり、とても良い教育になっていると思いました。

更に思ったことは学年の差ももちろん関係すると思いますが、クラスによる雰囲気というのがそれぞれあるということです。そしてそれは担任の先生が大きく関係しているように見えます。どのクラスもとても良い雰囲気ですが、例えば5年生と1年生は元気なクラス。6年生と2年生は真面目なクラスという

印象をもちました。もちろん毎日みてるわけではないので確信はないのですが、それでも担任の先生の影響でクラスの雰囲気はすごく変わるのだと実感できました。教師というのは重大な職業だとも思い、面白そうだとも思うことができました。

小学校は義務教育の中で生活態度や規則には一番厳しいところだと思います。中学-高校-大学といくにつれて大人になり、すこし生活態度や規則がゆるくなってしまおうと思います。実際私が小学校へ行くと本当にみんながしっかりしていてびっくりします。なので中学、高校の教師になろうと思っている私にとって、この規則が一番厳しい小学校のボランティアをやることはとても貴重で今後教師になったときに絶対に役立つ経験になったと思います。

39. けじめあるひと

化学科 2年 鈴木宏満

自分の小学校の記憶というものはとても曖昧で、記憶に残っているのはほんのわずかだ。そのわずかな記憶から作り出される小学校のイメージは、「自由でのんびり」。今回の「総合演習Ⅰ」の学校ボランティアでは、「学校の雰囲気をよく見る、小学生・先生方を見て学ぶ」を念頭に置きつつ、ボランティアに取り組んだ。

初めは、小学校に行って何をしたらいいのか、先生方の邪魔にならないように手伝えることができるか、といろいろ不安だった。とにかく、先生方とのコミュニケーションがうまくいくかが心配だった。そんな不安の中、学校ボランティアをすべく、神奈川大学の隣接している土屋小学校に行った。

土屋小学校の外観はとても小学校らしい。おおきな校庭、遊具、校門、少し小さな体育館。なんだか懐かしい感じがした。そして僕

は職員玄関のドアを開けた。ドアを開けると、あの小学校の懐かしい雰囲気や頭の奥からよみがえってきた、そんな気がした。学校に入ると、事務員の方がすぐ出てきてくれて、職員室に入ると先生方皆さん温かく迎えてくれた。

初めての学校ボランティアは1年生の担当だった。1年生と話すことはとにかく大変だった。というより、まず相手が何を言っているのか全く聞き取れなかった。何度聞いても何を言っているのかわからなかったのでも焦った。原因はよくわからなかったが、それは時間が解決してくれた。要は慣れだということか。

2回目か3回目のボランティアのときに子ども同士がケンカする場面を目撃した。これもまた1年生である。僕はケンカを止めなかった。理由はうまく説明できないが、その時はそうしたほうが良いと思ったからだと思う。最終的には先生が泣いている子どもに気付き喧嘩両成敗という形になった。ここで気付いたのは、先生のけじめある態度で1年生はうまくまとまっているのではないかということだ。表情はいつも厳格と優しさの間で保たれていたような気がしたし、子どもの前で顔を崩す(大きく笑う)ことはほとんどなかった。

基本的に土屋小学校の先生方はこういったけじめある態度を心がけているような気がする。2年生、5年生、6年生のどの学年の先生方もベースは同じように感じた。確かにニコニコしてばかりしていると子どもたちの気持ちも緩んでしまう。これは大人でも同じことかもしれない。上に立つ人は相手に「なんだ？あの無愛想な奴は」と思われても、けじめある態度も維持し続け、オン・オフをしっかりと区別する必要があるのだと思う。現代の日本はこういった教師が少ない故に、礼儀も公共マナーも知らない若者が増えている、と何かの本に書いてあった。しかし、土屋小学校の子どもたちは礼儀正しいし、いい子ばっ

かりだ。

土屋小学校は職員室の雰囲気がとてもよかったことが印象的だった。和気あいあいと、時には一致団結する。まさに理想の学校像と言っても過言ではない気がする。また、先生方から学んだことも多かったが、子どもから学んだこともいくつかあった。子どもが話す様子はウソ偽りなく、聞いていて身にしみてくるような〈素直さ〉を感じた。これはきっと大学生や大人からは感じられないものなのだと思う。そう思うとなんだか寂しくなる。

学校ボランティアでは様々な体験を通して、いろいろなことを学んだ。この学んだことを将来に役立てていきたいと思う。

40. 「子ども脳」への切り替え

総合理学プログラム 2年 西田紘章

私は毎週火曜日に11時から15時15分の時間帯に土屋小学校を訪問しボランティア活動を行ってきました。土屋小学校での主な活動としては、1年生から6年生までの授業のお手伝いや、校務の方と事務的作業を行ってきました。

私は昔から人と接することが、決して苦ではありませんでした。むしろ、人と喋ったりすることが好きなほうでした。そのため、たくさんの人とかかわりを持つことができましたし、さまざまな経験もさせていただきました。今回、小学校に行くときも今まで通りに、特に変わることなく友達と話すように小学生とも接すればいいとばかり思っていました。しかし、その考え方は実際行ってみて『変わる』というよりも『変えなくてはいけない』と気付かされることになりました。

私が大学生になってからは、10歳前後の子どもたちと接する機会というのは非常に減りました。そのため、小学校に行くまでは不安な思いも多分にありました。今の子どもたち

はどんなことを考えていて、何を好んで、何に興味があるのか、全くわからない。私たちの時代と10年以上違っては環境も遊ぶものさえ変わっているからです。私は小学校に行くまでの間に、自分の頭の中でできる限り様々な引き出しを開けて、話しの種になりそうなものを準備しました。

そして小学校に行く日になり、私は、まず5年生の給食から参加することになりました。私はとにかくいつも通りに、教室に入ったら一方的に喋りかけてスキンシップを図ろうとしました。そして、私の喋りに応えるかのように、子どもたちは笑顔を見せてくれました。この調子でいけばいいと私は確信しました。しかし、子どもたちが時折表情に「？」を覗かせているような気がしました。最初は勘違いかとも思いましたが、話しを続けていくうちに表情に「？」が出るが多くなっていきました。

話しの途中、再度子どもたちの表情に「？」が出た時、思い切って「言ってることわかる？」と聞いてみました。すると、子どもたちは「話すスピードが速かったり、話しの途中に出てくる『しこたま』とか『いいだけ』とかの意味がわかんない。」と教えてくれました。

私はその時ハッと気付かされました。私は20歳の大人で、彼らは10歳の子どもであり全てが違っているのであると。私が同世代の友達に使うような表現は、当然10歳の彼らには意味が通じないのだと。そこから私は、脳を今までのような同級生と喋る「大人脳」から「こども脳」にガラッと入れ替えることにしました。言葉の選択や話すスピードなど、もしも自分が小学生だったらどんな喋り方が聞きやすいのか、そして分かりやすいのかということを考えて喋るように心がけました。そして、自分が一方的に喋るということよりも、まず子どもたちの話を聞き、リアクションを取ることを徹底しました。そうすることで、今までは私から喋りかけていた子たちが、

「聞いて!聞いて!」と自分から喋りかけてくれました。私は、子どもたちがそうして笑顔で喋りかけてくれることが大変うれしいものとなりました。

今回気付けたこのことは、私の間違った価値観を変え、私にとって非常に大切なものになったことは間違いありません。そして、こうして小学校に実際に行き、子どもたちと触れ合ってみなければ絶対にわからないものであったことも間違いのないでしょう。私は今回の経験を大切にしていきたいと思います。

資料14 学校ボランティア通信 E. S. V. Vol. 1



学校ボランティア通信

E.S.V. Vol.1

2010年7月22日発行



「学校ボランティア通信 E. S. V.」とは！？

「E. S. V. (Enjoy School Volunteer)」は、現在、神奈川大学湘南ひらつかキャンパスにて、教職課程を履修している学生たちが行っている学校ボランティア活動について紹介する通信です。参加している学生は、「総合演習Ⅰ」（鈴木担当）履修の学生と参加を希望した学生です。

通信の内容として、学校ボランティア活動の内容を掲載していきます。また、学校ボランティアでお世話になっている先生方へのインタビューや、行事があった時にはその行事の特集、学期末にはボランティアに参加した学生の感想を掲載します。

その他、現在募集している学校ボランティアについての情報も掲載していきます。小学校だけでなく、中学、高校のボランティア活動がしたいと考えている学生は必見です。

「E. S. V.」を読んで、ボランティア経験者は今までの振り返りを、また、まだボランティア体験をしていない人がこれを機に、学校ボランティアに興味を抱いてくれればいいと思っています。

2010年度前期のボランティア活動報告

▼平塚市立みずほ小学校▼

みずほ小学校では、合計16名の学生がボランティアに参加しました。主なボランティア活動内容として、授業の時間は学習の手伝い、昼休みは子どもたちの遊び相手、給食の時間は子どもたちと一緒に給食を食べるといった事を行います。

授業の時間は実際に行っている授業を見る事ができるので、将来の参考になると思います。自分が免許を取ろうと思っている教科の授業に参加できれば、更に有意義なボランティアになると思います。

給食の時間は学生ボランティアがどこに座るか、子どもたちでじゃんけん大会が行われる事もあります。昼休みは子どもたち同士で学生ボランティアの取り合いがあるかもしれません。

みずほ小学校の子どもたちはとても優しく、子どもたちから声をかけてくれるので、初めて行く日でも帰るときにはきっと子どもたちと仲良くなっています。また、先生方はとても優しいので、楽しくボランティアできると思います。

前期ボランティア活動中の行事参加として、運動会があります。今年のみずほ小学校の開催日は5月22日でした。この日は、4名の学生がボランティアとして行事に参加し、普段とは一味違ったボランティア活動を体験しました。

▼平塚市立土屋小学校▼

土屋小学校では、合計15名の学生がボランティアに参加しました。

普段は教室で授業を進める手伝いや、休み時間に子どもたちの遊び相手をする事が主な活動内容です。また、時間によっては、教室で子どもたちと一緒に給食を食べたりもします。

理科学部の学生へオススメなのは、上級生の理科の授業です。理科では実験の補助が体験できるだけでなく、理科の先生が実際に行っている実験の授業を間近で見ることができ、いい機会となっています。また理科学部の学生のみならず、経営学部の学生も懐かしく思える実験に出会え

るかもしれません。

他に、校庭に出て植木や花壇の手入れなどの校務さんのお手伝いをすることもあります。今期は季節が夏という事もあり、プール清掃の手伝いをしている学生もいました。このような季節ならではの活動もあります。

みずほ小学校に比べ、全校生徒の人数が少ない学校ではありますが、自然に囲まれた学校ならではの活動も沢山あり、楽しく活動する事ができます。

前期ボランティア活動中の一大行事として、運動会があります。今年の開催日は6月5日。この日は、天候にも恵まれた運動会となりました。ボランティアに参加している学生のほとんどが参加し、事前準備から後片付けまで手伝いました。最後の最後まで結果がわからないくらいの接戦を繰り広げていた子どもたちを見守りながら一日精一杯ボランティア活動をする事ができました。



学生の体験談

▼平塚市立みずほ小学校▼

児童と教師がつくるクラス

富岡大将

私が、小学校へのボランティアを経験し、感じたことは、各クラスで雰囲気全く違うことである。各クラスで、児童と教師がどのようなクラスづくりをしているかにより、雰囲気がそれぞれ違っていた。

1年生のクラスでは、まだ落ち着きがない児童に対して、担任が優しく接し、しかし叱らなければいけない場面では、怒鳴るように叱るのではなく、児童に注意をし、授業に参加させることを最優先にしていた。私は、教師が児童に授業を習慣づけさせようとしているように思えた。

2年生のクラスは、1年生とは違い、授業にはしっかりと取り組むが、わからない箇所があると投げ出してしまいう児童がいた。このような児童たちに対し、担任はわからない児童を集めて指導していた。この時、わかっている児童を自由におくのではなく、自習などをさせていた。私は、教師が児童に学習意欲をもたせようとしているように思えた。

3年生のクラスは、教師が児童に教えるのはもちろん、わかっている児童がわからない児童に対し、教えている場面が、あちらこちらで見られた。また、担任は児童間のトラブルに対し、お互いの言い分を聞き、指導していた。1、2年生は、明らかにどちらかが一方的に手をだしていた場合が多かったが、3年生では、お互いの児童にいけない点が見受けられた。そのため、担任はお互いの悪い点を指摘し、今後どのようにしていくかを指導していた。

4年生のクラスでは、児童それぞれが授業と休み時間を区別できるようになっていた。また、担任の話をしっかりと聞いていたと思えた。一方、児童一人ひとりの主張がしっかりとっていて、それゆえに多少の対

立が見られた。

5年生のクラスは、担任が厳しいというもあるが、児童一人ひとりがとてもしっかりとしていて、児童同士で注意しあっていた。しかし、注意された児童が注意した児童に反発し、言い争いになる場面がしばしば見られた。だが、授業には積極的に取り組み、多くの児童が発言していた。

6年生のクラスは、少しゆとりがあり、児童一人ひとりが緊張なく良い雰囲気の中で授業に取り組んでいたように見えた。また、担任と児童の間に信頼感が見え、児童が過ちを犯した時、担任が児童にすぐに指導するのではなく、児童自身に考える時間を与え、児童にどこがいけなかったのかを判断させ、反省する時間を与えていた。

1年生から6年生までの各クラスに、それぞれのクラスの雰囲気があり、その雰囲気が児童と教師を一つにし、クラスをつくっているのだと思う。1年生には1年生の雰囲気があり、6年生には6年生の雰囲気がある。それぞれのクラスの雰囲気が、そのクラスをより良くしていくのと思う。また、学年が上がるにつれ児童は成長していくし、もちろん担任の教師も変わるし、クラスの雰囲気も変わっていく。その度に、そのクラスにあった雰囲気をつくることで、良いクラスがつけられていくのだと私は思う。

私はこの小学校ボランティアから、クラスというものの大切さをあらためて知ることができたと思う。



▼平塚市立土屋小学校▼

学年の違い
～見守ることも指導～

狩俣 瑚

今回、「総合演習Ⅰ」の授業の一環として、私は土屋小学校に週に1回(木曜日に)、ボランティア体験に行った。そこで、主に私は1年生の教室をお手伝いすることになったが、授業でわからないことがあったら教えてあげたり、休み時間には一緒に遊んだり、児童の作品を教室に貼ったり、一緒に給食を食べたり、プールの掃除をしたり、などの活動をした。また運動会という学校恒例行事にも参加させてもらい、児童たちのエネルギー溢れる様子を間近でみることもできた。

その際に感じたことだが、小学校というのは1年生から6年生まで幅広い学年の児童がいる。学年によって接し方や教え方、考え方も異なり、先生がたはこれを瞬時に判断して児童たちと触れ合っているのだ。例えば私は初め1年生のクラスに行き、学習のお手伝いをした。1年生というのは結構大変で、一人では何もできないし、言ったことを1回で理解が出来ない。あちらこちらで先生を呼ぶ声があがり、教師は一人ひとりつききりな勢いで見てないといけな。何もかも助けがあるのである。

ところが、3回目の体験で3年生を見たとき、1年生と同じように接しようとしたら担任の先生に止められた。あまり助けなくてほしい、という。先生の気持ちとしては「3年生には今自立の力を養いたい。だから出来るだけ自分で出来ることは自分でさせたい。どうしても無理なときだけ、助けてやってほしい」というのである。その時に私は気がついた。ここは1年生のクラスではなく、3年生のクラスなのだ、と。小学生だから何でもかんでも助けるのが教育ではなく、その学年に見合った指導

があるのである。一見当たり前のようだが、その当たり前なことに私はその時まで気付かなかった。

次に小学校を訪れ5年生をみたが、なるほど、皆しっかりしていて、自分のことは自分でできる。むしろ、もはや先生の手助けなどいらぬ感じであった。さらにその感じを深めたのが運動会であり、全学年と触れ合うことのできたその学校行事は、児童たちの上の学年にいけばいくほどしっかりし、先生たちの接し方もあまり干渉しないようなものに変わっているのがよくわかった。

今回のボランティア体験で私は、「見守ることも指導」の意味と大切さがよくわかった。小学生だからなんでもかんでも干渉し助けるのではなく、学年ごとに段階を踏んで少しずつ自立の道へと歩ませているんだな、と感じた。



9月以降のボランティア募集校

- ・平塚市立みずほ小学校…平塚市北金目 545 番地
- ・平塚市立土屋小学校…平塚市土屋 3004 番地の 2 番
- ・平塚市立岡崎小学校…平塚市岡崎 3430 番地
- ・神奈川県立平塚湘風高等学校…平塚市田村三丁目 13 番 1 号

詳しくは資格教育課程支援室または鈴木研究室(6・216)まで。

編集後記

創刊号、如何でしたか?

学期末という事もあり、ボランティア活動の紹介と学生の体験談を中心に掲載しました。学生たちがボランティアを通じて、教師としての在り方、接し方を学んでいる事が伝わったと思います。

子どもと実際に触れ合いながら過ごすのは、時間を忘れるくらい楽しめます。中には楽しかった時間が忘れられず、自ら進んで継続している学生もいます。私も、その学生のうちの一人です。

今後も学校ボランティアが続いていく事を願っています。その為にも、この「E.S.V.」でボランティアの楽しさを知ってもらいたいと思います。

編集・カット担当 刈部真里

Special Thanks! (お世話になった方々)

福永翔也君…みずほ小学校の活動報告書の執筆。

『総合演習Ⅰ』履修者…各小学校の活動レポート提供。

「E.S.V.」を読んで下さった方々。

発行責任者 鈴木そよ子

連絡先
神奈川大学
湘南ひらつかキャンパス 資格教育課程支援室
電話: 0463-59-4111
FAX: 0463-59-5736
E-mail: kyoushoku-sho@kanagawa-u.ac.jp

資料14 学校ボランティア通信 E. S. V. Vol. 2



©Misato.K

学校ボランティア通信

E.S.V. Vol.2



©Misato.K

2010年10月27日発行

こんにちは。
皆さん、夏休みは楽しく過ごせましたでしょうか？山、海、夏祭りなど、いろいろと満喫できたかと思います。そんな夏の終わりと同時に、寒暖の差が激しい日が続いています。風邪には十分に気をつけて下さい。
さて、後期の授業がスタートしました。学校ボランティアも、新しいメンバーが17名加わって再開されました。今回は新しいメンバーに焦点をあてていきたいと思っています。



©Misato.K

後期のボランティア活動報告（9月・10月）

▼9月▼

9月は大学の授業が始まっていなかったため、平塚市立土屋小学校、平塚市立みずほ小学校で1名ずつの有志が学校ボランティアを行いました。
主な活動内容は、授業の手助けと、一緒に給食を食べることや、休み時間に一緒に遊ぶことでした。また、クラブ活動への参加や図工で使用する材料の用意などの活動もありました。

▼10月▼

10月13日から「総合演習1」の履修学生と有志をあわせて、土屋小学校21名、みずほ小学校3名の合計24名の学生がボランティアを開始しました。初めて学生ボランティアを体験する学生は、最初は大変なことも多いと思いますが、半期のボランティア活動を一生懸命頑張りと、皆さんのことを学んで欲しいと思っています。

ところで、前期のボランティアで先生方が感じたことを聞くと、仕事を手伝ってくれた際の感謝の言葉や、子ども達がボランティアの学生とふれあえる時間はとてもいいものであるというお話がありました。ですが、逆に、学生が大学の話をしていることに対する注意も見られました。学校ボランティアに慣れてしまって、気が緩んでいる人がいたのかもしれないですね。継続している学生の皆さん、学校ボランティアを通して何を学びたいか、というのをもう一度考えてみませんか？ただ、子供たちと触れ合うのが面白いから、楽しいからという理由だけで行き、終わらせてしまうのは勿体ないことです。

体験してみると、大変なことばかりではなく、楽しいことも沢山あるので、学生の皆さん頑張ってください。よろしくお願ひします！



©Misato.K

E.S.V. 談話室

ここでは、テーマに沿って、学生や小学校の先生から聞いた意見や感想などを掲載していきます。テーマは毎月変わり、その度に学生や先生から意見を集めていきます。

◆10月のテーマ：学校ボランティア活動への期待や意気込みは？

今月のテーマは、後期初めて学校ボランティアに参加した学生たちが、1回目の活動を経験したばかりのこのタイミングで、ボランティアに対する期待や意気込みを聞きました。

■せっかくの機会なので、先生がどのように授業を進めているか、子ども達に指導をしているのかを見ていきたいと思っています。（小林由人）

■私は、小学校ボランティアで子ども達との接し方などの、先生の動きを見て学びたいと思っています。言葉遣いや一人ひとりの対応を、気をつけて見たいと思っています。また、子ども達と一緒に活動することで、子ども達が先生に求めていることを学び、どのように行動すればいいのかを考えたいと思っています。（長谷川周一郎）

■全校児童から「さくちゃん」と呼んでもらう。担任の先生の指導の仕方などをしっかり見学してそこから学べることを見つける。特に、授業以外での子ども達との接し方を学びたい。バレーやサッカーなど休み時間内で遊べる限り遊ぶ。（佐久間達也）

■答えを出すだけの勉強ではなく、なぜそうなるのかなどと小学生と共に考えたい。また、勉強だけでなく、一日の生活を安全に過ごせるように、小学生と協力しながら学びたい。（石倉光博）

■小学生は1年生から6年生まで幅広い年齢の子ども達が授業を受けているので、学年ごとに先生がどのように授業をして、子ども達はどのように受けているのかをじっくり観察したい。（芳賀健介）

■今回学校ボランティアに行き、もっとときばき動けるようになりたいと思った。先生に言われたことをきちんとすぐに出来るようにしたい。（小此木彩）

■初めて学校ボランティアに参加してみて、行く前までは小学生と遊んだりして楽しく交流できるといった気分であったが、実際に行くと気持ちが一変した。学生という立場で参加したわけだが、接するのは保護者の方から預かった大切な子ども達であり、接し方によってはとても緊張感を持った。学校に入った時点で一人の「先生」としての自覚を持つ必要があると強く思った。これからボランティアに参加する時は、接する子ども達の変化（行動など）に敏感になり、また先生方の指導法や子ども達に対しての振る舞いなど、体験する一つ一つのことに注目していきたいと思う。（小西一徳）

■今は教えてもらう側で学校に通っているが、このボランティアでは教える側（先生）の目線でもいろいろな物事を見たり考えたりしたいと思う。小学生と一緒に給食を食べたり遊んだりする機会など減多にない

ので、限られた時間の中で、一人でも多くの子ども達とコミュニケーションをとりたいと思う。(鈴木幹大)

■1回目の学校訪問で、子ども達の元気に圧倒されると共に、子ども達と触れ合うことの楽しさを感じ取ることが出来た。その楽しさと共に、きまりを守ることの大切さや児童管理をさりげなく行うことを心掛けなければならぬということを感じ取った。こういうことは実際に現場に行かなければわからない事も沢山あるので、このボランティア活動を通して、いろいろと学んでいきたい。次にボランティアに行く時には、もっと子ども達と親しくなり、先生の動きに注目して自分の成長につなげていきたい。(堀健太)

■教育実習の事前学習と位置づけ、子ども達への接し方について、先生方をお手本として、自分なりのスタイルを見出せたらいいと思っています。なんでもかんでもやろうとせず、毎回目標やテーマを持って、ボランティアに臨むようにしたい。(三浦雄弘)

■子ども達と仲良くする。授業を見ることで、先生と子ども達の関係、接し方を学ぶ。(斎藤和宏)

■掃除や、先生の手伝いなどを言われなくても自分で積極的に行って、子どもたちの手本となれるように頑張ります。(小西良祐)

■学校ボランティアでは、とにかく見て学ぼうと思います。子ども達の表情、また自分が話し掛けたときの反応を目に焼き付けたいです。そうすることで、将来、子どもと接する場面において適切な対応ができると思っています。ある番組で「ほめる子育て」というテーマで教育心理学に携わる教授が講義をしていました。話によれば、教育心理学には「強化法則」という法則があり、それは正の強化と負の強化とに分かれるとのことでした。正の強化は例えば、「テストで校内10番以内に入れば、ご褒美をあげるわ。」のようなもの。負の強化は「ゲームし過ぎでしょ。罰としておやつ抜きよ」みたいなものだと言っておりました。当然のように教授は正の強化を肯定して、「スキップも加えてほめればとてもいい子に育つ!」と言っておりました。はたして本当でしょうか。このことをボランティア活動の中で実践してみたいと思います。(鈴木宏満)

■私が学校ボランティアに参加する目的は、年齢、性別を越えた人との交流です。特に小学校の場合は6歳くらいの子から始まり、幅広い年齢の人がいます。そうして色々な年齢の人と接することで、子ども達への対応の仕方や目上の人への接し方を学んでいけたらいいと思います。(工藤若菜)

■私は弟や妹もいないので、小さい子と関わるという経験があまりありません。なので、子ども達とどう接し方をすればいいのか考えながら学校ボランティアを経験したいです。また子ども達と友達のような感覚で接していきたいです。(小椋光)

■とにかく、子ども達が元気で活発で、ボランティアにも積極的に声をかけてきてくれるので、少しでも子ども達と仲良くなれるように、一緒に生活して、少しでも多くのものを感じ取りたい。(西田絃章)

■子ども達から遊んでくれと言われるようになる。楽しく接するけれど、メリハリをつけた接し方が出来るようにする。(大庭靖弘)

こうして見ると、新しいメンバーの一人ひとりが将来の教師像を思い描いて学校ボランティアに臨んでいますね。先生方の教育活動を継続的に参観でき、自分もお手伝いできるという貴重な機会を十分生かして、

初心を忘れずに頑張ってください!

ちなみに、私、刈部真里の目標は……「教師として気をつけなければならないことについて明確にする」です。来年度には教育実習を控えているので、実習の時に活かせるよう、先生方が気をつけていると思う部分をなるべく多く取り入れていきたいと思っています。

次回のテーマは

『先生に聞いてみたいこと』です。

ボランティアに参加したからこそ、先生方に聞いてみたいと思ったことがあるのではないのでしょうか?普段は先生方からじっくりお話を聞く機会はなかなかありません。そこで、次回の「E.S.V.談話室」で、学生が聞きたいと思っていることを先生方に答えていただこうと思います。



©Mikato K

10月以降のボランティア募集校

- ・平塚市立みずほ小学校…平塚市北金目 545 番地
- ・平塚市立土屋小学校…平塚市土屋 3004 番地の 2 番
- ・平塚市立岡崎小学校…平塚市岡崎 3430 番地
- ・神奈川県立平塚湘風高等学校…平塚市田村三丁目 13 番 1 号

他にも色々な場所でボランティアを募集しています。学校ボランティアへの参加は、教育実習や今後の教員としての経験値にもなっていくので、積極的に参加しましょう。

詳しくは、資格教育課程支援室または鈴木研究室(6-216)まで。気軽にご連絡。

編集後記

夏休みを挟んだので、久しぶりの発行となりました。

新しくボランティアに参加する学生達の紹介、そして期待や意気込みを中心とした今回の話題は、新しい企画「E.S.V.談話室」の最初の話題として相応しかったのではないのでしょうか。新しい学生にとっても、継続している学生にとっても、有意義なボランティアになるよう頑張っていけるといいですね。

それでは、また次回の発行にてお会いしましょう。

編集・カット担当 刈部真里

Special Thanks! (お世話になった方々)

『総合演習Ⅰ』履修者…「E.S.V.談話室」への意見提供

松本瑛右さん…編集サポート

「E.S.V.」を読んで下さった方々

発行責任者 鈴木そよ子

連絡先
神奈川大学
湘南ひらつかキャンパス 資格教育課程支援室
電話: 0463-59-4111
FAX: 0463-59-5736
E-mail: kyoushoku-sho@kanagawa-u.ac.jp

資料14 学校ボランティア通信 E. S. V. Vol. 3



© Misato.K

学校ボランティア通信

E.S.V. Vol.3

2011年1月11日発行

© Misato.K



新年明けましておめでとうございます！

毎日寒いが続いていますね。短い冬休みが終わり、これから大学は試験期間になります。後期最後の締めくり、頑張ってください！

さて、今回も学校ボランティアの活動報告やアンケート報告などの企画を用意しておりますので、皆さんの参考になってほしいと思います。

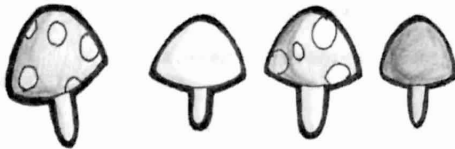
後期のボランティア活動報告（11・12月）

みずほ小学校では10月同様、3人のメンバーが、また土屋小学校では、21人のメンバーがボランティア活動に参加しました。どちらの小学校も、授業中の手伝いを主な活動とし、子ども達と一緒に給食を食べたり、遊んだりもして、学生は楽しく過ごしていました。また、校内清掃で活躍した人もいました。

土屋小学校では11月20日にりんどう祭があり、小学校は活気に満ちていました。りんどう祭前の学校ボランティアでは、各学年の出し物作りの手伝いもしていたようです。また、りんどう祭当日に参加してくれた学生もいました。また、みずほ小学校では12月17日に餅つき大会があり、数人の学生が参加してくれました。

りんどう祭、餅つき大会に参加して下さった学生の皆さん、お疲れ様でした。

今年のボランティア活動も無事に全ての活動期間が終わりました。こうして無事に終わることが出来たのも、たくさんの方々のおかげです。どうもありがとうございました！



© Misato.K

E. S. V. 談話室

ここでは、テーマに沿って、学生や小学校の先生から聞いた意見や感想などを掲載していきます。テーマは毎月変わり、その度に学生や先生から意見をまとめていきます。

◆11・12月のテーマ：先生に聞いてみたいこと

今月のテーマは、ボランティアに参加したからこそ聞きたいと思ったことを、学生の皆さんに書いてもらい、それらをアンケート形式にしたものを、土屋小学校の先生方に答えて頂きましたので、その回答を紹介します。

1. 子ども達への指導（注意することや褒めることについて）

- 指導のタイミングやコツはありますか？
- ・すぐほめる。皆の前で本気でほめる。

- ・第三者がほめていたという形で伝える。（例：「教頭先生が、君のあいさつがさわやかだっほめてたよ」）

■指導した後の接し方はどんな感じにしていますか？

- ・切りかえが大変だと思います。いつまでもひきずらないようにしています。
- ・注意した場合はフォローもするようにしている。その子が続けて気をつけていたらほめるようにしている。ほめた後は、他の子も頑張るので、その子だけでなく他の子もほめるようにする。

■指導全体を通して

- ・自分のことは自分でやらせる。
- ・必要なことは最後まで言わせる。
- ・命にかかわることや、人の尊厳にかかわることはしっかりと指導する。

2. ボランティア活動について

■ボランティアで手伝って欲しい教科は何ですか？

- ・音楽、図工、体育などで個別指導補助をしていただけると助かります。
- ・教科ではないのですが、掲示物をはったりはがしたりして頂けると助かります。教科では生活科の作業、野外活動の時に見守って頂けると助かります。

■授業への参加の程度はどのくらいがいいですか？

- ・見守ることも大切。授業中は子どもが必要なことを適切な言い方で聞いてきたら、応じていただくとありがたいです。
- ・進んでどんどん参加して下さい。

3. 子ども達との接し方や授業について

■子どもと接する時に一番気をつけていることは何ですか？

- ・一人ひとり違う事を意識し、同じことでも個別の時は厳しくしたり優しく言ったり気をつけている。
- ・わかりやすい言葉を使う。
- ・目線の高さ。子どもと同じか、子どもより低い位置から見上げるようにして真剣に話をする。聞く。
- ・すじを通す。ブレない。

■子どもの性格を見極める時の決め手はありますか？

- ・本気で遊んでいる時の子どもの姿
- ・決めつけない。いいところを見つける。

■授業を行う時に工夫していることはありますか？

- ・一つのことにつき一つの指示
- ・一つのこと完全に終わってから次の指示

■宿題の量の目安はありますか？

- ・多すぎず、少なすぎず、その日の様子を見て
- ・10分以内で終わるように！続けさせることが目安です。（1年生は）

4. 仕事について

- 教師になってやりがいを感じたことは何ですか？
 - ・「わかった」「できた」と子どもたちの目が輝いたとき
 - 一番大変だったことは何ですか？
 - ・訳のわからない親との対応(モンスターですね)
 - 一番良かったことは何ですか？
 - ・自分の指導が子どもたちに伝わって成長を感じた時
 - ・子どもたちの笑顔に出会える時
- 1日の仕事の時間はどのくらいですか？
 - ・7:30~19:00 休みはなしです
- 校内のルールや決まりの中で注意していることは何ですか？
 - ・廊下を歩く。先生も児童も。基本中の基本だがこれが大切。全児童が歩いて通行する学校は、生活が落ち着いた学校である。

どうでしたか？

学生の皆さんにとっては、普段ボランティアで見ているだけではわからないことも知ることが出来、得るものがたくさんあったのではないのでしょうか？

今回アンケートを作成するにあたって、学生の皆さんから出された質問を厳選して作成させて頂きました。なので、聞き取ったこと全てに回答を貰えなかった学生もいるかとは思いますが、ご了承下さい。

次回のテーマは

『学校ボランティアを終えて』です。

後期に初めて学校ボランティアを体験した学生が、数か月間でどんなことを学び、感じたか、それを次回の談話室で皆さんに触れて頂こうと思います。



© Misato.K

12月以降のボランティア募集校・ボランティア活動予定

今後の学校ボランティア募集校、予定されているボランティア活動についての紹介、報告です。

ボランティア募集校

- ・平塚市立みずほ小学校…平塚市北金目 545 番地
- ・平塚市立土屋小学校…平塚市土屋 3004 番地の 2 番
- ・平塚市立岡崎小学校…平塚市岡崎 3430 番地
- ・神奈川県立平塚湘風高等学校…平塚市田村三丁目 13 番 1 号

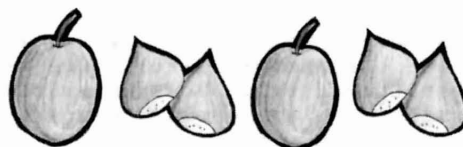
他にも色々な場所でボランティアを募集しています。学校ボランティアへの参加は、教育実習や今後の教員としての経験値にもなっていきますので、積極的に参加しましょう。

詳しくは、資格教育課程支援室または鈴木研究室(6-216)まで。気軽にごどうぞ。

ボランティア活動予定

- ・平塚市立みずほ小学校
期間：2月3日～3月25日
- ・平塚市立土屋小学校
期間：2月3日～3月25日

2校の春休み中のボランティア活動については、1月12日にガイダンスが行われます。学校ボランティアに参加してみようと思う学生は、6-201 前の掲示を見て、ガイダンスへ参加してみてください。



© Misato.K

編集後記

第3号、如何でしたか？

今月は、学生が聞きたいと思った質問を実際に先生方に回答して頂くという、初の試みを行いました。お忙しい中で、アンケートを回答して下さいました先生方、本当にありがとうございました。学生さんにとっては、ボランティアに限らず、今後教員として仕事をする時の参考になったと思います。

それでは、また次回の発行にてお会いしましょう。

編集・カット担当 刈部真里

Special Thanks! (お世話になった方々)

『総合演習Ⅰ』履修者…「E.S.V. 談話室」への質問提供
土屋小学校の先生方…「E.S.V. 談話室」への意見提供

「E.S.V.」を読んで下さった方々

発行責任者 鈴木そよ子

連絡先
神奈川大学
湘南ひらつかキャンパス 資格教育課程支援室
電話：0463-59-4111
FAX：0463-59-5736
E-mail：kyoushoku-shc@kanagawa-u.ac.jp

資料14 学校ボランティア通信 E.S.V. Vol. 4



学校ボランティア通信

E.S.V. Vol.4

2011年2月1日発行



1年間お疲れ様でした！

これから長い春休みとなりますが、それぞれ楽しい春休みを過ごして下さい。ここにきてインフルエンザが流行しているようですので、くれぐれも体調管理には気をつけて下さい。

また、今月から春休み期間中の学校ボランティアも開始します。参加する皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

今回は、E.S.V. 談話室スペシャルです。

E.S.V. 談話室

ここでは、テーマに沿って、学生や小学校の先生から聞いた意見や感想などを掲載していきます。テーマは毎月変わり、その度に学生や先生から意見を集めていきます。

◆1月のテーマ：学校ボランティアを終えて

今月のテーマは、初めて学校ボランティアを体験した学生が、数か月間で学び、感じたことを「総合演習1」のレポートとして、まとめました。その中から一部抜粋して紹介します。

子どもたちと先生

小椋 光

私は平塚市立みずほ小学校に行き、学校ボランティアとして小学生の授業の手伝いをする事、小学生と一緒に給食を食べること、休み時間に一緒に遊ぶことなどを体験しました。

最初に小学校に行った時は、子どもたちに受け入れてもらえるのか、仲良くできるのか、ちゃんと教えられるのか、などいろいろ考えてしまい緊張しましたが、行ってみると子どもたちの方から「一緒に遊ぼう」、「一緒に給食食べよう」とたくさん近寄ってきてくれてとてもうれしかったです。本当は私の方から子どもたちに話しかけていかなければならないはずなのに、子どもたちに不安を取り除いてもらいました。ずっと年上の私が緊張してなかなかできないことを、子どもたちは簡単にやっつけてしまふんだなと感じました。このとき子どもから学ぶことはたくさんあるなと強く感じました。

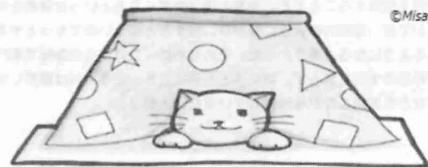
最初に担当したのは1年生でした。1年生は落ち着きがない子も多く、授業に集中できない子や教科書を出していない子もいて一緒に机の中から教科書を見つけてあげたりしました。担任の先生はたった一人で児童一人一人に気を配らなければならないのでとても大変だなと思いました。

次に担当したのは2年生で音楽の合唱の授業でした。私は、みんな上手に歌えていると思ったのですが、先生たちはもっと上手に歌えるように「隣の人の声をちゃんと聞いて」とか「姿勢が悪いよ」と細かいところで指導していたので、びっくりしました。変に子どももあつかいをしてはいけないんだなと感じました。このとき、「子どもだから」といって、勝手に子どもたちの限界を決めてしまったのは私だということに気づきました。子どもたちは教えられるし、やればできるということを実感しました。私が勝手に限界を決めてしまったのは子どもたちの成長の妨げにもなるので、これは一番やってはいけないことだと感じました。そのためには、子どもたちと同じ目線で物事を見てみようと思ふことが大切なんだなと思いました。

叱ることも大事

鈴木 幹大

学校ボランティアを体験してみて気がついたこと・学んだことはたくさんあるが、中でも特に印象に残っていることがある。小学生はまだ小さいし、先生が色々伝えても分からないこともあるだろうから、子どもに多少注意することがあっても、強く怒ることはそうないだろうと思っていた。しかし、話を聞いていない子どもや、授業中に先生が注意したにもかかわらず喋っている子どもには、小学生だからといって甘やかすのではなく、強めの口調で叱っていた。最終的に叱った後は優しく注意したり同じようなことは2度としないように声を掛けていたが、小学生にそこまで叱るのかと思うくらい強く叱っていた。そのクラスの担任の先生と話す機会があったので、色々なお話を聞くことが出来たが、低学年だからと言っていつも甘やかしていると、これから学年があがってもけじめがつかなくなるので、時には怒ることも大事だということをおっしゃっていた。話を聞いてみて、時と場合によっては甘やかすだけではなく、叱ることも子どもを成長させるうえでとても大事な事なんだなと感じた。



教師の大変さ

斎藤 和宏

児童に対する先生方の対応や態度または児童の反応をみることは、とても勉強になりました。例えば大学生だったら許されてしまうことも小学校では厳しく叱っていて、こういうことも注意をしなければいけないのかと思うこともありました。また、6年生と1年生では児童への対応や態度、教えることは全然違うということが分かりました。これは担任の先生の考え方にもよると思いますが、私がみて感じたことは1年生では生活の態度をしっかり勉強し、質問や意見をよく言う元気いっぱいいるクラスでした。6年生ではもう生活の態度もしっかりして、中学へ行くため授業の勉強をちゃんとやっている感じがしました。6年生は学校のリーダーになって下級生をまとめていて、上級生としての自覚がすごくあり、とても良い教育になっていると思いました。

更に思ったことは学年の差ももちろん関係すると思いますが、クラスによる雰囲気というのがそれぞれあるということです。そしてそれは担任の先生が大きく関係しているように見えます。どのクラスもとても良い雰囲気ですが、例えば5年生と1年生は元気なクラス。6年生と2年生は真面目なクラスという印象をもちました。もちろん毎日みてるわけではないので確信はないのですが、それでも担任の先生の影響でクラスの雰囲気はすごく変わるのだと実感できました。教師というのは重大な職業だとも思い、面白そうだなとも思うことができました。

小学校は義務教育の中で生活態度や規則には一番厳しいところだと思います。中学-高校-大学といくにつれて大人になり、すこし生活態度や規則がゆるくなってしまいます。実際私が小学校へ行くと本当にみんながしっかりしていてびっくりします。中学、高校の教師になろうと思っている私にとって、この規則が一番厳しい小学校のボランティアをやることはとても貴重で、今後教師になったときに絶対に役立つ経験になったと思います。

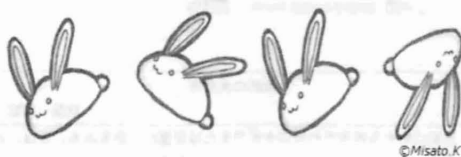
教師の在り方

小西 一徳

思ったこととして、どの教科でも子ども達が学んでいる一つひとつのことに意味があることを伝えるのはとても大変だと思った。また、単純な計算であっても、どうしてその答えになるのかという“過程”を大事にしているのだと授業を見学して思った。小学生は感受性が豊かな年代であると思うのでいろんなことに興味を持ち、疑問を持つことが多いと思う。そのような、ある意味人生で学ぶことに対して手探りの期間における子ども達に、ちゃんとした意味を教えることは大切だと強く思った。

中学校や高校に上がると“受験”といった壁が待ち構えている。(受験に対する捉え方は人それぞれであると思うが...) 受験は合格が最終目標であるため、“いかにして点数を取るか”や“答えを出すための解き方はどうすればいいか”など結果ばかり求めて、中学校・高校では学びの本来の楽しさが失われてしまうと思う。それらの時期の子ども達に、学校ボランティアで毎回の授業見学を通して感じた答えまでの“過程”の重要性を指導できるようになりたいと思う。

過程を理解することでその物事の構造や成り立ちといった背景を知ることができ、理解力の向上に繋がり、分かると楽しいのもっとやる気が出るようになると思うからだ。そのために、これからの教職で専門とする科目の学習を怠らず、常に子ども側に立ち、どうすれば理解しやすいかなどを意識しながら勉強していきたいと思う。



©Misato.K

先生じゃなくておにちゃん先生

小林 由人

この活動で私が児童と接するとき特に大切だと感じたことは、遠慮をしてはいけないということです。最初のボランティアに行く前、「こういう風に接すればいいのだろう」や「間違ったことを教えてはいけない」などマイナスなことばかり考えていました。そのため、児童と接するときどこかよそよそしくなってしまうたり、児童が質問しに来たときに的確なアドバイスをすることができなかつたり、上手く対応することができませんでした。しかし、児童はそんな小さいことはどうでもいいという感じで、私の服を引っ張りながら「ねえねえ、鬼ごっこしようよ」や「この問題はこういうこと?」と、おどおどしている私に遠慮なく話しかけてくれました。

このときから私は、遠慮なくどんでん話しかけてくれる児童とコミュニケーションをとるのに、自分自身が遠慮してはだめだと考えるようになりました。いつも使われないような丁寧な言葉遣いはやめて、鈴木先生

がよく言う“おにちゃん先生”のように振る舞いました。算数のプリントをやっている児童のところに行って、「できた?」や「すごいね」と自分の言葉で話しかけると、「余裕!」とか「こってこうでいいの?」と返ってきてくれ、児童との距離がぎゅっと縮まったように感じました。このように遠慮なんかせずにいつもの自分である、児童と一緒にいる時間が楽しく、ボランティアに行くことがとても楽しいと感じるようになりました。さらに、ボランティアの活動が楽しいと感じるようになると、授業展開や指導などいろいろなことに目が行くようになり、実際の現場でしか学べないことを吸収できたと思います。



どうでしたか?

共感する部分や、新たに気づいた部分など、それぞれ思うことが沢山あったと思います。今後も、この経験を活かして頑張りたいと思います。また、機会や時間があれば、学校ボランティアに進んで参加して欲しいとも思います。

後期の学校ボランティアに参加した皆さん、お疲れ様でした。



編集後記

第4号、如何でしたか?

最後の最後に無事発行出来たかと思っております。

そして、大事なお知らせがあります。「E.S.V.」は第4号をもって終了となります。4回の発行ではあったものの、この1年間、発行に向けて頑張るのは楽しくもありましたし、何より、皆のボランティア活動を紹介する場を作って下さった事に、とても感謝しています。

鈴木先生はじめ、この通信発行にご協力下さった皆様、ありがとうございました! また、読んで下さった皆さんも、ありがとうございました!

次の機会がありましたら、またお会いしましょう。「E.S.V.」発行終了後も、私はずっとボランティアを続けていきたいと思っておりますので、また会えるといいですね。

編集・カット担当 劉部真里

Special Thanks! (お世話になった方々)

「総合演習I」履修者…「E.S.V. 談話室」への活動レポート提供
「E.S.V.」を読んで下さった方々

発行責任者 鈴木そよ子

連絡先
神奈川大学
湘南ひらつかキャンパス 資格教育課程支援室
電話: 0463-59-4111
FAX: 0463-59-5736
E-mail: kyoushoku-shc@kanagawa-u.ac.jp